

令和5年度

青森県すこやか福祉事業団事業報告書

社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団

(令和6年3月31日現在)

目 次

第1	事務局	1
第2	障害児入所施設八甲学園	13
第3	養護老人ホーム安生園	28
第4	障害者総合福祉センターなつどまり	37
第5	青森県長寿社会振興センター	62
第6	青森県発達障害者支援センター	66
第7	ライフサポートあおば	70
第8	就労サポートセンターさつき	80
第9	特別養護老人ホームすこやか苑	86
第10	就労サポートセンターはくちょう	92

第1 事務局（法人本部）

I 事務局（総務課・キャリア支援課）

1 概況

令和元年度から施設運営に大きな影響を与えていた新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月に感染症法上の5類に移行した。法人内各事業所では感染症予防のために控えていた行事や対面での面会を再開させたり、外部への職員研修も増加したりと、人の往来が元に戻りつつある1年だった。

新型コロナウイルスによる入所控えやクラスターによる事業所活動の一時停止などの収入に与える影響は少なくなったものの、日用品等の物価高騰は引き続き支出に影響しており、令和3年度からの報酬単価据置きの中、支出削減の工夫を図る1年だった。

法人内事業所の運営においては、八甲学園でこだわりの店「つぼみ」を終了し、令和6年度から新たに「給食班」を立ち上げ施設内給食提供を行うこととし、また、ライフサポートあおばでは、令和6年度から児童発達支援事業を「児童発達支援センター」として事業の専門性を更に向上させ、ニーズに合わせた事業の展開を行う準備の年となった。一方、令和6年度開設予定としていた西平内中学校における新規事業の中止や、養護老人ホーム安生園の定員を100人から80人に変更する方向性の決定など、収支状況を踏まえた事業運営についても検討した1年だった。

人材不足は引き続き法人の大きな課題となっているが、新型コロナウイルスの5類への移行を機に参加型の企業説明会に積極的に参加したり、職員採用試験を複数回実施したり、新規採用者の確保に努めた。また、eラーニングの導入による法人内研修の充実や、「出生時育児休業」等の休暇制度を周知するなど、職員の働きやすい環境を整え、人材育成・人材定着に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 事務局総務課

① 安定した経営基盤の強化

数年続いている新型コロナウイルス感染症や物価高騰は、引き続き法人運営に影響を及ぼし、各施設とも支出削減の工夫をこらしながらの運営だった。しかし、これらについては各自治体から補助金が出ることとなり、「新型コロナウイルス感染症に係るサービス継続支援事業費補助金」（青森県）20,766千円、「物価高騰支援対策金」（青森県・青森市）9,860千円の補助金を得ることができた。また、固定資産についても、「公用車安全装置導入補助金」（青森市）693千円、「ロボット導入補助金」（青森県）398千円の補助金を活用することができ、その他も含めて合計約35,000千円の自治体補助金により必要経費の補填をすることができた。ただし、新型コロナウイルス関係の補助金については、5類移行に伴い令和5年度で打ち切りが決定した。また、物価高騰補助金についても、令和6年度の報酬単価改定により見込みが立たない状況であるため、今後は補助金に頼らずに運営を行う必要がある。

電気代の値上げも引き続き懸念事項ではあるが、令和4年度に比べると値上げ傾向が落ち着いていることから法人全体での電気代は大きく下がり、また、県民福祉プラザにおいては青森県から一部電気代補填分の受託事業収入があったことにより、法人全体の収支差額回復に大きな影響があった。

令和5年度は全体での収支差額が約54,000千円と前年度の赤字収支差額から大

幅な改善となったが、前期末資金残高取崩 80,000 千円によって収入が黒字になった事業所もあるため、令和 5 年度の法人全体での積立金計上は見送ることとした。

② 新規「基本計画」の確実な推進

令和 4 年度に、令和 5 年度から令和 7 年度までの新しい「基本計画」を策定し、令和 5 年度はこの計画に沿って事業運営する最初の年となった。

「基本計画」は単年度の「事業計画」と連動しているため、令和 5 年度においては、「事業計画」について所属長会議で中間精査等を実施し、進捗状況を確認した。今後、「基本計画」においても中間精査等を実施し、課題に対する取組内容と収支計画を確認していくこととする。

③ 「財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援」の実施

当法人は会計監査人非設置法人（“収益が 30 億を超える法人または負債が 60 億円を超える法人”が会計監査人設置対象）であるが、会計監査人非設置法人の努力義務である「財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援」について、令和 5 年度に税理士の協力を得て初めて実施した。

令和 5 年度については、法人内 2 施設を対象とし、令和 5 年度上半期の経理処理について中間精査を実施した。また、これに伴い対象施設の法人内内部監査を省略し、令和 6 年度に実施する監事監査においても上半期分を省略し、事務処理軽減にもつなげることとした。ただし、実施した施設から、内部監査については今までどおり実施した方がよいとの意見があったため、令和 6 年度は対象施設を変更して「財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援」を続けながら、併せて内部監査でも経理処理について確認していき、経理業務の精度を上げていくこととする。

④ ICT 導入による業務改善の構築

令和 4 年度から引き続き、Zoom を活用した会議や研修に参加したり、グループウェアシステムを活用して各職員のスケジュール管理を進めたりと、既存の ICT については速やかな対応が可能となっている。

法人内の所属でも、グループウェアシステムを導入し事務局との連携ができ始めているが、一部の所属のみであるため、今後各所属との連携を目指していく。

また、給与関係については、給与明細の電子交付については引き続きほぼ全職員に対して行っているが、年末調整の web 申告については個人情報確認等の課題があり、一部職員の実施に留まった。

⑤ 「発達障害支援力強化事業」の推進

令和 4 年度に試行的に「発達障害支援力強化事業」を実施し、これを踏まえて令和 5 年度も事業を実施した。令和 5 年度はしらかば寮及び就労サポートさつきの 2 事業所を対象として、コンサルティとなる職員の発達障害の知識や支援力の向上につなげた。

また、事務局キャリア支援課及び発達障害者支援センター「ステップ」と共催して「発達障害支援力強化に関する研修会」を実施し、知見が深い講師からの講義により法人全体で発達障害に関する知識を得たほか、「コンサルテーションフォローアップ研修会」にて令和 5 年度及び令和 4 年度に事業を実施した事業所（生活介護はっこう及びデイサービスセンターあおば）のフォローアップを実施した。参加者からは、新たな知識の習得だけでなく、現在実施している支援の自信につながったという意見があった。

今後も当法人の強みとして、「発達障害支援力強化事業」を通して発達障害支援の向上を図っていく。

(2) 事務局キャリア支援課

① 人材確保

少子化に伴い各業種で人材不足に苦慮する中、当事業団でも会社説明会への参加や企業説明会の実施などを通して、求職者に対して企業の魅力を発信する取組を実施した。令和5年度の会社説明会については、規模の大小に関わらず15回参加・実施し、61人の参加者に対して企業説明を行った。新型コロナウイルスの第5類への移行を機に、従来のオンライン形式から参加型の企業説明会增加し、15回のうちオンライン形式は1回だけで、残りは全て参加型だった。

当事業団の職員採用試験は年々受験者数が減少しているため、1年を通して複数回実施した。こうした取組により、令和6年度新採用者は13人（内部登用者2人は除く）を確保することができた。また、令和4年度に続いて令和5年度も、高等学校新卒者（2人）を確保することができた。

■一般公募試験の実施状況

(単位:人)

種別	区分	応募者数	合格者数	辞退者数	備考
一般公募Ⅰ	一次募集	4	4	0	
	二次募集	1	1	0	
	三次募集	3	0	0	合格者なし
	四次募集	0	0	0	応募者なし
	五次募集	2	2	0	
	職種別	2	1	0	看護師
	職種別	1	1	0	看護師(令和5年度3月採用に変更)
職種別	2	2	0	事務員	
一般公募Ⅱ	—	2	2	0	
一般公募Ⅰ・Ⅱ合計①		17	13	0	
一般公募Ⅲ	—	4	4	1	すこやか苑支援員
		1	1	0	安生園支援員(令和6年度採用へ変更)
		1	1	0	八甲学園支援員
一般公募Ⅲ合計②		6	6	1	
総計(①+②)		23	19	1	

※一般公募Ⅰの看護師職1人については、令和6年3月に看護師が退職した所属があったため、令和5年度中に採用となった。

※一般公募Ⅲの支援員については、当初令和5年度中の採用予定であったが、応募者の事情により令和6年度採用に変更となった。

【種別の説明】

種別	内容
一般公募Ⅰ	令和6年度採用予定の、大卒・短大卒・専門学校卒・高等学校既卒者対象の採用試験。
一般公募Ⅱ	令和6年度採用予定の、高等学校新卒者対象の採用試験。
一般公募Ⅲ	令和5年度中に採用する欠員補充のための正職員採用試験。

■内部登用試験の実施状況

(単位:人)

試験種別	応募者数	合格者数	備考
内部登用	3	2	R5. 11/24、11/28 実施

② 人材育成

「青森県すこやか福祉事業団人材育成計画」に基づき、新任職員研修、階層別研修、専門分野別研修など、カテゴリーに応じた研修を計画的に開催し、職員の資質向上に努めた。

内容の見直しや新たな研修講師の依頼など、研修プログラムの見直しを行ったほか、Web上で研修が受講できるeラーニング「サポーターズカレッジ」を導入するなど、職員が研修を受講しやすい環境整備を進めた。

研修実績については、別紙1「令和5年度法人内研修実施状況」(P9)参照。

③ 人材定着

新採用者は、将来の組織運営を担う貴重な人材である。そのため、新任職員の育成やフォローを行う「エルダー制度」や、自身のキャリアの振り返りを行い、職員一人ひとりが仕事に対してやりがいを感じ、目標をもって仕事に臨むことができるよう支援する「キャリア面談」を実施して、人材の定着に努めた。

また、新採用となった正職員の人材定着を図ることを目的に「新採用者フォローアップ訪問」を計画したが、予定していた回数は実施できなかった。令和6年度は、予定どおり実施できるように計画的に訪問することとする。

④ 職場環境改善

近年、福祉業界では人材不足の解消や業務の効率化を目的に「介護ロボット」や「ICT機器」を導入する動きが進んでいる。当事業団でも、ここ数年「職場環境改善委員会」を通して介護機器の導入促進や、法人内の取組事例などの情報共有に努めてきた。令和5年度には、デモ機を活用して導入を検討する所属があったほか、実際に補助金を活用して見守り介護システムを導入する所属があるなど、導入に向けた意識変化が感じられる一年だった。

仕事と家庭の両立を図るために、当事業団ではチラシなどにより「子の看護休暇」取得を促進してきた。令和元年度以降、毎年正職員と非正規職員合わせて20人以上が子の看護休暇を取得してきたが、令和5年度はこれまでで最多の41人が取得した。

また、令和4年10月の育児・介護休業法の改正に伴い施行となった「出生時育児休業(産後パパ育休)」制度については、令和5年度に4人の男性職員が育児休業を取得するなど、少しずつ制度が周知され定着しつつある。

⑤ 情報発信

当事業団のホームページについては、令和4年度にアクセスした年間平均ユーザー数が595ユーザーだったが、令和5年度は551ユーザーでわずかに減少した。また、SNSによる情報発信について計画していたが、実施できなかった。これまで活用していた就職・求人サイト「マイナビ」については、費用対効果を踏まえ令和5年度末で終了することとした。そのため、求職者に対しては、大学や関係機関が主催する企業説明会への参加回数を増やしたり、個別の説明会を積極的に開催したりするなど、直接アプローチする機会を重視していくこととする。

3 職員の状況

職名	事務局長 (キャリア支援課長兼務)	次長 (総務課長兼務)	総務課 事務員	キャリア支援課 事務員	計(人)
職員数	1	1	3	2	7

※理事長、専務理事、常務理事を除く。

4 事業の実施状況

(1) 評議員会

事業団定款第9条～14条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第12回評議員会 令和5年6月19日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：評議員6人、理事6人、その他8人 ③報告事項 報告第1号：令和4年度事業報告の件 報告第2号：基本計画（令和5年度～令和7年度）策定報告の件 ④議決事項 議案第1号：令和4年度計算書類及び財産目録の承認の件 議案第2号：理事5名の選任の件 議案第3号：監事2名の選任の件 議案第4号：役員報酬規程の一部改正の承認の件

(2) 理事会

事業団定款第23条～27条の規定に基づき、次のとおり開催した。

回及び開催時期	内 容
第34回理事会 令和5年5月31日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：理事6人、監事2人、その他8人 ③報告事項 報告第1号：令和4年度苦情等受付・解決状況について 報告第2号：令和4年度行政監査の結果（未報告分）について ④議決事項 議案第1号：令和4年度第4次補正予算（理事長専決分）の件 議案第2号：令和4年度第6次補正予算（理事長専決分）の件 議案第3号：令和4年度事業報告書（案）の件 議案第4号：令和4年度決算書（案）の件 議案第5号：令和5年度第1次補正予算（案）の件 議案第6号：世話人就業規則の一部改正（案）の件 議案第7号：役員報酬規程の一部改正（案）の件 議案第8号：理事の改選（案）の件 議案第9号：監事の改選（案）の件 議案第10号：評議員選任：解任委員の改選（案）の件 議案第11号：第12回評議員会の招集（案）の件
第35回理事会 令和5年6月19日	①場 所：県民福祉プラザ3階「多目的室3A」 ②出席者：理事6人、監事1人、その他3人 ③議決事項

	<p>議案第1号：理事長の選任（案）の件 議案第2号：業務執行理事の選任（案）の件</p>
<p>第36回理事会 令和5年11月7日</p>	<p>①場 所：県民福祉プラザ2階「多目的室2A」 ②出席者：理事6人、監事2人、その他8人 ③報告事項 報告第1号：令和6年度からの県民福祉プラザ受託事業について 報告第2号：八甲学園就労継続支援B型事業所はっこの令和6年度からの事業展開について 報告第3号：養護老人ホーム安生園における定員の削減について ③議決事項 議案第1号：令和5年度第2次補正予算（理事長専決分）の件 議案第2号：令和5年度第3次補正予算（案）の件 議案第3号：準職員就業規則の一部改正（理事長専決分）の件 議案第4号：非常勤職員就業規則の一部改正（理事長専決分）の件 議案第5号：職員給与規程の一部改正（理事長専決分）の件 議案第6号：ライフサポートあおばにおける児童発達支援事業のセンター化（案）の件</p>
<p>第37回理事会 令和5年3月12日</p>	<p>①場 所：県民福祉プラザ3階「共用研修室1」 ②出席者：理事6人、監事1人、その他8人 ③報告事項 報告第1号：令和5年度行政監査の結果について 報告第2号：令和5年度福祉サービスの質の評価実績について ④議決事項 議案第1号：令和5年度第4次補正予算(理事長専決)の件 議案第2号：令和5年度第5次補正予算(案)の件 議案第3号：年度開始前の契約準備に係る理事長専決について 議案第4号：令和6年度事業計画（案）の件 議案第5号：令和6年度当初予算（案）の件 議案第6号：職員就業規則の一部改正（案）の件 議案第7号：職員給与規程の一部改正（案）の件 議案第8号：経理規程の一部改正（案）の件 議案第9号：安生園の令和6年度からの定員削減について 議案第10号：旧西平内中学校校舎における新規事業について 議案第11号：令和6年度役員等賠償責任保険契約（案）の件 議案第12号：施設長等人事（案）の件</p>

(3) 各種監査・第三者評価

監査種別	実施日
①青森県すこやか福祉事業団監事事前出納監査	令和5年4月24・26日
②青森県すこやか福祉事業団監事監査（会計監査） 〃（業務監査）	令和5年5月8・9日 令和5年5月10日
③青森県すこやか福祉事業団内部監査 ・プラザ内事業所(事務局・プラザ管理室・長寿・発達) ・八甲学園	令和5年11月14・15日 令和5年11月9日

<ul style="list-style-type: none"> ・安生園 ・すこやか苑 ・なつどまり ・就労サポートセンターさつき ・ライフサポートセンターあおば ・就労サポートセンターはくちょう ・青森障害者就業・生活支援センターすこやか 	<p>令和5年10月4・5日 令和5年11月22日 令和5年10月23・30日 令和5年11月29日 令和5年10月27日・11月1・24日 令和5年11月30日 令和5年11月13日</p>
④財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援 <ul style="list-style-type: none"> ・すこやか苑 ・安生園 	<p>令和5年11月1日 令和5年11月6日</p>
⑤青森県東青地域県民局監査指導課による指導監査 <ul style="list-style-type: none"> ・八甲学園(施設入所) 	<p>令和5年7月(書面監査)</p>
⑤青森市指導監査課による指導監査、実地指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサポートあおば(チャレンジすこやか) ・安生園(ヘルパー・居宅事業所) ・すこやか苑(地域密着型・短期入所) 	<p>令和5年9月24日 令和6年2月16日 令和6年2月21日</p>

(4) 法人内会議・委員会

会議名	内 容
①所属長会議 (7回開催)	各所属と意思疎通を図り、既存事業の課題等の検証や新規事業の模索等について検討し、事業団の安定経営の推進に努めた。
②総務担当者会議 (3回開催)	庶務、経理事務の適正化に向けた施策の確認、各種制度改正やそれに関する事務取扱に係る情報共有を行った。
③人材確保・育成委員会 (2回開催)	人材確保、育成、定着に係る取組状況についての情報共有を行ったほか、事業団の人材育成計画について検討した。
④職場環境改善委員会 (1回開催)	ICTの活用による業務改善取組状況や、年休・特休の取得状況等、法人内の職場環境についての確認や情報共有を行った。
⑤監査委員会 (2回開催)	法人内の内部牽制の強化と、法定監査受検に対応できる人材の育成を目的とした内部監査実施に向けて、内容を検討した。委員会形式のほか、分野別(処遇、経理)で勉強会を実施した。
⑥発達障害支援力強化事業検討委員会 (2回開催)	前年度試行的に実施した当事業の課題を踏まえ、引き続き「発達障害支援力強化事業」を2事業所で実施し、職員の発達障害支援の資質向上に努めた。
⑦安生園施設整備検討委員会 (2回開催)	安生園の収支状況の課題について情報共有し、主に安生園入所者の定員変更について検討した。
⑧環境整備委員会 (都度実施)	各施設の所有地の環境整備や薪用の原木の伐採、稲作支援等を実施した。

(5) 職員の福利厚生

非正規職員(一部を除く)を含む全職員を対象としてソウェルクラブに加入(掛金事業主負担)し、福利厚生の充実を図った。

また、法人認定のクラブ活動に対する助成金支援制度や、資格取得者に対する奨励金支給制度を実施した。

(6) 社会福祉事業団関連会議等

会議名	実施日	場 所	出席者
①第1回全事協理事会	令和5年6月9日	東京都千代田区 全国都市会館	2人
②ブロック事業団連絡協議会 事務局長会議	令和5年7月14日	岩手県盛岡市 ホテルトホポリタン盛岡ニューウイング	1人
③第1回ブロック事業団 連絡協議会	令和5年7月27日 ～28日	福島県西白河郡西郷村 福島県社会福祉事業団	2人
④第56回全国社会福祉事業団 大会	令和5年10月19日 ～20日	千葉県千葉市 ホテルグリーンタワー幕張	1人
⑤ブロック事業団連絡協議会 職員研修Ⅱ	令和6年2月15日	青森県青森市【開催担当県】 アートホテル青森	8人

5 研修の参加状況

(1) 外部研修

研修名	実施日	場 所	出席者
①社会福祉法人運営の基本対 策セミナー	令和5年6月9日	アウガ	1人
②復職支援と復職後の雇用管 理について	令和5年6月30日	ポリテクセンター青森	1人
③障害者雇用促進セミナー	令和5年7月3日	青森県立青森第二高等養護 学校	1人
④都道府県経営協セミナー	令和5年8月18日	ウェディングプラザアラス カ	1人
⑤あおもり障害者ワークフェ ア	令和5年9月14日	ホテル青森	1人
⑥女性活躍推進説明会	令和5年10月3日	県民福祉プラザ	2人
⑦ブロック事業団連絡協議会 職員研修Ⅰ	令和5年11月16日	秋田県秋田市 秋田拠点センターアルヴェ	1人
⑧専門性を向上させる研修	令和5年11月20日	東京都千代田区 全国都市会館	2人
⑨青森県経営協AI研修会	令和5年12月18日	ウェディングプラザアラス カ	3人
⑩令和5年度処遇改善加算取 得セミナー	令和6年2月6日	オンライン研修	1人
⑪第2回ブロック事業団 連絡協議会	令和6年2月15日	青森県青森市【開催担当県】 アートホテル青森	6人
⑫障害者雇用納付金制度事務 説明会	令和6年2月21日	ポリテクセンター青森	1人
⑬決算法人説明会	令和6年3月22日	ホテル青森	1人

(2) 法人内研修

詳細については、別紙1「令和5年度法人内研修実施状況」(P9)参照。

(別紙1)「令和5年度法人内研修実施状況」

月	日	曜日	研修名	講師	人数(人)
4	12	水	新任職員育成研修	セミナー東北 鎌田昌子氏	10
	20	木	新任職員研修(第1回目)	理事長、専務理事、事務局長、町田所長	5
5	10	水	アンガーマネジメント研修	中野副所長	23
	11	木	メンタルヘルス研修(前期)	医療法人芙蓉会 村上拓也氏	16
	17	水	初級職員研修	セミナー東北 鎌田昌子氏	14
	19	金	初級支援職員研修	前中所長	8
	31	水			4
6	13	火	キャリア面談事前研修	石岡百合子氏	18
	15	木	キャリア面談事前研修	石岡百合子氏	6
7	12	水	労務管理研修	セミナー東北 溝江隆仁氏	13
	20	木	ファシリテーター養成研修	セミナー東北 大竹辰也氏	8
	31	月	3年目職員レベルアップ研修	渋谷総務企画監	9
8	1	火	中級職員研修	セミナー東北 大竹辰也氏	14
	7	月	上級職員研修	セミナー東北 大竹辰也氏	7
	9	水	2年目職員レベルアップ研修	事務局長、町田所長	12
	22	火	インボイス制度に関する研修	税理士 長谷川有実氏	18
	28	月	管理職研修	セミナー東北 吉田登氏	15
	29	火	新任職員研修(第2回目)	理事長、専務理事、事務局長、町田所長	7
9	12	火	交通安全研修(なつどまり会場)	㈱ムジコ・クリエイト青森	6
	14	木	交通安全研修(青森会場)		7
	22	金	年金制度研修	青森年金事務所 副所長 原田英和氏	12
10	2	月	内定者研修Ⅰ	理事長、専務理事、事務局長	7
	6	金	利用者支援理解促進研修(障害)	町田所長	9
	27	金	メンタルヘルス研修(後期)	生協さくら病院 小山智教氏	12
11	7	火	虐待防止研修(八甲学園)	青森大学 教授 船木昭夫氏	11
	8	水	利用者支援理解促進研修(高齢)	白鷗会 理事長 町田光司氏	14
	14	火	虐待防止研修(安生園)	青森大学 教授 船木昭夫氏	11
	14	火	事務局新採用職員研修	事務局長	1
	20	月	個人情報保護研修(オンライン)	㈱ジェイアイシーリスクマネジメント担当 高橋勝氏	31
12	4	月	ハラスメント予防研修	青森大学社会学部 船木昭夫氏	14
	21	木	新任職員研修(第3回目)	理事長、専務理事、事務局長、町田所長	10
	23	土	発達障害支援力強化に関する研修会	特定非営利活動法人それいゆ 吉永菜穂子氏	27
1	29	月	虐待防止研修(Zoom)	青森大学 教授 船木昭夫氏	14
2	9	金	内定者研修Ⅱ	理事長、専務理事、事務局長、給与担当 キャリア支援課で見学対応	9
	10	土	内定者研修Ⅲ		
3	4	月	新任職員育成研修Ⅳ	町田所長	1
	6	水	新任職員研修(第4回)	理事長、専務理事、事務局長、町田所長	5

Ⅱ 県民福祉プラザ管理室

1 概況

当県民福祉プラザの受託経営事業については、これまでと同様に円滑な貸館運営を実施し、自主事業においても事業内容を精査して実施した。

2 事業の実施状況

(1) 県民福祉プラザ受託経営事業（指定管理受託事業）の安定的な運営

新型コロナウイルス感染症が5月8日より「5類感染症」に引き下げられたこともあり、貸館利用数がコロナ禍に比べ徐々に戻ってきた。また、令和4年度の改修工事で貸出制限していた県民ホールが令和5年度より貸出再開したこともあり、全体の利用者数も戻りつつある。

支出については依然として物価上昇が続いており、光熱水費が増額となった。館内照明の節電対策や、入居団体を含む利用者へ節電協力を行ったが、光熱費については当初の委託料では賄いきれない状況となり、受託経営事業の収支が圧迫された。

研修室等の使用実績については、有料研修室利用者数は延べ63,736人（計画比63.7%）、有料研修室利用件数3,098件（計画比103.2%）となり、利用者数は計画に届かなかったが、利用件数は当初の計画を達成した。利用者数については、昨今のオンライン会議が定着したため減少したが、研修室利用は計画目標に達した。

詳細については別紙2「令和5年度県民福祉プラザ利用状況」（P12）のとおり。

(2) 県民福祉プラザ自主事業の積極的な運営

自主事業で実施した健康教室については、講師の都合がつかず、当初計画した開催回数を実施できなかった。ただし、毎年実施してきていることから参加者の定着がみられ、県民福祉プラザに来館するきっかけづくりにつながった。

福祉に関する講演会では、当事業団のサークル活動である、アニマルセラピーサークルの講師を招き、「動物のことについてもっと知ろう～さがせばみつかる地域・社会福祉とのつながり～」を開催し、保護動物を通じて地域と福祉をつなぐきっかけづくりとなった。

エントランスホール活用については、新規福祉事業所の出店がみられ、出店の事前告知も行うようになったことから、来館者による往来が増え、一定の賑わいが創出された。

自主事業全体の収入は575千円の目標に対し、371千円にとどまった。

【自主事業内容】

イベント名	期間	延べ回数	延べ参加数	売上
健康教室	令和5年5月29日から 令和6年1月9日まで	10回	107人	53,500円
エントランス出店	令和5年6月12日から 令和6年3月28日まで	29事業所		31,500円
アート展	①令和5年6月22日から 7月13日まで ②令和5年9月13日から 10月4日まで	2回	110作品	-
親子ものづくり教室	令和5年7月1日から 令和6年2月4日まで	5回	93組	83,000円

青森県立郷土館連携展	令和5年7月15日から 8月31日まで 令和5年8月5日 (特別講演)		4人 ※特別講演	-
ヨガ教室	令和5年9月7日から 12月14日まで	14回	85人	90,000円
福祉に関する講演会	令和5年10月9日		22人	11,500円
将棋まつり	令和6年1月6日		69人	102,000円

(3) 福祉機器展示コーナーの充実と活用

2階福祉機器展示コーナーの展示については、来館者に最新の福祉機器を紹介できるよう、いす式階段昇降機と介護用リフトを更新したほか、忘れ物防止タイマー、階段昇降補助器具の新規展示を行った。

また、展示コーナーとモデルルームの外部見学では、小学校の校外学習や、大学生、団体など、延べ61人の見学案内を受け入れた。

3 職員の状況

職名	室長	事務員	夜間事務補助員	計(人)
職員数	1	5	2	8

4 研修の参加状況

研修名	実施日	場 所	出席者
メンタルヘルス研修 (法人内研修)	令和5年5月11日	八甲学園	1人
社会福祉施設職員経理研修	令和5年6月15日	オンライン受講	1人
甲種防火管理者講習(新規)	令和5年6月28日、29日	岩木文化センター あそべる	1人
虐待防止研修(法人内研修)	令和5年11月7日、14日	八甲学園	4人
青森シニアカレッジ	令和5年4月～6年3月 (期間中3回受講)	県民福祉プラザ	3人

(別紙2) 令和5年度県民福祉プラザ利用状況

NO	階	研修室名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計	
1	4F	県民ホール	利用件数(件)	18	13	23	27	6	14	20	18	16	5	9	13	182
			利用者数(人)	1,484	1,168	2,468	2,321	700	1,315	2,306	2,246	1,732	356	1,169	623	17,888
2	4F	大研修室	利用件数(件)	17	16	23	23	18	27	24	28	21	11	18	17	243
			利用者数(人)	570	755	761	877	731	885	927	1,008	681	566	740	869	9,370
3	4F	中研修室	利用件数(件)	18	21	27	26	25	27	25	28	17	13	14	19	260
			利用者数(人)	495	761	719	644	501	552	598	705	382	250	363	495	6,465
4	4F	小研修室	利用件数(件)	28	34	23	31	23	43	41	23	36	26	35	39	382
			利用者数(人)	298	396	256	327	261	430	506	217	350	241	364	395	4,041
5	4F	多目的室4A	利用件数(件)	25	27	28	14	20	24	25	14	26	15	21	22	261
			利用者数(人)	419	460	606	281	356	460	562	222	446	224	282	386	4,704
6	4F	多目的室4B	利用件数(件)	12	20	16	20	16	23	20	13	22	12	18	14	206
			利用者数(人)	259	427	307	447	320	395	469	210	368	270	477	284	4,233
7	3F	講師控室1	利用件数(件)	10	17	13	14	18	24	18	17	13	15	20	17	196
			利用者数(人)	54	52	172	88	111	102	68	51	77	43	60	134	1,012
8	4F	講師控室2	利用件数(件)	5	12	11	20	15	18	23	17	9	12	7	4	153
			利用者数(人)	9	26	28	50	46	46	63	45	22	52	26	11	424
9	3F	多目的室3B	利用件数(件)	15	20	28	29	28	28	33	38	17	14	21	15	286
			利用者数(人)	175	255	294	424	399	491	448	466	266	208	257	213	3,896
10	3F	多目的室3C	利用件数(件)	18	23	21	32	33	30	30	27	18	15	15	17	279
			利用者数(人)	112	133	133	173	193	156	199	160	112	104	100	113	1,688
11	2F	多目的室2A	利用件数(件)	13	23	18	32	25	25	29	25	18	11	14	14	247
			利用者数(人)	312	611	353	783	650	665	594	494	411	304	275	267	5,719
12	2F	多目的室2B	利用件数(件)	28	26	31	31	29	33	35	28	32	24	26	28	351
			利用者数(人)	313	270	321	355	284	343	391	297	320	252	286	293	3,725
13	5F	調理実習室	利用件数(件)	2	3	5	8	7	3	4	6	4	3	5	2	52
			利用者数(人)	20	28	58	97	53	40	38	62	67	30	48	30	571
計			利用件数(件)	209	255	267	307	263	319	327	282	249	176	223	221	3,098
計			利用者数(人)	4,520	5,342	6,476	6,867	4,605	5,880	7,169	6,183	5,234	2,900	4,447	4,113	63,736

【参考】

	令和4年度	令和5年度	前年度比
利用件数(件)	2,617	3,098	481
利用者数(人)	46,782	63,736	16,954

第2 障害児入所施設八甲学園

1 概況

八甲学園の運営にあたっては、令和5年度においても基本理念のもと、利用者の人権の尊重、利用者の有する能力に応じ、健やかな成長ができるよう、また、地域社会の一員として日常生活や社会生活が営むことができるよう、利用者や家族等の思いに寄り添い、利用者、家族、地域社会から信頼される施設運営を実施してきた。

児童入所支援としては、今後の在り方や方向性をより安定的なものとするため、現状の定員10人の定着を図るよう事業運営をした。併せて、多様化する地域住民の福祉ニーズの把握や学校、関係機関・団体との連携に努めながら、通所事業、共同生活援助事業における利用者獲得や利用率のアップ等に努め、建物の老朽化も含めた八甲学園全体のあり方や方向性を検討した。

また、働きやすい職場づくりの取組として、年次有給休暇の促進や時間外労働の削減、管理職やエルダーとの面談を含め、職場での話しやすい環境づくりに取り組み、職員のメンタル不調の早期発見・早期対応や、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境の整備に努めた。

引き続き新型コロナウイルス感染症の状況に対応しながら、地域や関係機関と連携し、より良質な福祉サービスの提供、地域のセーフティネットとしての役割を果たせるよう事業運営した。

2 職員の状況

		園長	企画監 課長	主任	副主任	支援員	看護師	栄養士	事務員	世話人	調理員	運転員 当直員	合計
園長		1											1
総務課			1				1	1	3			4	10
子ども 支援課	入所		1	1	1	7							10
地域支援 第一課	生活		1		3	12	1						17
	相談			1	1								2
地域支援 第二課	就労		1			9					3		13
	GH			1		9 (4)				15 (19)			25
合計		1	4	3	5	37	2	1	3	15	3	4	78

※GH支援員のうち（ ）内は世話人業務兼務を含む人数、世話人（ ）内は世話人業務兼務支援員を含む人数。

※嘱託医及び嘱託職員は含まない。

3 職員研修

年間研修計画（法人内研修や施設内外の研修、「サポーターズカレッジ」研修等）に基づいた研修を実施し、職員全体の資質向上及び専門的な知識と支援技術の獲得を図った。また、利用者の人権・生命を守るために、虐待防止、権利擁護、コンプライアンス、

リスクマネジメント等に関わる研修の充実を図り、職員の人権意識等の向上に努めた。

4 行事 年間行事

月	全 体	こども支援課	地域支援第一課	地域支援第二課
4	・全体会議	・全体会議 ・新職員交流会 ・花見外出	・全体会議 ・事業所説明会資料送付 ・事業所大掃除（生介）	・全体会議 ・事業所説明会資料送付 （B型・グループホーム）
5	・横内清掃ボランティア ・苦情解決協議会	・保護者懇談会 ・児童月間（端午の節句） ・横内清掃ボランティア ・粗大ごみ排出	・横内清掃ボランティア ・アニマルセラピー（生介）	・横内清掃ボランティア
6	・大掃除 ・地域交流懇談会	・大掃除ウィーク（2週間） ・掃除お疲れ会	・アニマルセラピー（生介）	・大掃除（B型） ・避難訓練（グループホーム）
7	・夜間総合消防訓練 （地域防災協力隊参加） ・なつまつり	・夜間総合消防訓練 （地域防災協力隊参加） ・なつまつり ・グループホームサハウス見学外出 ・夏休み行事	・なつまつり	・なつまつり （B型・グループホーム）
8		・夏休み行事 ・ねぶた観覧 ・移行施設見学（ドライブ）	・アニマルセラピー（生介） ・青森県障害者スポーツ 大会陸上競技（生介）	
9		・かかしロード（ドライブ） ・月見会	・青森県障害者スポーツ 大会ボウリング競技（生 介）	・収穫祭（B型）
10		・障害者スポーツ大会 ・ハロウィンパーティー	・事業所大掃除（生介） ・避難訓練（生介） ・アニマルセラピー（生介）	・避難訓練（グループホーム）
11	・BCP机上訓練（地震 想定） ・土砂災害等防災訓練	・BCP机上訓練（地震想 定） ・紅葉狩り（ドライブ） ・土砂災害等防災訓練	・BCP机上訓練（地震想 定） ・土砂災害等防災訓練	・BCP机上訓練（地震想定） ・土砂災害等防災訓練（B型）
12	・大掃除 ・合同研究発表会	・大掃除ウィーク（2週間） ・クリスマス会 ・年越しそば会 ・冬休み行事	・忘年会（生介） ・アニマルセラピー（生介） ・育成会クリスマス大会（生介）	・大掃除（B型） ・忘年会（B型）
1		・冬休み行事 ・新年会 ・おしるこ会		
2	・後期総合消防訓練	・後期総合消防訓練 ・節分豆まき会	・後期総合消防訓練	・後期総合消防訓練
3	・苦情解決協議会 ・BCP机上訓練（感 染症想定）	・ひなまつり ・卒業を祝う会 ・さようなら会 ・BCP机上訓練（感染症 想定）	・慰労会（生介） ・BCP机上訓練（感染症 想定）	・慰労会（B型） ・BCP机上訓練（感染症想 定）

園 共 通 行 事 等	防災訓練	12回/年	①避難訓練（火災想定） ②地域交流懇談会 ③総合消防訓練（前期：70人） ④総合消防訓練（後期：79人） ⑤非常通報訓練（前期） ⑥非常通報訓練（後期）
		1回/年	①土砂災害等防災訓練（80人） ②BCP机上訓練（地震） ③BCP机上訓練（感染症）
	研修	随時	①職場内研修・研究発表 ②法人内研修（園内研修含む） ③法人外県内研修 ④法人外県外研修（主にオンライン研修） ⑤サポーターズカレッジ研修
	広報活動	3回/年	①学園だより ②ホームページ ③リーフレット
	ボランティア	—	なつまつり 10人
	実習受入れ	随時	専門学校1、短大2、大学4、計7校（実数16人）

5 健康管理

- (1) 感染症の予防対策として、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種2回、インフルエンザワクチン予防接種、マスクの着用、手指消毒、手洗いうがいの励行を徹底し、行政通知やマニュアル等に沿って迅速な対応で新型コロナウイルス感染症を含む感染症の感染防止に努めた。
- (2) 入所児童については、体位測定（月1回）や健康診断（内科：年2回、歯科：年2回等）を定期的実施し、健康状態の的確な把握に努めた。
- (3) 嘱託医、学校、家庭、グループホーム等との連携を強化するとともに、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

6 安全・防災管理

利用者が安全で安心した快適な生活が送れるよう防災・安全管理対策として、次の事項を実施した。

- (1) 月1回の防災避難訓練、年2回の総合消防訓練、年1回の土砂災害等防災訓練、事業継続計画（以下「BCP」という。）については、地震及び感染症を想定した机上訓練を各1回実施した。また、グループホームは年2回（火災・風水害）実施した。
- (2) 月1回園内リスクマネジメント委員会を開催した。
- (3) 防災担当者による自主点検及び法定点検を実施した。
- (4) 地域住民（八甲学園地域防災協力隊）の協力による夜間避難訓練（前期総合消防訓練）を実施し、地域住民との連携に努めた。

7 ボランティア・実習生の受入れ

- (1) ボランティアの受入れについては、令和2年度より新型コロナウイルス感染症対策のため中止としていたが、地域社会とのつながりや相互理解、施設運営の活性化とともに、福祉の担い手の育成を目指した取組であることから、新型コロナウイルス感染症等の対策をしながら、八甲学園なつまつりにおいて学生ボランティア10人の受入れを実施した。

また、青森市社会福祉協議会等関係機関との連携に継続して努めた。

(2) 実習生の受入れに当たっては、次代の施設職員を養成するという視点に立ち、人材育成の一助になるよう真摯な対応に努めた。

8 地域との連携

- (1) 令和2年度より新型コロナウイルス感染症対策として開催を中止していた「地域交流懇談会」を開催し、地域に開かれた施設として、地域住民と連携し、可能な限り地域貢献と地域交流促進に努めた。また、障害者の理解と社会参加促進に努めながら、共生・共助の地域づくりの推進に努めた。
- (2) 青森市との「福祉避難所の確保に関する協定」について、協定を継続した。
- (3) グループホーム利用者のうち、一定期間経済的支援が必要な1人の方に対して、負担軽減制度を実施して貢献活動の推進に努めた。

I こども支援課

【児童入所支援】

1 概況

入所支援においては、令和元年度から段階的に定員を削減し、令和3年度より定員を10人とした。定員は削減したものの地域の社会資源として、地域や関係機関・団体との連携、良質な福祉サービスの提供を継続して行ったほか、一時保護の体制を維持し、地域のセーフティネットとしての役割を果たした。

2 重点事項の実施状況

- (1) 安定した経営基盤の強化
新規児童1人の受入れと高等部卒業児童3人の成人施設サービスへの移行、令和6年度に向けた新規児童3人の受入準備を見相等関係機関と連携しながら計画的に進めた。一部移行期間等を除き、定員10人の利用率100%を維持し、安定した経営基盤に繋げた。
- (2) 利用者主体の支援
適切なアセスメント手法を職員間で随時検討し、個別支援計画や支援マニュアルに反映する取組を強化した。
- (3) 虐待防止の再徹底
人格と人権を尊重したサービスを推進するために、啓発や研修等に参加し、虐待防止に対する知識をさらに深める取組を強化した。

3 事業の実施状況

- (1) 福祉型障害児入所施設
 - ① 定員
10人
 - ② 概要
学校や関係機関と連携しながら、入所児童の健全な成長・発達を目指した生活支援を行うとともに、将来の生活に必要な身辺自立及び社会自立に向けた支援、移行支援を実施した。また、強度行動障害児童へは指導訓練を、被虐待児童へは心理ケアと心理療法等を実施した。
 - ③ 支援目標
ア 児童の人権を尊重し、心身ともに豊かな生活が送れるよう支援をした。

- イ 児童の発達段階・状況に応じ、日常生活に必要な基本的な生活習慣の伸長に向けた支援をした。
- ウ 児童が安全に安心して心豊かに暮らせるよう、家庭的な生活環境を整備し、児童の健康管理に留意した。特に衛生面については、徹底して取り組んだ。
- エ 児童のニーズを的確に把握するとともに、個別性に配慮した支援計画に基づくサービスを提供した。
- オ 個々の児童の意向や課題を踏まえた支援計画に基づき、家庭、学校、医療及び関係機関との連携を図りながら必要な支援をした。
- カ 強度行動障害と判定された児童に対しては、医師や看護師、心理士等とも連携し、専門的な統一した支援を行い、行動障害の軽減に取り組むと同時に、職員の人材育成、技術習得をもとに支援の定着化を図った。
- キ 被虐待児童への心理的ケアと支援の充実を図るため、当該児童に心理療法（心理検査、プレイセラピー、SST等）を実施した。
- ク 地域交流を交えつつ地域の社会資源を活用し、個々に応じた自立生活ができるよう社会性の向上と社会参加の促進を図った。社会体験等については計画に基づき実施し、児童から要望のあった行事等については、必要に応じて検討した。

(2) 短期入所事業（空床型）

① 定員

空床数による。

② 概要

要予約とし、障害児・者を介護されている家族の方が、病気、出産、冠婚葬祭、行事等の理由により一時的に介護ができなくなった場合に、欠員及び入所児童の帰宅等により空いた居室を利用し、宿泊を伴う生活支援を提供するものである。令和5年度においては、空床がなく、実績はなかった。

③ 支援目標

ア 短期入所を利用された際に、障害児・者が安全に、安心して過ごすことができるよう環境を設定し、健康状態に配慮する。

イ 家族の要望に対し、可能な限り添えるよう、関係機関等と連携しながら、相談・問い合わせがあった際には丁寧な説明を行う。

(3) 事業実施状況

項目	実施時期・回数	内容
生活支援	5月4日	① 行事 ・端午の節句外出
	5月7日	・横内清掃ボランティア
	6月1日～6月30日	・大掃除ウィーク
	7月27日	・かき氷早食い大会
	8月3日	・スワンハイム見学
	8月4日	・スイカ割り大会
	8月9日	・カラオケ外出
	8月10日、17日	・花火外出
	8月14日	・流しそうめん大会
	8月15日	・お化け屋敷体験（イオンモールつがる柏）
	10月1日	・全体外出（五所川原方面）
	10月31日	・ハロウィンパーティー

	11月13日～12月17日 11月23日 12月22日 12月29日 12月31日 1月10日、12日 1月12日 2月4日 3月10日	・冬の大掃除ウィーク ・全体外出（青森県立美術館） ・クリスマス会 ・冬の大掃除お疲れ会 ・大晦日年越し会 ・買い物外出 ・新年会 ・節分豆まき会 ・さようなら会
学卒児支援	年 間	①園外活動：歩行訓練・作業活動 ②園内活動：身辺自立・清掃
就労支援	随 時	①学校の実習に協力 実習先訪問、金銭管理指導
強度行動障害 特別処遇事業	1回/月 2回/月/2人	・スタッフ会議 ・対象児2人にプレイセラピーを実施
健康管理	随 時 24回 2回 12回 0回 1回 2回 1回	①通院 ②精神科嘱託医の検診 ③内科嘱託医の検診 ④身長体重測定 ⑤フッ素塗布（中止） ⑥眼科検診 ⑦歯科検診 ⑧定期健康診断

II 地域支援第一課

【生活介護事業所はっこう】

1 概 況

生活介護事業所では、精神疾患、身体障害、自閉スペクトラム症、強度行動障害の利用者の障害特性に応じ、本人にとってわかりやすく生活しやすい環境設定を行うとともに、自信を持って取り組める日中活動の提供・身体機能の向上に向けた支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定した経営基盤の強化

障害特性やニーズに合わせた活動グループで、様々なニーズに応じられる環境調整に努め、契約利用者2人増により、年間平均利用率110%、年間収入前年度比約8%増（約10,000千円超）となり目標を達成した。

(2) 利用者主体の支援

利用者の障害特性及び状態変化によるニーズ把握を行い、一人ひとりの特性に合わせた活動プログラムと個別化された支援を提供し、利用者主体の支援を行った。

(3) 特別支援学校との連携強化

特別支援学校（第二養護学校・第一高等養護学校）との連携を強化し、就労支援連絡会や事業所見学会での情報提供を行った。

(4) 研修参加等による支援の質の向上

障害支援区分5以上で発達障害・強度行動障害の利用者が多く、利用者の障害特性に合わせた高い支援技術が必要であるため、法人内の「発達障害支援力強化検討委員会」と連携した。また、Web研修をはじめとした専門研修を積極的に活用し、職員の専門的知識の習得とスキルアップのための研修参加を強化するとともに、職員研修計画と連動し、OJT、OFF-JTを継続した。

3 事業の実施状況

(1) 定員

20人

(2) 概要

主に障害支援区分5以上の障害の重い方・発達障害の方を対象に、日中活動の提供、日常生活スキルの向上に必要な機能訓練を実施した。

また、環境や活動内容を工夫し利用者の持っているスキルを活かした生産活動、請負作業を行うほか、創作・余暇・運動・レクリエーションの活動プログラムを組み日中活動の充実を図った。

(3) 支援目標

- ① 利用者の障害特性に合わせた環境設定を行い、柔軟で自立的な活動ができるような視覚的支援、コミュニケーション支援を行った。
- ② 利用者一人ひとりの身体機能や障害特性、個別のニーズ等に基づいた個別支援計画を立案・実施し、本人が達成感と成功体験を積み重ねられるように取り組んだ。
- ③ 軽作業（リサイクル、法人内のリサイクル紙回収作業等）を実施し、日中活動の充実を図った。
- ④ 毎月、創作活動・調理・音楽やダンス・ゲーム活動・園外活動等の様々なレクリエーション活動を実施し、余暇と地域活動の充実を図った。アニマルセラピーについては、コロナウイルス感染拡大状況を考慮しながらの実施となり、年間を通して2回の実施に留まった。
- ⑤ 利用者のサービスを円滑に行うために関係機関、家庭との連携を深めた。また、園内他事業所とも連携し、機能を活用できるよう取り組んだ。

(4) 行事及び事業実施状況

① 利用者の状況

ア 定員 20人

イ 契約者数 28人

ウ 各月契約者数及び延べ利用人数

定員 20人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約者数(人)	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	
開所日数(日)	20	22	22	21	21	22	22	21	21	19	19	19	249
延べ利用人数(人)	451	484	508	488	406	484	470	466	444	428	431	438	5,498

② レクリエーション活動（回数）

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
創作	1	1	1	2	0	2	0	2	0	2	0	3	14
調理	1	2	2	1	3	1	1	3	1	2	3	1	21
音楽・ダンス	2	1	2	1	2	1	2	0	1	0	2	0	14
ゲーム	2	1	1	2	1	2	2	1	1	2	0	0	15

③ 外出・外部行事（忘年会・慰労会含む）

月	回数	外出内容・外出先
4月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（野木和公園） Cグループ：園外外出（弘前公園）
5月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（合浦公園） Cグループ：園外外出（鶴の舞橋）
6月	6	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（合浦公園） Bグループ：園外外出（弘前弥生いこいの広場）（競輪場公園） Cグループ：園外外出（ラウンドワン） A・B・Cグループ：アニマルセラピー
7月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（合浦公園） A・B・Cグループ：（八甲学園なつまつり）
8月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（八甲田ロープウェイ） Cグループ：園外外出（浅虫海水浴場） A・B・Cグループ：アニマルセラピー
9月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、Cグループ：園外外出（エルム外出）（競輪場公園）
10月	4	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店） Bグループ：園外外出（浅虫水族館） Cグループ：園外外出（中野もみじ山） A・B・Cグループ：アニマルセラピー
11月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（青森観光りんご園） Cグループ：園外外出（イオンモール柏）
12月	5	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店） Bグループ忘年会（ラウトワ）、青森市手をつなぐ育成会クリスマス大会 Cグループ：園外外出（マクドナルド西バイパス店） A・Cグループ忘年会（園内で開催） A・B・Cグループ：アニマルセラピー
1月	3	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）、園外外出（諏訪神社） Cグループ：園外外出（八甲田神社）
2月	1	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店）
3月	2	Aグループ：おやつ外出（マックスバリュ幸畑店） A・B・Cグループ：慰労会（園内で開催）

④ 職員研修関係

法人内研修を初め、法人契約した「サポーターズ・カレッジ」研修及び専門分野研修に多数の職員が受講し、専門的な知識や支援スキルの維持と向上に努めた。

⑤ 広報関係

パンフレットを市内相談支援事業所及び関係機関等を訪問し、事業所PRや新規利用者の利用促進に努めた。

【相談支援事業所あおば】（指定特定相談支援、障害児相談支援）

1 概況

利用者やご家族がおかれている環境やニーズ等に応じた障害福祉サービス等をご利用いただくために、総合的な相談支援を行った。また、多様なニーズに応える包括的なサービス等利用計画を立てるために、地域の社会資源の開発を図り、行政や関係機関等と連携を図った。

2 重点事項の実施状況

(1) 質の高い相談支援の提供

丁寧な相談支援を実施するため、専門研修へ参加することで資質の向上を図り、事業所内でもOJTによる研修を実施した。また、青森市の圏域会議等へ積極的に参加し、市内の相談支援事業所とも連携し、地域の相談支援体制の強化に協力した。

(2) 安定した経営基盤の強化

効果的かつ効率的な安定運営のため、計画相談と障害児相談の契約者の比率を4：1とし、契約者数約200人を維持した。また、相談支援事業所なつどまりと積極的に連携・協力をした。

3 事業の実施状況

(1) 概要

- ① 障害者や障害児等が障害福祉サービスや障害児通所支援（児童発達支援や放課後等デイサービス等）を利用する前に、サービス等利用計画を作成し、一定期間ごとにモニタリングを行う等の支援を行った。
- ② 障害者等の福祉に関する全般の問題につき、障害者等からの相談に応じ、必要な情報（障害福祉サービス等）の提供及び助言を行った。

(2) 支援目標

- ① 利用者の人権尊重を基本とし、利用者やご家族の意向や選択を尊重しながら、利用者一人ひとりの能力、適性、ニーズ等に基づいたサービス等利用計画の作成を行った。
- ② 地域又は関係機関との信頼関係を深め、連携を密に行った。
- ③ 利用者やご家族が地域で安心して生活するために、権利擁護及び社会資源を活用するための助言、指導を行った。
- ④ 研修等への積極的な参加と自己研鑽に努め、相談支援専門員の資質の向上に努めた。
- ⑤ 圏域会議や市の連絡会議への参加を通じてネットワークの構築を強化し、相談支援専門員として情報の共有に努めた。

(3) 利用状況及び事業の実施状況

事業名	契約件数	サービス等 利用計画作成	モニタリング
① 指定特定相談支援事業	152件	137件	479件
② 障害児相談支援事業	42件	50件	129件

(4) 職員研修関係

- ① 青森市相談支援事業所連絡会議及び圏域会議、青森市地域相談支援連絡会（主催：青森市）に参加し、行政、他相談支援事業所や地域の関係機関との連携を図ることと相談支援業務に必要な情報収集を目的に参加した。

(ア) 青森市相談支援事業所連絡会議

期 日	場 所
令和6年3月28日	しあわせプラザ

(イ) 圏域会議

期 日	場 所
令和5年4月27日	不参加
令和5年5月25日	相談あおばは対面での参加
令和5年6月23日	Web と対面での実施。相談あおばは対面での参加
令和5年7月27日	相談あおばは不参加
令和5年8月30日	Web と対面での実施。相談あおばは Web で参加
令和5年9月21日	不参加
令和5年10月27日	不参加
令和5年11月25日	不参加
令和5年12月21日	Web と対面での実施。相談あおばは対面での参加
令和6年1月18日	Web と対面での実施。相談あおばは対面での参加
令和6年2月22日	Web と対面での実施。相談あおばは対面での参加
令和6年3月22日	Web と対面での実施。相談あおばは対面での参加

(ウ) 青森市地域相談支援連絡会

期 日	場 所
令和5年8月10日	青森県立図書館
令和5年11月17日	青森県立図書館
令和6年1月23日	青森県立図書館

- ② 法人内研修や県内外の各種研修を受講し、相談支援業務のスキル向上に繋げた。研修は対面及びオンラインやオンデマンド配信を積極的に活用し、受講した。

Ⅲ 地域支援第二課

【就労継続支援B型事業所はっこう】

1 概 況

就労継続支援B型事業所では、より魅力ある、選ばれる職場環境を整備し、個々の利用者の働く力に主眼をおいた支援を行うとともに、工賃向上のため、効率的かつ安定的な事業運営を行った。

2 重点事項の実施状況

- (1) 利用者主体の支援と魅力ある事業所作り

利用者個々の意向を尊重した支援の質の向上、開所日の充実と工賃の向上を図り、利用者主体の支援を行いながら、利用者にとって魅力ある事業所作りに努めた。

(2) 作業班の体制整備

令和6年度から新規作業班としての「給食班」を設置して八甲学園厨房を使用しての給食提供を行うこととなり、令和6年度に向けた整備・準備を進めた。また、残る現行作業班においても、作業内容の充実と作業環境の改善について随時検討し取り組んだ。

(3) 安定した経営基盤の強化

新規利用者の獲得はできなかったが、100%を超える高い利用率を維持し、安定した経営基盤の強化につなげた。

3 事業の実施状況

(1) 定員

20人

(2) 概要

一般就労が困難な方々に対して生産活動の場を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な作業支援を実施した。余暇支援の面でも、利用者のニーズに応じた様々な活動を企画し、利用者が参加しやすい環境を整えながら実施した。

(3) 支援目標

- ① 利用者一人ひとりのニーズに即した支援計画に基づき、強みを伸ばし、働く喜びを実感できる支援を行った。
- ② 作業場の清掃等維持管理に重点を置き、安全・快適に作業ができる環境を提供した。
- ③ 生産活動と並行しながら、行事を活用しての余暇の過ごし方支援や社会参加活動の促進を図った。
- ④ 地域や関係機関等との連携を強化し、共生・共助の地域づくりに貢献した。また、事業所の機能を活かし、園内他事業所に作業見学・体験等の機会を提供し、連携に努めた。

(4) 生産活動の状況

① リサイクル班

青森市内の企業等及び合子沢町会、北蛸沢町会へ空き缶やペットボトルの回収作業を行い、主たる収入源であるアルミ缶の回収量の維持・向上に努めた。また、地域との連携の一環として、北蛸沢町会の回収ボックスの洗浄(年2回)や、ボランティア団体『夢クラブ八甲田』の参画団体としてペットボトルキャップリサイクル活動に取り組み、横内連合町会(10町会)での回収を実施した。

② 請負・農産班

請負部門は、清掃、外部受注の作業を行った。清掃作業は八甲学園内の清掃を請け負い、毎日の園内清掃に従事した。また、青森市パークメンテから受注した4か所(平和公園、奥野中央公園、浜田中央公園、野木和公園)の花植え、水撒き、除草作業や、県民福祉プラザの植栽管理と雪囲い、市内10か所のグループホームの除排雪を行った。

農産部門は、畑作業で野菜等の栽培及び販売をするとともに、ショップ班の喫食事業の原材料として提供した。また、県からの委託事業である「農福連携マルシェ」を10月に1日と11月に2日間開催した。

③ ショップ班（県民福祉プラザ2F こだわりの店『つぼみ』）

喫食事業として1日限定40食のランチ提供と、共同生活援助事業所サンハウス入居者への食事販売を行った。また、メニュー・味・量等についての様々な意見をアンケート方式により把握し、より良い食事内容の提供に努めた。令和5年度末をもってショップ班を終了し、令和6年度からは新たに給食班として、園内の食事提供や食堂の清掃などを実施する。

(5) 事業実施状況

① 利用者の状況

区 分	定員 20 (人)
令和5年度開始時利用者数	25(男19・女6)
令和5年度終了時利用者数	25(男19・女6)

② 各班の売り上げ状況

作業班	売上(円)
リサイクル班	12,053,363
請負・農産班	2,882,598
ショップ班	13,192,447
計	28,128,408

③ 工賃支給状況

区 分	金額(円)
1人あたり平均月額工賃	20,127

④ 行事等

月	レクリエーション (○開所日・●行事)	その他 (地域交流等)
4月	○花見会	
5月	○事業所説明会	○横内合同清掃
6月	●大掃除	
7月	○ピクニック ○八甲学園夏まつり参加	
8月	○茂浦大好き海岸・夜越山温泉	
9月	○ボウリング (アオモリボウル) ○りんご狩り ●収穫祭	
10月	○カラオケ合衆国 ○ショッピング	
11月	○浅虫水族館	
12月	○青森大学講演 ○浅所海岸白鳥見学&ドライブ ○クリスマス大会 ●忘年会 (焼肉美食亭いわや) ●大掃除	

1月	○初詣（諏訪神社） ○清掃作業、節分&カラオケ	
2月	○映画鑑賞	
3月	○清掃作業及びカラオケ ●慰労会（ビックボーイ）	

※新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら開催した。

⑤ 職員研修関係

新型コロナウイルス感染症の影響により法人内研修への参加が中心となったが、外部開催の研修（オンライン研修を含む）への参加機会も持ち、業務に必要な支援スキルの向上に努めた。

⑥ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、パンフレットを作成し、見学者や実習生等に配布した。

【共同生活援助事業所サンハウス】

1 概況

共同生活援助事業所では、利用する入居者が社会の一員として自立した生活を送ることができるよう、社会資源の活用や地域の協力を得ながら支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用者主体の支援

利用者の就労先（一般就労）、日中活動先、相談支援事業所等関係機関へ定期的な訪問・連絡を行い、町内会等地域との交流を深める体制を作り、連携強化に取り組むことで、地域で利用者が主体的に生活するための支援を行った。

(2) 災害対策、感染症対策の強化

災害、感染症が実際に発生した際の動きがより円滑にできるよう検討し、BCPや各種マニュアルを見直した。災害対策については各グループホームの防災用品・非常食を再確認し、整備を見直すとともに、地域と連携した災害対策についても検討し、実施した。

(3) 安定した経営基盤の強化

安定した経営基盤の強化のため、令和5年度初めの空床に対して、新規利用者の獲得に取り組み、その後は入居率100%を維持するとともに、支援や環境のさらなる充実により利用者の定着を図った。また、今後のグループホーム運営について、支援体制の強化と加算増・収入増についても各種、随時検討した。

3 事業の実施状況

(1) 定員

55人

(2) 概要

利用者が地域で自立し充実した生活を送ることができるよう、ニーズを的確に把握し、個別支援計画に基づいて支援員・世話人が共通認識を持ちながら、相談、食事の提供や金銭管理、健康管理、その他の必要な日常生活上の支援の提供に努めた。

(3) 支援目標

① 利用者の主体性を尊重し、意思やニーズに応じたサービスを提供した。

- ② 利用者が地域社会の一員として安心して生活できるよう、就労先や日中活動の場、相談支援事業所、市町村等の各種関係機関と連携し支援した。
- ③ 利用者の心身の状態を通院状況や健診結果等から把握し、医療機関等との連携に努め、健康管理に配慮した。
- ④ 食事提供において、栄養士監修によるバランスの取れたメニューの提供を行い、各グループホーム間のサービスの質の平準化と利用者の食事に対する満足度の向上を図った。
- ⑤ 火災・地震・風水害を想定した防災訓練、事業継続計画に基づく訓練により、各種災害への意識を高め、安全対策に取り組んだ。
- ⑥ 感染症対策について啓発を行うことで利用者の協力を得ながら、発生予防、拡大防止に取り組んだ。
- ⑦ 利用者の会「はっぴい」やおおもりグループホーム連絡協議会等の活動を通じて余暇活動の充実を図ることを目標としたが、感染拡大防止の観点から、令和4年度に引き続き大人数での活動は限定的であった。
- ⑧ 見学・体験利用の受入れを積極的に行い、希望者に対し情報提供を行った。
- ⑨ 各グループホームの環境整備及び修繕を随時行い、住環境の向上に努めた。

(4) 事業実施状況

① グループホームの設置状況

名称(地区)	設置年月日	定員(人)
① サンハウス(緑)	平成5年 4月1日	6
② 第二サンハウス(蛍沢)	平成6年 4月1日	5
③ 第三サンハウス(新城)	平成8年 4月1日	5
④ 第五サンハウス(幸畑)	平成12年10月1日	6
⑤ 第六サンハウス(桂木)	令和3年 4月1日	5
⑥ 旭ハウス(大野)	平成21年 4月1日	5
⑦ 第二うとうハイム(筒井)	平成22年 4月1日	5
⑧ おくのハウス(奥野)	平成25年12月1日	8
⑨ 紅葉ハウス(新城)	平成24年10月1日	5
⑩ 第二紅葉ハウス(新城)	平成25年11月1日	5
合 計		55

② 利用者の状況

内 容	定員 55 (人)
令和5年度当初利用者数	51 (男39・女12)
令和5年度内の利用終了者数	0 (男0・女0)
令和5年度内の利用開始者数	4 (男3・女1)
令和5年度末の利用者数	55 (男42・女13)

③ 行事等

月	内 容
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（火災）全グループホーム ・BCP訓練（防災）おくのハウス
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナワクチン接種（4回目） ・避難訓練（風水害）全グループホーム ・避難訓練（洪水）サンハウス ・BCP訓練（ヘルプコール）第三サンハウス、紅葉ハウス、第二紅葉ハウス

④ 職員研修関係

新型コロナウイルス感染症の影響により法人内研修への参加が中心となったが、外部開催の研修（オンライン研修を含む）への参加機会も持ち、業務に必要な支援スキルの向上に努めた。世話人会議での研修実施や伝達研修も行った。

⑤ 広報関係

広報「八甲学園だより」に事業所の取組や行事等についての内容を掲載した。また、各グループホームの写真等を掲載したパンフレットを作成し、見学者や関係機関及び団体等に配布して事業所のPRに努めた。

第3 養護老人ホーム安生園

1 概況

安生園の運営にあたっては、各種法令及び当事業団職員倫理綱領を遵守するとともに、法人理念及び安生園の基本理念・基本方針に基づいて、常に利用者一人ひとりの意思と人格を尊重し、安心して充実した暮らし（生活）が続けられる生活支援と介護サービスの提供にあたってきた。また、安心できる生活環境を提供するため、建物の老朽化に伴う設備等の修繕と利用者の居住環境整備、新型コロナウイルス感染症予防対策に継続して取り組んできた。

人材不足が深刻化する中、福祉への理解や魅力を発信するため、養成校等の社会福祉士・介護福祉士資格取得に向けた実習を、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で受入れし、実習生の育成を図った。

安生園が関連する市町村・地域包括支援センター・医療機関等との連携を密にし、新規利用者獲得に向けた情報発信等を図ってきたことで、新入所者数は大きく伸びたものの、コロナ禍の影響もありADLの低下した利用者の介護保険施設等への移行が進み、月平均利用者数が、84人前後で推移する状況が続いたため、入所定員を現状にあった人数に削減変更することとした。

併設するヘルパーステーション及び居宅介護事業所では、在宅利用者のコロナ禍による介護サービスの利用控えや介護施設等への入所、更には安生園の利用者数の減少などにより、利用実績は前年度を下回るようになった。

2 職員の状況

所 属	養護老人ホーム	ヘルパー ステーション	居宅介護 支援センター	計（人）
職員数	22（医師2含む）	10	3	35

I 養護老人ホーム安生園

1 概況

養護老人ホーム安生園は、昭和26年の開設以来、老人福祉法の基本理念に基づいた施設運営と、利用者の権利擁護と意思決定を尊重し、個々の支援計画に基づいた生活支援に努めてきた。利用者の生活支援では、潤いと生きがいのある生活をしていただくため、個々に要望を聴き取るとともに自治会代表者会議等で意見を求め、各行事に要望等を反映させて生きがい支援の充実に努めた。

令和5年度の措置入所は20人（青森市18人、五所川原市1人、蓬田村1人）、退所は20人（青森市18人、五所川原市1人、平内町1人）であった。利用者の高齢化（平均年齢80.8歳、80歳以上46人）により、介護を必要とする利用者は、要支援・要介護者合わせて58人となり、介護保険サービスの利用は、外部・内部・福祉用具貸与合わせて計72人（重複計上）であった。身体機能の低下のほか、認知症、病弱、精神疾患のある方やDV、触法など、ニーズの多様化と複雑化が顕著であり、従来の見守り支援から、きめ細かな専門的な支援が必要となってきた。令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症が、感染症法上の5類に移行したことに伴い、長らく自粛していた園内外の活動も徐々に再開し活気ある日常生活を送れるよう余暇支援、クラブ活動、食育、口腔ケア等に努めてきた。

リスクマネジメントでは、令和5年度のヒヤリハット・アクシデントが49件、うち21件が転倒であり、転倒怪我、無断外出、感染症、救急搬送等による措置機関への事故報告事案は8件であった。一つの転倒は大きな事故に繋がることから、利用者及び職員への注意喚起を徹底するなど転倒防止に努めてきた。また、病弱者の医療面においても早期から医療機関と連携を図りながら利用者の健康と身体機能の維持に努めた。

地域交流については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止していたが、各行事の開催にあたり地域参加者に人数制限を設けた上で、園行事を実施し交流を図ることができたほか、近隣町長会主催の公園整備・花壇花植えなど地域活動への参加にも取り組んだ。

また、食品ロス軽減の『コープフードバンク活動』に賛同し、農産品の提供を受け、利用者の食事やおやつとして提供することができた。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

安生園の措置者数は、令和3年度まで平均在籍数が95人程度で推移し、経営状況は安定していた。しかし、令和4年7月に発生した新型コロナウイルス感染症施設内クラスター以降、利用者のADLの低下等に伴い、安生園での生活が困難となった利用者の介護施設等への移行の増加とコロナ禍による入所控えが相まって在籍者数が減少し、一時は80人程度まで落ち込み経営を圧迫する状況が続いた。

令和5年度に入り、新型コロナが5類に移行したことと、これまで地域包括支援センターや関係病院医療連携室等へのPR効果もあり入所問合せが増加し、20人が新入所に繋がった。しかし、施設移行が必要な利用者も増加したことで、これまでの100人定員を維持することが困難なことから、安定的経営基盤の確保のため、現状に見合った入所定員について青森市と協議を重ね、令和6年度当初から定員83人に変更し、最終的には定員80人にする事とした。

(2) 住環境の整備

既存施設の老朽化に伴い、特に付帯設備への修繕コストが課題となり、令和5年度も、ボイラーセクションの交換のほか、水漏れによる配管の整備などの修繕を重ね、長寿命化に備えた。

また、利用者の住環境整備に重点を置いた居室リフォームを入退所時に随時実施し、新規入所利用者の居室環境整備に努めた。

(3) 感染症対策の強化

感染症対策委員会を随時開催し、感染症等による感染拡大防止に努めた。特に、令和4年7月に発生した新型コロナ施設内クラスターの教訓から、継続してワクチン接種を推奨するとともに、令和4年度には「青森市介護施設等における感染拡大防止対策事業補助金事業」を利用して園内2か所（静養室・集会室）に陰圧装置の設置と松寮廊下ゾーニング工事を行うなど、新たな感染拡大防止対策を整備した。

令和5年度は、8月に外部通所サービス利用者1人が新型コロナに感染したのをきっかけに感染拡大したものの、陰圧装置の活用と新たな対策により、感染者を11人に留め感染拡大を抑えることができたのは大きな成果だった。

また、令和6年度から義務化となるBCP（感染症等）について、施設の実態に基づいて策定した。

(4) 利用者支援の充実

新型コロナ5類に移行後、感染対策を講じた上での制限緩和を図り、園諸行事、ク

ラブ活動、園外活動、余暇支援活動等を再開し積極的な参加を進めた。また、小学校の生徒たちが考えた「りんごブキウギ体操」を、リモートで参加した生徒たちと利用者が一緒に体操して、交流を深めた。

嗜好調査や給食会議等で利用者の意見を反映させた食事メニューの提供、口腔ケアの実施など健康の維持に配慮した生活支援に努めた。

(5) 非常災害対策の強化

安生園災害マニュアルを基に、非常災害時の炊出し訓練と風水害を想定した訓練を実施した。

炊出し訓練では、第三者委員、地域防災協力隊代表者を招いて訓練の見学と非常食の試食をしてもらい、施設における災害時の食事提供について理解してもらった。

令和6年度から義務化となるBCP（自然災害）の策定について、立地場所における地震や津波、洪水などのリスクの把握と、インフラの復旧目安、業務継続へ向けた対応策などを整備した。

(6) 虐待防止と人権擁護

人権擁護・虐待防止委員会及び身体的拘束廃止委員会では、職員への理解を図るための動画視聴形式の研修会を行い、その内容を基に研修小テストを実施し、意識向上を図った。何気ない対応が虐待や利用者の人権を侵害する行為とならないよう、職員同士が日頃から気付き合い適切な支援を心掛けるよう努めた。

3 職員の状況

職名	園長	総務課長	栄養士	看護師	事務員	専任当直員	嘱託医	計
人数	1	(1)	1	2	3	3	2	22
職名	高齢者支援推進室	高齢者支援課長 (主任生活相談員)	生活相談員	支援員 (主任支援員)	支援員	業務補助員		
人数	1	1	2	1	4	1		

4 利用者状況

(1) 入退所者数

(1) 定員	100人
(2) 令和4年年度末現在の利用者数	83人
(3) 令和5年度内退所者数	20人
(4) 令和5年度内入所者数	20人
(5) 令和5年度末現在の利用者数	83人

(2) 市町村別入退所内訳等

	内 訳	事 由
入 所 計 20 人	<ul style="list-style-type: none"> 青森市 18 人 五所川原市 1 人 蓬田村 1 人 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅者 13 人 病院退院者 1 人 更生保護施設 3 人 路上生活保護者 2 人 下宿生活者 1 人
退 所 計 20 人	<ul style="list-style-type: none"> 青森市 18 人 五所川原市 1 人 平内町 1 人 	<ul style="list-style-type: none"> 施設移行 12 人 死亡 7 人 長期入院 1 人

(3) 介護保険認定状況

未認定	要支援 1.2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	計 (人)
25	15	19	16	7	1	83

※ 入所利用者の高齢化が進み、生活援助などの何らかのサービスを受ける利用者 52 人。

(4) 介護サービス利用状況

項目	サービス内容	利用者数
外部サービス	デイサービス、ヘルパー	28 人
内部サービス	ヘルパー、福祉有償運送	44 人
	計	72 人

5 入所相談・見学状況

問合せ相談件数	151 件	包括支援センター・医療連携室・対象者及び家族等
安生園見学件数	33 件	このうち、入所になったケースは 18 件

6 外出・面会状況

外出件数	延 5,605 件	買い物・デイサービス・通院等含む
面会件数	延 185 件	家族・友人等 ※感染症対策により面会ブース使用

7 事業の実施状況

(1) 行事等

名称	実施時期等	参加人数	備考
各寮懇談会	月 1 回	延 381 人	※8 月コロナ感染症対策により中止
音楽クラブ	7 回	延 125 人	※9・3 月コロナ感染対策により中止
観桜会	4/17	76 人	
3B 体操	—	—	※コロナ感染対策により中止
自治会代表者会議	年 4 回	延 27 人	
コーヒーサロン	6/9	42 人	
ビデオ上映	11 回	延 118 人	
出張販売 (6 業者)	週 1~2 回	延 221 回	ヤクルト・生協・キキ・東洋社ほか
利用者との集い (4 月)	4/1	42 人	転入職員紹介
自治会総会	4/1	46 人	
輪投げ大会	6/23	50 人	地域老人クラブ参加
地域交流懇談会	6/24	16 人	団体代表者参加
納涼夏祭り	7/28	82 人	ねぶた大好き隊 12 人、来賓 6 人
盆墓参り	8/3	13 人	
敬老会	9/20	祝賀会 84 人	
市内遊覧	—	—	※コロナ感染症対策により中止
7 日日ねぶた観覧	—	—	※コロナ感染症対策により中止
ミニ運動会	11/8	43 人	
リフレッシュ日帰り旅行	11/20	9 人	浅虫水族館
文化祭	11/17	74 人	第三者委員等、来賓 6 人参加
年忘れお楽しみ会	12/15	79 人	第三者委員参加 葛西委員・千葉委員
新春お楽しみ会	1/18	70 人	
節分豆撒き	2/2	43 人	
物故者慰霊祭	3/1	21 人	蓮心寺住職
マグロ祭り	3/13	74 人	第三者委員等、来賓 5 人参加

利用者との集い（3月）	3/25	38人	転出職員紹介
紙芝居	4回開催	延113人	図書委員会フレイル予防

(2) クラブ活動

名 称	実施回数	参加者数	備 考
茶 道	—	—	※講師の高齢化に伴い辞退の申出
華 道	9回	延73人	
書 道	7回	延33人	
チェアヨガ	—	—	※コロナ感染症対策により中止
農園芸	不定期開催	延59人	花植え、野菜苗付け、花壇整備等
大相撲星取り	年6回	延68人	
カラオケ	—	—	※コロナ感染症対策により中止

(3) 地域交流

① 町内会交流

団体等名称	交流内容	実施時期	備 考
虹ヶ丘町会	虹ヶ丘春の大清掃	5/7	職員参加
	虹ヶ丘街路植栽	5/29	利用者・職員参加
	ひまわり通り除草	7/2	職員参加
	虹ヶ丘夏祭り準備	7/29	職員参加

② 交流（慰問）

団体等名称	内 容	実施時期	備 考
青森市立浦町小学校	りんご寄贈・交流	10/11	リモート交流
	りんご寄贈・交流	10/31	
	りんごブキヴギ体操	3/4	
認知症カフェ	東部包括支援センター事業とのコラボ「養護老人ホームを知ろう」	1回目 7/8 2回目 11/22	地域にお住まいの方を対象にした啓発活動及び相談。カフェ形式で開催

③ 招待活動状況

団体等名称	内 容	実施時期	参加人数
平内町水産商工観光課	夜越山洋ランまつり	3/14	3人

④ ボランティア等の受入状況

団体等名称	奉仕内容	実施時期	人 数
ねぶた大好き隊	納涼夏祭りねぶた囃子	7/28	12人

(4) 保健衛生

内 容	実施時期等	人数等	備 考
身長測定	年1回 4/3	全員	
血圧・体重測定・検温	月1回	全員	
入浴	週3回	全員	男性：月・水・金 女性：火・木・土
通院（村上病院他）	週間計画表により実施	対象者	
結核健診	4/27	78人	青森県総合健診センター
春・秋の基本健診 （理学的検査・尿・血液・心電図）	5/11	78人	青森県総合健診センター
	11/2	81人	青森県総合健診センター
利用者講話（保健衛生）	1/24	37人	青森県保健衛生課
歯科検診（前期）	4/12・4/19	77人	歯科（北川歯科医院）
歯科検診（後期）	10/18・10/25	77人	歯科（北川歯科医院）
歯科衛生指導	10/18・10/25・12/7・12/20	48人	青森県歯科衛生士会青森支部
内科問診及び	11/1	77人	嘱託医（駒井胃腸科内科）

インフルエンザ予防接種			
新型コロナウイルスワクチン予防接種	6回目 6/14、7回目 12/13	77人 73人	施設巡回接種 (佐藤内科クリニック)
嘱託医による医療相談	月2回	対象者	内科(駒井胃腸科内科)
嘱託医による診察	月1回	対象者	精神科(つくしが丘病院)
感染症対策委員会	4回		
春の大掃除	6月		窓・網戸清掃等
秋の大掃除	12月		暖房・各居室清掃等

※ 新型コロナウイルスワクチン予防接種にあたっては、青森市保健所と調整し、巡回接種方式で実施した。

(5) 防災訓練及び安全対策

内 容	実施時期等	参加人数	備 考
交通安全教室	—	—	※コロナ感染防止による中止
夜間想定防災訓練	7/8	92人	地域防災協力隊団体参加含む
夜間防災訓練	3/27	75人	
災害時炊き出し訓練	11/16	64人	防災協力隊代表者3人参加
風水害訓練	11/16	65人	11/15利用者学習会(各寮懇談会時)

※ 新型コロナウイルス感染症対策により、安生園利用者及び職員での訓練とした。また、開催時期についても、青森市の感染状況を見ながらの実施とした。

(6) 職員研修関係

内 容	実施時期	参加人数	備 考
感染対策普及研修	8/23	7人	川崎看護師
感染症5類移行後の対応研修	3/11	18人	駒井内科 駒井立子副院長
口腔ケア研修	2/2	11人	歯科衛生士会 松井歯科衛生士
利用者支援理解促進研修	11/8	7人	白鷗会 理事長 町田光司 氏
虐待防止と権利擁護	11/14	9人	青森大学 船木昭夫 氏
安生園職員研究発表会	12/20	23人	すこやか苑合同開催

※その他外部(保健大学・老施協・社協・介護労働センター外)主催研修や内部(法人)主催研修へ参加。

(7) 苦情解決事業関係

内 容	実施時期等	備 考
第三者委員相談	月1回	※8月は施設内コロナ感染症のため中止とした。 ※苦情相談件数は0件であったが、第三者委員との対話を希望する利用者7人。
苦情解決協議会	年4回	

【実施状況】

受付件数	解決件数	繰越件数
延0人	0件	0件

※ 令和5年度は、利用者・家族からの苦情相談は無かった。

(8) 実習・実務研修等受入れ

将来の担い手となり得る実習生を積極的に受入れし、知識習得に貢献するとともに福祉への理解を務めた。

依頼元(実習内容)	受入期間	人 数
青森明の星短期大学(介護福祉実習Ⅱ-B)	8/8~8/27	1人
青森明の星短期大学(介護福祉実習Ⅱ-C)	8/30~9/24	1人
青森県立保健大学(ソーシャルワーク実習Ⅰ)	10/30~11/15	2人
青森県立保健大学(ソーシャルワーク実習Ⅱ)	8/14~9/30	2人
青森県立保健大学(社会福祉基礎実習1年生)	7/5・7/6	8人
青森県立保健大学(ヘルスケアマネジメント実習)	10/11・10/12・10/13	10人
青森大学(ソーシャルワーカー実習Ⅰ)	11/20~11/30	2人

(9) 食品ロス軽減活動

コープフードバンクは品質に問題ないものの、やむなく廃棄されてしまう食品を無償で提供を受け、支援を必要とする福祉分野の施設・団体に必要な食品を寄贈し食べられる食品を有効に活用する活動である。安生園でもこの趣旨に賛同し定期的に食品の提供を受け、利用者の方々への食事提供へ有効活用してきた。

月 日	提供生鮮食品類	使用用途
4月 3日 (月)	◎根菜類系	安生園・すこやか苑に入所する方々への食事提供食材や、おやつとして提供した。
5月 8日 (月)	(白菜、ほうれん草、サニーレタス、人参ジャガイモ・里芋、青梗菜、蓮根等)	
6月12日 (月)	◎フルーツ系	
7月17日 (月)	(バナナ、キウイ、リンゴ、ぶどう等)	
8月21日 (月)	◎キノコ系	
9月25日 (月)	(椎茸、しめじ、えのき、なめこ等)	
10月30日 (月)		
12月 4日 (月)		
1月15日 (月)		
2月19日 (月)		
3月25日 (月)		

II 老人居宅介護等事業安生園（ヘルパーステーションあんじょう）

1 概 要

訪問介護事業所は、安生園利用者の介護施設等への移行に伴う利用者減少により昨年度実績を下回る結果となった。

福祉有償運送事業においては、介護タクシー、介護保険外サービスである福祉タクシーとともに需要が増え増収となった。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

訪問介護事業所は、平均利用者数が月 50 人と、目標としていた月 55 人には届かなかったが、サービスを利用されている方の新たなニーズからサービス追加等は随時行った。地域包括支援センター、居宅介護支援事業所より新規の受入れ、サービス追加の依頼があり、新規については 9 人と契約した。

要介護利用者数は、前年比延べ 420 人減、収入は 915 千円減となった。また、介護予防利用者数は、前年比 24 人減、収入は 169 千円減となり、合計で 1,085 千円の減収となった。

福祉有償運送事業においては、前年比 62 千円増となった。介護保険内サービスである介護タクシーの稼働率は前年比 12 千円増、介護保険外サービスである福祉タクシーは利用人数が増え前年比 50 千円増となった。

(2) 職員の質の向上

令和 5 年度は職員の離職はなかった。

事業所内研修を毎月実施したほか、外部研修にも可能な限り参加し各職員のスキルアップを図った。

3 職員の状況

職名	管理者兼サービス提供責任者	サービス提供責任者	訪問介護員	計
人数	1	1	8	10

4 事業の実施状況

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護事業

訪問介護		予防介護		合計	
延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)	延利用人数(人)	請求書発行額(円)
6,773	23,938,176	354	1,054,347	7,127	24,992,523

(2) 福祉有償運送事業

	福祉タクシー	介護タクシー
走行距離 (km)	237.2	2,120.5
利用人数 (人)	32	365
輸送回数 (回)	62	757
収入 (円)	70,200	241,900
収入合計 (円)		312,100

Ⅲ 居宅介護支援事業安生園（居宅介護支援センターあんじょう）

1 概要

令和5年度は、介護支援専門員3人体制となり、特定事業所加算Ⅲを取得し業務を行った。

令和5年8月から、利用者獲得のため介護予防支援のケアマネジメントも開始した。介護予防支援の報酬単価は低いものの、要介護状態に移行後も担当することにより、要介護支援の利用者獲得につなげることができた。しかし、第3四半期からは、安生園利用者の施設移行等の影響を受け、利用者数減少となった。

研修会等はコロナウイルス等の感染症対策で、zoomを活用してのリモート研修などの受講を進めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定的経営基盤の確保

8月より介護予防支援のケアマネジメントを開始したが、安生園の利用者の介護サービス利用者数の減少により、安生園利用者の契約終了が続き、前年度比延べ1,010人に対し1,002人と8人減となり、居宅介護支援費では671千円の減収となった。

(2) 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、オンラインでの外部研修の受講を進めるとともに、毎週の定例会議を利用して「介護保険法」等の制度理解と事例検討会を繰り返すことにより、職員の資質向上ができた。

また、長期間にわたる専門研修課程である主任介護支援専門員更新研修も1人受講し、加算条件の維持、継続に努めた。

3 職員の状況

職名	管理者 (主任介護支援専門員)	介護支援専門員	計
職員数	1	2	3

4 事業の実施状況

居宅介護計画		予防介護計画		認定調査		合計	
延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行 (円)	延利用 人員 (人)	請求書 発行額 (円)
949	16,307,750	53	246,726	0	0	1,002	16,554,476

第4 障害者総合福祉センターなつどまり

1 概況

法人の基本計画初年度にあたる令和5年度においては、5つの基本目標及び各施設の事業計画に則した事業展開を重点的に取り組んだ。

特に経営基盤の安定に向けては、法改正や社会情勢を把握しながら、利用者及び職員の確保等に積極的に取り組んだが、しらかば寮では高齢利用者の入院を経ての退所者が多く発生し、利用率の低迷が続いたため収支面では厳しい状況となった。また、職員の確保では、両施設とも年間通して欠員が生じ、コロナ感染等も発生したため支援体制上困難に直面することもあった。

一方、光熱費等の物価高騰への対策として、節電・節水等に努めたほか、県の物価高騰対策支援金の交付を受け、施設経営における経費の負担軽減に努めた。

I C T化の推進においては、利用者へのサービスの向上と施設運営の改善・活性化のため、I C T委員会からの提言を受け、「アアムス」(見守り介護ロボット)の導入(補助金活用)のほか、Wi-Fi環境の整備やサイボウズ(職場内の情報にアクセスできるツール)を取り入れるなど情報共有の強化を図った。

職場環境の向上においては、ハラスメント防止対策における指針策定や朝の申し送り時の読み合わせ事項の整備、ストレスチェックの実施、新たな相談窓口の設置など、メンタルヘルスケアの充実と働きやすい職場環境づくりに取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症については、予防対策に取り組んできたものの、何度かクラスター感染が確認されたため、その都度、日課の変更や行事の中止、迅速なゾーニング、欠員職員の穴埋め、頻繁な所内消毒など徹底した感染対策を取り、係る経費は補助金も活用し施設運営に努めた。

災害対策については、B C Pに基づいて必要な物品等の整備・点検と防災訓練等を実施した。

2 重点事項の実施状況

(1) 感染症の予防対策とウィズコロナに向けた取組

① 感染症基本対策の徹底と感染症関係研修の実施

新型コロナウイルス感染症5類移行後の感染拡大防止策として、職員や家族の健康管理や不調時の報連相を徹底した上で、出勤困難休暇等を活用しながら感染防止対策に取り組んだ。また、感染症関連等の研修や訓練により施設機能の維持に向けての対策強化に取り組んだ。

② 面会日、外出、帰省等の制限緩和

面会については、感染状況を見ながら、ガラス越し面会や旧館での個別面会、オンライン面会で対応した。外出、帰省等については、少人数での対応やお盆や正月等の時期を避ける等の配慮をしながら実施した。

(2) 人材育成と定着

① 人事評価等に係る個別面談等の定期的な実施

個別面談は定期的な実施し、職員処遇の公正化、組織運営の効率化を図ったほか、職員のストレス等の程度を把握して働きやすい職場づくりに努めた。

② O J Tの実施と計画的な研修受講

エルダー制度やユニット会議等を活用したO J Tの実施とサポーターズカレッジ(Web講義)など多様な職員研修を実施し、職員の専門性の向上を図った。

(3) 働きやすい職場づくり

- ① 業務を円滑に進める組織風土づくりを推進するため、3S（スマイル、セイケツ、スタイル）運動に取り組み職場環境の改善に努めた。
- ② 総実労働時間の短縮を目指し休暇取得推進と時間外勤務の縮減を図ったものの、コロナ感染や職員の欠員もあり必ずしも十分な成果が得られなかった。
- ③ 新たな職員相談窓口の設置により、職員が抱えているメンタルの不調などの悩みに随時必要な対応を実施した。

3 職員の状況

所 属 (職員数)	所長	寮長	課長	主任	副主任	支援員	看護師	事務員	栄養士	運転員	専任 当直員	合計
総務課	1		1					2	2	1	3	10
しらかば寮		(1)	1	2	5	39						47 (1)
さつき寮		1	1	1	2	22	2					29
合 計	1	1 (1)	3	3	7	61	2	2	2	1	3	86 (1)

※所長はしらかば寮長(1)を兼務とし、しらかば寮副主任5人に看護師計2人含む。

※さつき寮相談支援事業所はさつき寮として集計し、嘱託医は除く。

4 職員研修

当法人の人材育成実施要綱及び施設内研修計画に基づいた研修を実施し、高い専門性や職級に応じたスキルを備えた職員の育成に努めた。特に、新任職員の早期戦力化に向け、新任職員育成プログラムを作成し実施するほか、施設全体でOJTを推進する体制に努めた。

また、自己啓発の一環として、サポーターズカレッジ（Web 講義）を全職員で受講しスキル習得を図ったほか、職員個々の資格取得を推奨したことから、介護福祉士3人、介護支援専門員1人の資格取得に至った。

5 健康管理

健診（血液検査・心電図・結核検診・血圧測定・尿検査）や癌検診（30歳以上の女子利用者には子宮癌検診、20歳以上の女子利用者には乳癌検診、40歳以上の利用者には胃癌及び大腸癌検診）を実施しながら、嘱託医（精神科）や家庭との連携を強化し、疾病の早期発見及び早期治療に努めた。

なお、協力医療機関はもとより、緊急時には県立中央病院や嘱託医、家族等と連携し迅速に対応した。

6 食 事

食事は健康保持のため重要なものであり、施設生活における大きな楽しみの一つでもあるので、少しでも家庭的な雰囲気の中、楽しくゆっくりくつろいだ食事ができるよう配慮しながら提供した。

また、季節の食材を取り入れた多彩な献立や暦行事に合わせた行事食等の提供に努めるとともに、利用者の栄養・健康状態に着目した栄養マネジメントを実施した。

嗜好調査や給食委員会においても、利用者等の意見・要望を取り入れながら、介護食を試行するなど利用者の食生活の充実に努めた。

7 安全・防犯対策

(1) 安全対策

- ① 利用者の安心・安全な生活を維持するため、事故等の未然防止に努めるとともに、施設設備の保全に取り組んだ。
- ② 事故発生時においては迅速な対応及び職員間の連携が必要であるため、各種マニュアルの周知徹底を図るとともに、インシデント、アクシデントレポート等の速やかな報告と内容の検討により対応策を講じた。

(2) 防犯対策

外部からの不審者等侵入に対する危機管理の観点から、利用者の安全確保を最優先とした危機管理体制マニュアル（不審者対応）の周知徹底を図るとともに、不測の事態を想定した不審者等に対する防御用具の使用方法及び対応・実技についても専門機関（警察等）の協力を得て訓練を実施した。

8 災害・感染症対策

(1) 災害対策

- ① 新採用及び転入職員等に対し、非常時における対応について防災教育を行った。
- ② 消防・防災（風水害等）計画に基づいて消防訓練及び風水害等を想定した訓練を実施したが、新型コロナウイルス感染症予防対策のため地域防災協力隊や関係機関との連携を強化できなかった。また、防災及び関連設備、機器の取扱い、使用方法については訓練し周知を図った。
- ③ 非常時の備蓄食品（水・食材）として、常時3日分を確保するとともに、保管にあたっては衛生面や備蓄食品を分散させておくなどに留意した。
- ④ 自然災害におけるBCPを策定し職員に周知するなど災害対策の強化を図った。

(2) 感染症対策

- ① 新型コロナウイルス等感染症予防対策として、ワクチンの予防接種や手指のアルコール消毒、うがい、手洗い、マスク着用を含む咳エチケット、黙食、三密を避ける等を徹底するほか、感染症対応のBCPに基づく整備を実施した。
- ② 感染者発生時は、迅速なゾーニング等感染対策対応を実施し、感染拡大を最小限に収めた。

9 実習・ボランティアの受入れ

地域の人々や学校等によるボランティア活動は、新型コロナウイルス感染症予防対策により、積極的かつ計画的に受入れすることが出来なかった。

また、社会福祉に関する知識と専門性を有する地域の社会資源として、実習については、県立保健大学、明の星短期大学から受入れし実施した。

10 地域社会との連携

地域との連携について、新型コロナウイルス感染症予防対策により積極的な交流等は難しい状況であったが、春時期、小豆沢地区での清掃奉仕活動（道路のごみ拾いと川へのEM菌投入）の行事があり、地域住民と交流することができた。

また、関係機関等と連携し、短期入所事業や日中一時支援事業、地域生活支援拠点事業を実施し、地域で生活する障害児者を支援した。

さらに、共生社会の実現と社会福祉法人の使命である社会貢献に積極的に取り組む必要があることから、平内町の健康・福祉に関する各種会議（自立支援協議会、健康・福

社推進協議会、地域ケア会議等) に職員が委員として参加するなどして、多様化・複雑化が進む地域の福祉ニーズを的確に把握しながら対応した。

第4-1 障害者支援施設しらかば寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業しらかば寮

1 概況

令和5年度においては、寮の「基本理念」の下、利用者の人権尊重と権利擁護の推進、個々の有する能力及び適性に応じ自立した日常生活や社会生活が営めるよう支援の充実に努めた。

特に利用者の重度化や高齢化が進み、介護ニーズや医療ニーズが高くなっていることから、それぞれの支援においては、利用者にあったペース、体力、安全などを考慮しながら、また、身体状況の変化や機能低下が著しい利用者には、迅速に医療機関とも連携しながら適切な対応に努めた。

令和5年度は6人の利用者が医療機関入院中に亡くなり、1人の利用者が介護施設に移行、さらに1人の利用者が自宅での生活に移行した。新規利用者は在宅から3人、障害児施設から2人、精神科医療機関より1人、他施設から1人の受入れを行った。

新型コロナウイルス感染症においては、しらかば寮内で3度の感染が発生し、利用者及び職員併せて延べ37人が感染した。利用者は施設内療養となったが重篤な状況とならずに収束することができた。

経営状況については、新規入所以上に退所者が増えた影響があり、平均利用率92.8%に減少し、利用者の入れ替わりにより平均区分が5.3に落ち込んだこともあり、当初の見込より減収となった。また、物価高騰や新電力の契約打ち切り等光熱費の上昇、新型コロナクラスター対策費により支出が増大し収益の落ち込みにつながった。

また、感染症対策に最大級の注意を払いつつ家族との交流及び外来者との交流を徐々に緩和し、行事や外出、面会等も段階的に再開した。特に利用者のストレスの軽減や余暇の充実のため、グループでの外出や買い物外出（ハンバーガーや牛丼など食べ物の持ち帰り）など、延べ70回、179人の利用者が参加した。面会については、コロナ感染対策期間は中止としたが、その期間以外は、オンライン、ガラス越し、個別面会等を実施した。

2 重点事項の実施状況

(1) 重度利用者・発達障害利用者に対する支援の充実

① 強度行動障害支援者養成研修の受講

行動障害を有する利用者への支援の充実のため、強度行動障害支援者養成研修では基礎研修に5人、実践研修へ2人の職員を参加させた。

② 外部関係機関との連携（コンサルテーションの活用）

発達障害者支援センターのコンサルテーションを3回実施し、利用者の個別の状況についての助言を得て支援に反映させた。

③ 特性等に応じた個別活動の提供

個別の活動については、利用者の特性や興味に応じた外出を54回実施するとともに調理体験なども行った。

(2) 高齢利用者に対する支援の充実

① 医療機関との連携強化

協力医療機関である平内中央病院の協力により、介護技術に関する研修会を実施したほか、利用者の個別の状況についてカンファレンスを開催し支援力向上に努めた。

③ 介護技術研修の受講

介護技術・認知症等の研修については、高齢利用者に対するレクリエーション研修のほか、国立のぞみの園が主催する高齢障害者における認知症セミナーに5人の職員がオンラインで参加した。

④ 生きがいづくりの個別活動の提供

個別の活動については、小グループ外出を24回実施するとともに、書道教室を再開し9回実施した。また、1人のボランティアを受け入れ利用者のコミュニケーション機会の確保に努めた。

(3) 安定した経営基盤の強化

① 実態に則した障害支援区分再認定の申し立て

障害支援区分が実態と離れている利用者について、9月に再認定を実施し適正な支援区分となるよう努めた。

② 県内外の行政機関、相談支援事業所との利用者獲得への取組

県内各地の相談支援事業所に利用者募集を働きかけ、24件の情報提供があり、その内7人の利用者が入所に繋がった。一方でそれを上回る利用者が退所となり経営基盤の強化を図ることが出来なかった。

(4) 組織機能の強化

① 職員ユニット制による職員育成

職員ユニット制については、業務内ではユニット間で協力する体制で勤務しているが、ユニットリーダーを中心としたユニット会議において、利用者の抱える支援課題について対策を検討する体制を進め、組織運営の効率化に向けて継続的に取り組んだ。

② ICTを活用した業務体制に向けた準備

サイボウズは12月下旬に導入し、職員間での情報共有が図られた。
インカムについては、環境整備（Wi-Fiエリアの拡大）を必要とし、年度内に環境を整えた。導入にあたっては、次年度検討することとした。
その他のシステム等においても、ICT委員会を中心に情報共有や協議を図り、必要とするシステム導入に向け、検討を重ねる。

③ 介護ロボット・介護機器導入に向けた検討

介護機器等については、令和5年度青森県障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業において見守り介護ロボット「アアムス」が採択されたため、3台の導入を行い、主に夜間における業務の効率化を図った。

(5) 障害福祉サービスの適正化及び虐待防止の意識の徹底

① 各種マニュアルの見直し

各種マニュアルの整備として、昨年度策定した身体拘束等適正化指針について、5月に指針の見直しを行った。また、ハラスメント防止について令和2年度に法人の防止要綱が制定されたところではあるが、より適切に対応できるよう、なつどまりとしての指針を策定した。

② 職員の倫理意識の向上と専門性を持った支援の充実（意思決定支援指針等の策定）

今後義務化される意思決定支援について、指針を策定し職員の意思決定支援に対

する啓発を行った。

(6) 生活支援環境の整備・向上

① 居住棟見直しの検討

居住棟再編成については、女性利用者獲得の取組を行ったところ、令和5年度に3人入所となったため、現状の男性47人、女性33人の体制を維持し、中・長期的に設備の改修も含めて再度検討することとした。

② 食事内容の見直しに向けた検討

介護食に向けた取組として、行事等で加熱式ミキサーを試用しパン粥及び餅ゼリーを提供した。

③ 支援環境の改修に向けた検討

支援環境の改修では、弾力的な居室調整を行えるよう2床室1室を個室2室へ改修した。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	生活介護	施設入所
定 員(人)	80	80
令和4度末現在利用者数(人)	78	78
令和5度内退所利用者数(人)	8	8
令和5度内入所利用者数(人)	7	7
令和5度末現在利用者数(人)	77	77

(2) 年齢別利用者数

男女別 年齢別	一課 (一般棟)			二課 (高齢者棟)			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
10～19	2	1	3				2	1	3
20～29	8	3	11	1		1	9	3	12
30～39	7	1	8	1		1	8	1	9
40～49	3	6	9	3		3	6	6	12
50～59	3	2	5	4	1	5	7	3	10
60～69		6	6	8	2	10	8	8	16
70～79				6	4	10	6	4	10
80以上				1	4	5	1	4	5
合計(人)	23	19	42	24	11	35	47	30	77
平均年齢(歳)	32.7	47.5	39.4	60.7	73.7	64.8	47.0	57.1	50.9

(3) 障害支援区分別利用者数

男女別 障害支援区分別	一課 (一般棟)			二課 (高齢者棟)			合計(人)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
区分1									
区分2									
区分3					1	1		1	1
区分4	2	4	6	2	2	4	4	6	10
区分5	8	7	15	11	5	16	19	12	31

区分6	13	8	21	11	3	14	24	11	35
合計	23	19	42	24	11	35	47	30	77

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

主に日中に入浴、排泄、食事等の介護や、創作的活動、身体機能や生活能力の維持・向上のために必要な支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。特に、身体機能の低下に起因する転倒、転落、誤嚥等のリスク軽減に配慮した支援を行った。

② 班編成による創作的活動、リサイクル活動の実施

ア 生活リズム班

ADL等の自立度により、年間個別支援計画に沿った支援を行った。体力維持及び健康面に配慮しながら、屋内外の歩行、ライトコートでの日光浴、リズム遊び、体育館で遊具を使用して身体を動かした。また、個別のニーズ把握に努め、一人ひとりの特性や趣向に応じて音楽鑑賞、創作的活動、リサイクル活動等を行った。

イ 介護予防班

利用者のADLや障害特性に配慮し、健康体操、個別リハビリ、趣味活動を行いストレスの軽減に努めた。

③ 健康衛生の向上

ア 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴う生活習慣病とともに、行動の低下による廃用症候群等の出現への対応が課題となってきた。特に糖尿病、脂質異常を発症する利用者が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食の取り方を見直し、生活習慣病の予防に努めるとともに、毎月体重測定と運動を励行した。

イ 医療状況

嘱託医診療

精神科（青森県立つくしが丘病院）月2回

ウ 検診状況

対象者 全員

検診内容 血液検査、心電図(年2回)、結核検診

各癌検診（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施）

エ インフルエンザ予防対策

インフルエンザワクチンを接種するとともに、抗菌マスク、微粒子マスク、使い捨て予防衣、使い捨てキャップ、使い捨てシューズカバーを準備し、うがい、手洗いの励行、アルコール手指消毒器の使用、マスク装着の指導、換気、大型加湿器による環境整備を行い、予防対策に努めた。

オ 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスワクチンを接種希望する利用者及び職員へのワクチン接種を2回実施した。

新型コロナウイルス感染症対策として、面会の制限や施設に入る業者に対する検温（37.5℃以上は入室不可）と手洗い、うがい、アルコールでの手指消毒、マスクの装着を徹底し感染対策に努めた。職員も出勤時に身体症状及び検温（37.5℃以上

は勤務不可)と手洗い、うがい、アルコール消毒、マスクの着用を義務付けた。また、新型コロナウイルス感染症発症時の対応セット(N95マスク、フェイスシールド、保護用予防衣、使い捨て手袋、アルコール除菌タオル)を常備し、必要時には速やかに使用し感染拡大防止に努めた。

感染者が発生した際は、ゾーニングやホーム単位でのコホーティングを行うとともに、保健所・かかりつけ医と連携して早期収束に努めた。

カ その他の感染症対策

手指消毒器を一課、二課に設置して手指の消毒を指導したほか、毎食後に食堂のテーブル、椅子、手すり、ドアノブ等を除菌ウェットタオルで消毒し、食中毒などの感染症予防を強化した。

感染性胃腸炎の予防と蔓延防止対策として、発症時対応セット(バケツ、ペーパータオル、塩素系消毒剤、ゴミ袋、使い捨てマスク、使い捨て手袋、使い捨て予防衣、使い捨てシューズカバー、処理マニュアル)を各棟に用意し、感染症マニュアルに則った感染予防に努めた。

キ 通院状況

区分 科別	通院状況		服薬者状況
	実人員	延回数	実人員
内科	43	419	31
精神科	62	661	55
耳鼻科	1	1	
歯科	22	160	
皮膚科	5	15	2
外科	6	23	1
整形外科	19	120	7
眼科	1	3	
泌尿器科	9	97	7
脳神経内科	2	6	
消化器内科	2	4	
合計	172	1,509	103

ク 入院状況

区分 科別	実人員	延日数	病人
内科	6	577	肺炎(誤嚥性含む) 老衰、食思不良 新型コロナウイルス
脳神経内科	2	228	脳出血
精神科	1	82	不穏
整形外科	1	62	両内側尖足手術
外科	2	176	子宮体がん、大腸がん
泌尿器科	1	89	腎盂腎炎(敗血症)
合計	13	1,214	

④ 音楽療法の実施(実施日・場所)

グループセッション（月1回 木曜日の午前：二課食堂）

一課利用者3人、二課利用者10人 実施回数4回

※新型コロナウイルス感染症クラスター発生により活動を中止したことがあった。

⑤ チェアヨガ活動

身体機能の活性化を図るため、チェアヨガの講師を月2回招く予定であったが、講師との日程調整が合わず活動を中止した。

⑥ アニマルセラピー

利用者の生活に潤い及び情緒の活性化を図るため、青森アニマルセラピー協会の協力を得て2回実施した。

⑦ 個別及びグループ毎の外出の支援

買物・外出体験を通して、金銭の使い方、社会のルール、マナーを学んでもらうとともに、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、個別・グループで楽しい時間を過ごす事を目的に実施した。

⑧ 出張販売、調理体験

コロナ禍で外食を控える中、非日常的な体験として、飲食店や衣料店から出前や出張販売の受入れを6回行った。

また、食に関する理解を深められるよう、調理体験を実施した。

実施日	参加	内容
4月15日	調理40人	調理体験 ホットケーキ
5月20日	調理40人	調理体験 やきそば
5月20日	調理34人	調理体験 ゼリー
6月24日	調理34人	調理体験 プリン
6月27日	71人	出張販売 パフェ外(フルーツキッチンロンロン)
7月22日	調理34人	調理体験 かき氷
7月27日	40人	出張販売 衣類(なるみや)
7月29日	調理40人	調理体験 フルーツサンド
8月19日	72人	出張販売 オムライス外(キッチンテルテル)
8月26日	調理40人	調理体験 ハンバーガー
9月15日	23人	出張販売 たこ焼き(カピリナ)
9月23日	調理34人	調理体験 わたあめ、かき氷
10月14日	調理34人	調理体験 ゼリー
11月2日	40人	出張販売 衣類(なるみや)
11月4日	調理34人	調理体験 和菓子
12月7日	23人	出張販売 焼肉弁当(ひがしやま)
12月16日	調理34人	調理体験 ドリンク
2月17日	調理40人	調理体験 プリンパフェ
2月22日	調理34人	調理体験 餅ゼリー
3月24日	調理34人	調理体験 カラフルドリンク

(2) 施設入所支援事業(居住系サービス)の実施状況

居住の場を提供し、入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談のほか、生活介護等の日中活動と合わせて支援を行った。

① 個別支援計画によるサービス提供

利用者一人ひとりの能力・適性・ニーズ等に基づいた個別支援計画を作成し支援目標の達成に向けた支援を実施した。

② 余暇活動・趣味的活動等の充実

ア 個別及びグループ毎の外出の支援

新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、青森市、平内町を中心にドライブ外出等を計画し実施した。また、個別外出については希望に応じて買物、テイクアウト等随時実施した。また、小グループでの外食も再開した。

イ 招待外出

新型コロナウイルス感染症防止のため中止とした。

ウ 外部講師による活動の支援

書道 実施日：月2回（第2、4水曜日）9:30～10:30
参加者：一課利用者1人、二課利用者6人
実施回数9回

③ 生活環境の整備

ア リネン・寝具交換

平成24年度から、外部業者と寝具の賃貸借契約を締結している。シーツ等週1回、タオルケット・肌掛けカバー月1回、布団カバー月1回、掛け・敷き布団年1回の交換を行った。

イ 洗顔用具等の洗浄、管理

歯ブラシ、コップ、洗面器等を週1回消毒・洗浄し、個々の収納棚に保管するなど、衛生管理に努めた。

ウ 居室等の大掃除

各居室内、食堂の換気扇及びエアコンフィルターの掃除、ライトコートの大掃除を年2回実施した。その他、春の大掃除と年末の煤払いを計画的に行った。委託業者による特別清掃は年6回実施した。

エ 室温等の管理

冬期間の乾燥対策として各ホームに加湿器等を設置し、湿度の調整を行った。

(3) 利用者の権利擁護の推進

① 人権委員会の開催

人権委員会を年12回開催し、その中で苦情解決事業（委員会）や虐待防止事業（委員会）、身体拘束適正事業（委員会）についてそれぞれの事案について報告・検討を行った。また、委員会の議事録については、全職員に周知した。

② 苦情相談システムの利用促進

苦情件数は0件、相談件数は4件だった。苦情ではなく不安、相談を述べるだけのものであった。

苦情内容	件数
サービスの質や量 (食事内容、サービス提供に関する不満など)	0
利用者間の人間関係など	0
職員の対応(態度、言葉づかいが悪いなど)	0
被害/損害(預り金、所有物の紛失など)	0
権利侵害(虐待、プライバシー侵害など)	0
生活環境(設備など)	0 (相談4)
病気/怪我/医療面	0
その他(上記以外のもの)	0
合計	0 (相談4)

苦情解決協議会及び虐待防止協議会を10月と2月に開催し、第三者委員や利用者代表、保護者代表からそれぞれ意見をいただいた。

③ 意思決定支援の推進

意思決定支援について、今後の義務化に先駆け3月に意思決定支援指針の策定を行い、職員に向けて啓発を行った。

④ 利用者への情報公開・情報提供の充実

各種情報については掲示板を活用するとともに、事業計画や、事業報告の概要等については利用者説明会を開催し、その中では写真やパンフレット等を活用し、利用者に分かりやすい方法を採用し説明した。

(4) 地域交流

新型コロナウイルス感染症防止のため、地域交流を兼ねた行事等では小豆沢地区での清掃奉仕活動以外は全て中止とした。

(5) 家族との連携

新型コロナウイルス感染症防止のため、オンラインやガラス越しの面会等直接の対面は行っていなかったが、6月より旧館での個別面会を再開した。また、一時帰省についても個別対応として再開した。

① 利用者個別支援計画

個別支援計画については、その内容を家族と十分協議しながら設定した。また、支援目標や支援経過についても電話や書面等を通じて随時家族へ説明した。

② 保護者全体懇談会

新型コロナウイルス感染症防止のため年2回の全体懇談会については中止とし書類配布を行った。

(6) 利用者の安全面の確保

利用者等の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るため、毎月リスクマネジメント委員会を開催し、アクシデントレポート等の検証、対策を話し合い支援会議等で職員へ周知した。

事故内容		件数
病院受診や入院 (アクシデントLV 3以上)	骨折	1
	転倒	2
	救急搬送	4
観察及び寮内処置等 (アクシデントLV 2以下)	転倒・転落・衝突	133
	打撲・裂傷・擦り傷・出血・火傷等	31
	誤嚥・喉詰まり	0
	異食	4
	誤薬・服薬忘れ・落薬・薬持たせ忘れ	4
	他害・粗暴行為・器物破損	87
合計	その他	66
合計		332

(7) 職員研修

令和5年度は徐々に集合型の研修が再開となり、計画的に法人内外の各種研修に参加した。強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)に5人参加するとともに強度行動障害支援者養成研修(実践研修)にも2人参加した。外部関係機関と連携(コンサルテーションの利用)を図り、障害の理解と支援技術の習得に繋げた。また、高齢知的障害者

における認知症の研修にリモートで5人の職員が参加した。

なつどまり内での職員研修として、救命講習会や虐待防止研修会、感染症予防研修等を開催したほか、協力医療機関やオムツメーカーの協力を得て、介護技術やオムツ使用に関する研修を行った。

令和5年度よりオンライン研修「サポーターズカレッジ」を導入し、職員に向けて自身が自己啓発できる機会の提供を行った。

なつどまり合同研究発表会においては、日頃の支援の研究成果を発表（4題）し、そのうち1題が青森県保健医療福祉研究発表会に選定されるなど、更なるサービスの向上を目指し取り組んだ。

(8) 行事の実施状況

実施期間	内 容	参 加	備考(行先など)
4月11日	外出(買物)	一課 1人	サンロード青森
4月24日	外出(ドライブ)	一課 4人	テイクアウト coco壺番屋大野店
4月27日	外出(買物)	一課 2人	萬屋東バイパス店
5月2日	行事 花見会	二課	
5月12日	行事 花見会	一課	
5月15日	外出(買物)	一課 1人	サンロード青森
5月18日	外出(買物)	一課 2人	廣田神社外
5月22日	外出(ドライブ)	一課 4人	テイクアウト サーティワン浪館店
5月23日	外出(買物)	一課 1人	しまむら浜館店外
5月25日	外出(買物)	二課 1人	ラセラ東バイパス店
5月27日	外出(買物)	二課 2人	マックスバリュ平内店
6月8日	外出(買物)	一課 1人	トーカイ青森店外
6月13日	外出(買物)	二課 1人	ラセラ東バイパス店
6月24日	外出(買物)	二課 2人	ラセラ東バイパス店
6月25日	外出(ドライブ)	一課 8人	テイクアウト サーティワン浪館店
6月25日	外出(買物)	一課 3人	オレンジハート平内中野店
6月26日	外出(買物)	一課 2人	萬屋浜館店外
6月29日	外出(買物)	二課 2人	ラセラ東バイパス店
7月7日	行事 七夕会	一課・二課	
7月8日	外出(買物)	一課 1人	トーカイ青森店外
7月12日	アニマルセラピー	13人	
7月22日	外出(買物)	二課 1人	ヤマダ電機青森本店
7月23日	外出(買物)	一課 2人	川よし、しまむら浜館店外
7月25日	利用者説明会	合同	事業計画概要等説明
7月27日	音楽療法	13人	グループセッション
7月28日	外出(買物)	二課 1人	ラセラ東バイパス店
7月28日	外出(買物)	一課 3人	ラセラ東バイパス店
7月28日	外出(買物)	一課 1人	ザ・ビッグ青森東店外
7月29日	外出(買物)	一課 3人	ラセラ東バイパス店
7月30日	外出(ドライブ)	一課 5人	テイクアウト 銀だこイオン青森店
8月2日	行事 障害者スポーツ大会	8人	
8月4日	行事 たのしみっこ BBQ	一課・二課	
8月18日	行事 納涼会	一課・二課	ホームごとで実施
8月20日	外出(ドライブ)	一課 20人	夏泊半島

8月31日	外出（買物）	一課 1人	しまむら浜館店外
9月1日	外出（買物）	一課 3人	サンロード青森
9月15日	行事 長寿を祝う会	合同	
9月19日	行事 納涼会代替行事	一課・二課	花火
9月19日	外出（買物）	一課 1人	しまむら浜館店外
9月21日	外出（ドライブ）	一課 3人	テイクアウト モスバーガー青森佃店
9月25日	外出（ドライブ）	一課 3人	テイクアウト すき屋東バイパス店
9月26日	外出（買物）	二課 2人	ラセラ東バイパス店
9月26日	外出（買物）	一課 3人	しまむら青森中央店外
9月27日	外出（買物）	一課 1人	ザ・ビッグ青森東店外
9月28日	音楽療法	13人	グループセッション
10月16日	外出（買物）	二課 3人	ゆーさ浅虫
10月19日	外出（鑑賞）	一課 3人	浅虫水族館
10月20日	外出（買物）	二課 3人	ミニストップ浅虫店
10月21日	外出（買物）	二課 2人	マックスバリュ平内店
10月21日	外出（買物）	一課 1人	しまむら青森浜館店外
10月25日	行事 ハロウィン	一課	
10月26日	音楽療法	13人	グループセッション
10月26日	外出（買物）	二課 2人	ラセラ東バイパス店
10月27日	行事 ハロウィン	二課	
10月27日	外出（買物）	一課 1人	萬屋東バイパス店
10月29日	外出（ドライブ）	一課 7人	ミスターナツ青森観光通店
11月7日	外出（美術鑑賞）		七戸町鷹山宇一記念美術館
11月8日	アニマルセラピー	18人	
11月10日	外出（鑑賞）	二課 2人	浅虫水族館
11月10日	外出（食事）	一課 1人	まるまつ青森東店
11月12日	外出（ドライブ）	一課 4人	テイクアウト ランブルバーガー
11月13日	外出（鑑賞）	一課 2人	浅虫水族館
11月14日	行事 たのしみっこ	一課	
11月16日	音楽療法	13人	グループセッション
11月16日	外出（買物）	一課 1人	五所川原エルム
11月17日	外出（買物）	二課 2人	朝めし食堂
11月19日	外出（買物）	一課 2人	オレンジハート平内中野店
11月22日	外出（買物）	一課 6人	あすなろ温泉
11月24日	外出（買物）	一課 2人	浅虫水族館
11月25日	外出（買物）	一課 2人	廣田神社外
11月30日	外出（買物）	二課 1人	眼鏡市場浜館店
12月1日	行事 たのしみっこ	二課	
12月7日	外出（買物）	一課 1人	しまむら浜館店外
12月11日	外出（買物）	一課 3人	びっくりドンキー青森東バイパス店
12月15日	外出（買物）	一課 2人	青森大勝軒小柳店
12月20日	外出（ドライブ）	一課 5人	テイクアウト ほっこりご飯屋輔
12月22日	行事 クリスマス会	一課・二課	
1月10日	行事 成人式	1人	
1月12日	行事 新年会	一課	

1月17日	外出（買物）	一課 1人	ドコモショップ青森ラセラ店
1月18日	外出（買物）	一課 1人	ビッグボーイ青森大野店
1月20日	行事 新年会	二課	
1月21日	外出（ドライブ）	一課 5人	テイクアウト ジークフリート戸山店
1月23日	外出（買物）	一課 2人	善知鳥神社外
1月26日	外出（買物）	一課 1人	萬屋東バイパス店
1月28日	外出（買物）	一課 4人	テイクアウト KFC 東バイパス店
1月29日	外出（食事）	一課 4人	小巾亭東バイパス店
2月2日	行事 節分	一課・二課	
2月12日	外出（ドライブ）	一課 3人	テイクアウト モスバーガー佃店
2月23日	外出（ドライブ）	一課 3人	テイクアウト ミカド+東バイパス店
2月26日	外出（買物）	一課 1人	サンロード青森
3月3日	行事 桃の節句	一課・二課	
3月12日	外出（買物）	一課 2人	ラセラ東バイパス店
3月15日	外出（鑑賞）	一課 2人	浅虫水族館外
3月25日	外出（買物）	一課 1人	しまむら青森中央店
3月26日	利用者説明会	合同	事業報告概要等説明

II 短期入所事業しらかば寮

1 概況

在宅で生活している障害者の介護を行う者の疾病、その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者等に対して、空室があった場合のみサービスを提供し、入浴・排泄及び食事の介護、その他必要な支援を行う短期入所事業であるが、令和5年度は新規契約した2人（延べ9日）が利用した。

III 日中一時支援事業

1 概況

平内町の地域生活支援事業として、在宅利用者の家庭の介護負担を軽減するため利用者に活動の場を提供し、見守りや社会に適応するための日常的訓練を行う日中一時支援事業であるが、令和5年度の利用実績はなかった。

第4-2 障害者支援施設さつき寮

I 施設入所支援事業・生活介護事業さつき寮

1 概況

令和5年度は、利用者の人権尊重・権利擁護・虐待防止・身体拘束等適正化について継続的に取り組むとともに、職員相互のリスクマネジメントの強化を図るため、寮内のリスクマネジメント委員会を中心に、各会議において段階的に対策の検討、周知徹底に取り組んだ。

利用者の状況としては、障害の多様化と高齢に伴う認知機能や身体機能の低下が顕著となり、日常に係る手厚い補助や身体介護、健康管理等の支援度が高まっている。そのため利用者個々の特性に応じた支援に心掛け、さらには体調不良を示す場合には、医療機関等と連携を図り迅速な対応に努めた。

コロナ感染症に関しては、8月10日から19日までの間、7人（利用者5人、職員2人）が感染したが、旧館を活用した体制により最小限に抑えられた。感染者の状況も利用者、職員ともに深刻な症状に至らず、無症状や軽症で収束した。

日中の班活動（ゆとり加工班、加工班、クリーニング班、林産班）においては、当センター内で数回のコロナ感染拡大があったものの活動停止期間は短く抑えることができた。また、しいたけ栽培を小規模ながら再開し、販売（出荷）できたことで、就労支援収入全体で前年度を上回る519千円の増となった。さらには稼働時間も増えたため、利用者工賃でも前年度を上回る支給となった。

施設利用状況については、10月末に女性利用者1人が亡くなり59人となったが、特別支援学校を卒業する方が3月下旬に入所となり60人（満床）となった。通所利用者においては、平内町役場や関係機関のほか、地域の利用希望者を探るものの利用には至らず、昨年度と同様に5人に留まった。

行事においては、近隣の小豆沢町内会と当センター（利用者及び職員）による春の清掃奉仕活動を行い、4年ぶりの地域交流が図られた。また、施設内による「なつどまり祭」や「面会日」などの大きな行事は感染防止のため中止とし、代わりに寮内における各行事を充実させ、日帰り旅行や一泊旅行を4年ぶりに行った。外出等に関しては、制限していた単独の買物外出（平内町内限定）の再開、職員引率による青森市内及び平内町内の店舗等への買物外出等も計画どおり実施し、少しでも寮生活に潤いを持っていただくよう取り組んだ。

また、家族関係では、7月より外出制限を緩和して以降、希望する利用者と家族等の意向に沿う形で前提条件付きながら一時帰省や日帰り外出を実施することができた。また、面会日を中止したことに伴い、オンライン面会のほか、ガラス越し面会や旧館での面会も適宜実施した。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定した経営基盤の強化

- ① 入所者60人の定員満床及び生活介護の利用率97%を目標とした安定的収入の維持

施設入所では10月に1人が亡くなり4か月の空白はあったものの、3月に1人が入所し60人となった。生活介護では、入所者の長期入院2人と通所利用者の精神的理由や健康上の理由などから予定の利用日数に及ばず、利用率は95.8%と目標に届

かなかった。ただし、入所者の延べ利用日数や通所利用者の延べ利用日数が前年度を上回ったことで前年度比では増収となった。

(2) 重度・高齢化への対応

① 各種研修会への参加

事務局による各種研修会の実施のほか、外部研修（リモート研修含む）においても階層別やテーマ別など様々なカリキュラムで計画し、専門的知識の習得及び資質向上に努めた。

② 法人内施設（しらかば寮）実地研修の拡充

重度、高齢者の生活支援に必要な知識・技術の習得を目的に、しらかば寮での実地研修（5人）を行い、職員の養成・スキルアップを図った。

(3) 組織機能の強化

① 実践的な内部研修の実施

青森県発達障害者支援センターの協力を得て、特定利用者に感覚プロファイル（SSP）検査及び適応行動尺度（Vineland）を行い、参加した職員の協議結果を基にモニタリングを実施するほか、個別支援計画にも反映させた。

② ICT・介護機器の導入などによる業務の改善

12月下旬にサイボウズを導入し、職員間での情報共有が図られた。インカムについては、施設内のWi-Fiエリアの拡大が必要であるため年度内に整備をし、導入については令和6年度に検討することとした。その他のシステム等についても、ICT委員会を中心に情報共有や協議を図り、必要とするシステム導入に向け検討を重ねる予定である。

(4) 福祉提供サービスの質の維持と向上

① 各種マニュアル・指針の整備及び見直し

身体拘束等適正化指針の見直しを行い、生活支援マニュアルについても現状と異なる部分があるため修正し、職員へ周知を図った。

② 福祉サービス第三者評価の受審に係る準備

受審に係る評価機関との契約に向けた調整を行うとともに、評価基準における「評価の着眼点」の根拠となる必要書類の整備を行った。

(5) 生活支援サービスの充実

① 余暇時間の充実

日々の生活の中で利用者が楽しみを持てるよう、個々の活動ニーズを汲み取りながら、趣味等の補助や新たな活動の提案（ドリル算数、カードゲーム、ジャガイモ収穫体験、動画配信サービスによるアニメ・お笑い鑑賞など）に努め、余暇活動の充実を図った。

② 運動による基礎代謝の向上と筋力の強化

毎日夕方の体操に新たな介護予防運動のDVDを取り入れたところ、参加者の増とともに視聴しながら運動する利用者も増えた。ほかにも余暇時間を利用した敷地内の散歩や定期的なスポーツ活動の実施など、利用者の身体機能の維持、強化に努めた。

3 利用者の状況

(1) 入退所の状況

内 容	施設入所	生活介護 (通所を含む)
定 員(人)	60	60
令和4年度末現在利用者数(人)	60	63
令和5年度内退所利用者数(人)	1	3
令和5年度内入所利用者数(人)	1	0
令和5年度末現在利用者数(人)	60	60

※施設入所利用者 60 人のうち 5 人は生活介護の支給決定がなく、他就労継続支援 B 型事業所へ通所している。

(2) 年齢別利用者数

年齢区分	入所利用者		通所利用者		合計
	男	女	男	女	
10～19	1				1
20～29	6	2			8
30～39	12			1	13
40～49	7	5			12
50～59	3	1	2	1	7
60～69	10	6		1	17
70～79	4	2			6
80～以上		1			1
合計(人)	43	17	2	3	65
平均年齢(歳)	43.3	55.3	52.6	51.86	52.23

(3) 障害支援区分別利用者数

障害支援区分別	入所利用者		通所利用者		合 計
	男	女	男	女	
非該当					
区分 1					
区分 2			1	1	2
区分 3	2			1	3
区分 4	19	3			22
区分 5	14	9	1		24
区分 6	8	5		1	14
合計 (人)	43	17	2	3	65

4 事業の実施状況

(1) 生活介護事業（日中活動系サービス）の実施状況

① 利用者のニーズに応じた個別支援の充実

日常生活に必要な支援については、本人の主体性及び自発性を尊重しつつ、毎月の会議等で利用者支援に関して話し合いを持ち、サービス管理責任者を中心に個別支援の充実を図った。

② 開所日の設定

休日開所日については、余暇活動（パラスポーツ・映画上映・カラオケ・調理実習等）を中心に実施した。

③ 班活動

ア ゆとり加工班

加工班から古紙の提供を受け、古紙選別等の軽作業を実施した。作業内容を固定せず流動的に選択できるようにするとともに、個別のスケジュール等を活用し個々の特性に配慮し、集中して活動に取り組めるよう努めた。

イ 加工班

作業意欲はあるものの歩行での移動が難しい利用者に対しては車での移動を行い、できる限り本人が希望する作業班で活動できるよう配慮した。また、年間を通して活動できるよう作業資材の確保に努めるとともに、作業工程を細分化し、より多くの利用者が積極的に参加できるよう取り組んだ。

ウ 林産班

焚付用薪としいたけの生産・出荷を通して、体力維持と併せて働く喜びを感じられるよう取り組んできた。作業開始前に職員と利用者により作業手順の確認を行った結果、利用者全員が作業工程を理解し、予定数量を出荷することができた。

エ クリーニング班

体力に自信はないが、衣類をたたむ事ができる利用者がクリーニング作業を行い、働く喜びを感じることで心の安定を図った。

また、特定の利用者に負担をかけず、利用者全員が同じ作業工程を行うことができるよう、職員がやり方を示しながら支援した。

(2) 施設入所支援事業（居住系サービス）の実施状況

① 夜間におけるサービス提供

入浴、排泄、食事等の介護、生活等に関する相談・助言のほか、必要な日常生活上の支援を行った。

② 余暇活動の支援

個々の趣味や余暇活動への支援を行った。

(3) 健康管理

① 健康衛生の向上

ア 医療及び検診状況

利用者の健康管理については2人の看護師を中心に嘱託医等との連携を図り、疾病の予防と治療を適切に実施した。

また、以下による定期検診等を行い、健康状態の維持に努めた。

- ・ 嘱託医診療
精神科（つくしが丘病院）（月2回） 対象者：全員
- ・ 検診
血液検査、心電図（年2回）、結核検診（年1回） 対象者：全員
- ・ 各癌検診
（大腸・胃・乳・子宮～希望者のみ実施で本人負担）
- ・ 口腔ケア

歯周病、虫歯予防として食後の歯磨き指導、介助歯磨きを行った。歯科検診は隔年で実施しており、次回は令和6年度となる。

イ 生活習慣病の予防と対策

利用者の高齢化に伴い、生活習慣病の発病が増加傾向であるとともに、廃用性

症候群等への対応が課題となっている。特に年齢的な脂質異常を発症する方が増えてきており、適度な運動療法を取り入れ、食後の散歩や間食のとり方を見直し標準体重に近づけることを目標に取り組んだ。

なお、身体機能低下がみられてきた利用者の支援として介護予防運動を行った。

② 緊急時の対応

応急手当マニュアル、緊急対応フローチャートを職員室、支援員室に備え、AEDは食堂に設置している（職員は全員AED講習受講済み）。また、誤嚥、のどつまり時の対応用として、気道閉塞時フローチャートを食堂、支援員室に掲示し、口腔吸引ノズル付き掃除機（掃除用とは別の掃除機）と吸引器を食堂に常備し緊急時の対応に備えた。

③ 感染症予防対策

コロナ感染症の5類移行後も、手洗い、うがい、手指消毒を継続し、毎食後に除菌ウェットタオルによる消毒やドアノブ、手すり等の高頻度接触面の環境整備、個人防護服の適切な着脱トレーニングを行った。

インフルエンザに関しては、コロナ感染症と同様の対策に努めていたが職員2人が罹患したが、予防対策の徹底をしたことで利用者の罹患を防ぐことができた。

感染症を持ち込まない、拡げない対策として職員の健康観察（出勤時検温等）を日常的に行い、手指衛生・マスク着用を励行した。各感染症発生に備えマニュアルの整備・見直しを行うとともに、嘔吐物処理セット、個人防護具や手指消毒、環境整備用除菌ウェットタオル、検査キット等の備品を確保した。

感染予防、重症化予防のためインフルエンザワクチン（1回）、コロナワクチン（2回→6・7回目）の接種を実施した。

④ 各癌検診、結核検診の状況

検診人	要精密検査者	内 訳
胃 癌	0人	
大腸癌	2人	再検査し異常なし
子宮癌	0人	
乳 癌	0人	
結 核	4人	再検査し異常なし

⑤ 通院・服薬者状況

科別	区分	通院状況		服薬者状況
		実人員	延回数	実人員
内 科		37	282	21
精神科		40	538	40
歯 科		19	95	0
皮膚科		9	49	4
外 科		2	6	0
整形外科		8	36	1
眼 科		4	11	0
泌尿器科		3	39	2
脳神経外科		1	2	0
脳神経内科		2	10	0
循環器科		1	2	0
糖尿病外来		1	6	1

総合診療	1	19	1
歯科口腔外科	0	0	0
耳鼻科	2	4	0
婦人科	1	9	0
合計	131	1,108	70

⑥ 入院状況

科別	区分	実人員	延日数	病名
内科		1	1	敗血性ショック
精神科		2	191	統合失調症、ADHD
精神科		1	1	子宮内膜異型増殖症
合計		4	193	

⑦ 肥満状況

内 訳	男	女	合計
18.5 未満 (やせ)	4	1	5
18.5 以上～25 未満 (正常)	34	11	45
25 以上～30 未満 (肥満 1)	5	5	10
30 以上～35 未満 (肥満 2)	0	0	0
35 以上 (肥満 3)	0	0	0
合計 (人)	43	17	60

※BMIの数値は日本肥満学会による判定基準を基にした計算式で算出したものであり、内臓脂肪量とは関係ない。 $BMI = \text{体重 (kg)} \div (\text{身長 (m)} \times \text{身長 (m)})$

(4) 利用者の権利擁護の推進

苦情相談は、利用者自身からの申し出と意見箱から、毎月1回、第三者委員が受け付け、その後、苦情解決責任者による相談体制を取った。コロナ感染症対策のため3回は中止となり、苦情件数は0件だった。

苦情解決協議会（虐待防止協議会）については10月と2月、第三者委員や利用者代表、保護者代表が参加して開催した。

人権委員会は年12回開催し、苦情解決委員会や虐待防止委員会（アクシデント報告やSDSチェックリスト等の確認）及び身体拘束適正化委員会、研修や人権週間等について検討した。また、委員会の議事録については、全職員に周知した。

今後、義務化される利用者の自己決定を尊重した「意思決定支援」については、職員への啓発を目的に指針を策定した。

(5) 地域交流

令和5年度地域交流は、小中学校・高等学校等との交流については引き続きコロナ感染症防止のため中止とした。地域への奉仕活動については、感染症対策を行った上で4月に小豆沢町内会との合同清掃活動を行ったほか、11月に開催された平内町民文化祭については、直接の参加は控えたものの、利用者が創作した作品を展示した。

(6) 利用者への安全確保

利用者の安全確保及び事故発生時の迅速な対応を図るために、第一段階として支援会議で検討し、その後さつき寮リスクマネジメント委員会で再度検討することで、より深く検証した内容を現場へフィードバックし、利用者の事故防止に努めた。

<アクシデントレポートの提出状況>

事故内容		件数
病院受診や 入院 (アクシデント LV3以上)	骨折	1
	裂傷	1
観察及び 寮内処置等 (アクシデントLV 2以下)	(利用者の怪我等) 転倒・転落・衝突	63
	打撲・裂傷・擦り傷・出血・火傷等	11
	誤嚥・喉詰まり	1
	(服薬関係) 誤薬・服薬忘れ・落薬・薬持たせ忘れ	10
	(その他・利用者関係) 他害・粗暴行為・器物破損	12
	(その他・職員関係等) 忘れ物・利用者に関わる物品や器物の故障 施錠忘れ・機械の操作ミス等	39
合 計		138

(7) 家族との連携強化

① なつどまり育成会との連携強化

令和5年度は、コロナ感染症防止のため育成会の総会を昨年度に引き続き中止とし、会員の方へは書面で活動内容を報告した。面会については、継続してオンラインによる面会及びガラス越し面会を随時実施するとともに、コロナ感染症の5類移行に伴い、6月から旧館を使用しての直接面会を再開した。

② 家族への情報提供の充実

各種面会の実施や中止については、感染状況を踏まえて随時、通知を行った。また、さつき寮通信を年4回発行し、行事及び日中活動や生活の様子を写真や文章で伝えた。そのほか、毎月ケース担当職員から保護者へ近況をお知らせするとともに、状況変化等の際には随時連絡を行った。

(8) 職員研修

なつどまり内での学習会やしらかば寮での実地研修、法人内研修、各種外部研修(オンライン含む)等へ参加するとともに、令和5年度より「サポーターズカレッジ」(Web講座)を導入し、施設職員として必要な知識を習得したほか、支援方法等のスキルアップに努めた。

また、なつどまり研究発表会及び青森県立保健大学において、さつき寮の研究事例を発表した。

(9) 行事の実施状況

(令和5年)	
4月 15日	(開所日) 映画観賞会
4月 20日	利用者健康診断
4月 28日	合同清掃奉仕活動 (小豆沢地区ゴミ拾い)
4月 29日	(開所日) 花見会
5月 3日	ゴールデンウィークお楽しみ会
5月 6日	(開所日) 風船バレー大会
5月 11日	結核検診
5月 13日	(開所日) カラオケ大会
5月 27日	(開所日) レクリエーション大会 (体操・ボッチャ大会)
6月 6日	消防訓練(火災想定)
5月 30日	コロナワクチン接種

6月 23日	夏の大掃除
7月 1日	(開所日) 七夕飾り
7月 13日	利用者日帰り旅行
7月 14日	コロナワクチン接種
7月 15日	(レクリエーション) ボウリング
7月 19日	総合消防訓練(夜間想定)及び炊き出し訓練
7月 21日	花火会
7月 22日	(開所日) 軽食クッキング (ホットケーキ)
7月 29日	(開所日) 映画観賞会
8月 25日	夏季お楽しみ会 (すいか)
8月 27日	青森県障害者スポーツ大会 (陸上・フライングディスク)
9月 2日	納涼祭
9月 9日	(開所日) ジェンガ大会
9月 15日	訪問販売 (たこ焼き)
9月 16日	(開所日) 風船バレー大会
9月 17日	青森県障害者スポーツ大会 (ボウリング)
9月 22日	さつき交流会
9月 28日	利用者一泊旅行 (～9月29日)
10月 5日	利用者検診
10月 7日	(開所日) 映画観賞会
10月 21日	(開所日) 紅葉狩り・カラオケ
10月 30日	コロナワクチン接種
11月 2日	利用者乳がん検診
11月 9日	インフルエンザ予防接種
11月 11日	(開所日) 軽食クッキング (たこ焼き)
11月 14日	忘年会 (1回目)
11月 22日	忘年会 (2回目) ※2回にわけて実施
11月 25日	(開所日) ジェンガ大会
12月 4日	なつどまり研究発表会
12月 9日	(開所日) クリスマス飾付
12月 16日	(開所日) 冬の大掃除
12月 22日	クリスマス会
12月 31日	お楽しみ会 (お汁粉)
(令和6年)	
1月 6日	(開所日) 新年会
1月 10日	二十歳を祝う会
1月 20日	(開所日) 紅白歌合戦観賞会
1月 27日	レクリエーション (玉当て・玉入れ)
2月 3日	開所日 (節分)
2月 8日	防災訓練 (土砂災害想定)
2月 17日	(開所日) カラオケ大会
3月 5日	洋ラン祭り
3月 9日	(開所日) 軽食クッキング (クレープ)
3月 16日	(開所日) ジェンガ大会
3月 23日	(開所日) 映画観賞会

(10) 工賃支給状況

生活介護班活動に従事した利用者全員を対象に、「工賃支給要綱」に基づく工賃を支給した。(10月・4月は一時金を支給)

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上期一時金
生活介護 総工賃(円)	98,090	151,300	167,310	138,070	115,880	112,500	168,380	153,840
支給者数(人)	57	59	60	57	60	56	60	60

項目／月	11月	12月	1月	2月	3月	下期一時金	合計	月1人当たり平均
生活介護 総工賃(円)	160,220	137,040	137,040	143,560	112,340	308,530	2,104,100	2,554
支給者数(人)	58	59	58	59	58	62	823	

II 短期入所事業さつき寮

1 概況

自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で入浴、排泄、食事の介護等を行う。

2 事業の実施状況

令和5年度は1人の利用があった。

III 相談支援事業所なつどまり

1 概況

障害者及び障害児並びにその保護者一人ひとりの人権と意思を尊重し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、地域の特性や利用者の状況に応じた柔軟な相談支援を実施した。令和5年度の契約件数は最大で計239件となった。

利用者の置かれている状況や環境等に応じた、利用者等の選択に基づいた適切な障害福祉サービス等を、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供し、地域資源との連携及び地域資源の開発を図るとともに、各市町村等との連携に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 関係団体との連携強化の継続

コロナ感染症が5類へ移行したことで、コロナ以前のように関係団体や事業所等と直接対話で情報共有が図られた。また、利用者支援に関する会議等においても、従来どおり協議が重ねられ継続した連携に努めた。

(2) 利用者の苦情や要望に対する相談体制

利用者との面談・アセスメント等では話しやすい雰囲気づくりに心掛け、より良いサービスに繋がるよう必要な助言等による対応に努めた。

また、感染予防対策を講じ、可能な限り自宅または事業所へ訪問し、本人や家族の意見に基づいた、意向や選択に沿う計画の提案・作成に努めた。

(3) 年間における黒字収支の維持

当初掲げた年間の計画及びモニタリングの件数と最終実績と比較し件数が増え増収となった（計画：当初70件→実績117件、モニ：当初437件→実績472件）。また、支出においても予算精査に努めたことで黒字収支の維持に繋がった。

3 職員の状況 ※()はさつき寮兼務

職人	管理者	相談支援専門員		合計
		副主任支援員	支援員	
職員数	(1)	1	1	2 (1)

4 事業の実施状況

(1) 障害種別利用者人数 (重複あり)

内 訳	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害 ※手帳未所持	重症心身障害
障害者	248	208	37	39	1	0
障害児	6	4	3	0	2	0
合 計	254	212	40	39	3	0

(2) 法人内外事業所別利用人数 (年度内の事業所変更における重複あり)

内 訳	しらかば寮	さつき寮 (通所含む)	同法人施事業所	他法人事業所	合 計
平内町 (委託)	4	11	34	41	90
他市町村	74	50	28	19	171

(3) 相談・支援件数 (実人員に対して重複あり)

内 訳	訪 問※	来 所	同 行	電 話	個別支援会議
件 数	452	1	87	148	41

※なつどまり内事業所への聴き取り訪問含む

(4) 請求件数

内 訳	サービス等利用計画	モニタリング報告書	合 計
請求件数	117	472	589

第5 青森県長寿社振興センター

1 概況

青森県長寿社会憲章の「すべての世代のための長寿社会」を念頭に、「生涯現役で活躍できる社会づくり」、「高齢者の健康づくりと介護予防の推進」を目指し安心して元気にいきいきと暮らせる社会づくりの実現に向け、生きがいつくり、健康づくり及び仲間づくりに関する事業を展開した。

2 重点事項の実施状況

- (1) 全国健康福祉祭（ねんりんピック）の各関係機関への周知及び参加者の増
あおもりシニアフェスティバルが全国大会出場のための県版ねんりんピックであることを各関係団体及び参加者に改めて周知し、令和5年度からあおもりシニアフェスティバルスポーツイベントのタイトルに「～県版ねんりんピック～」を追記し、ねんりんピックの周知を図った。
また、これまで未参加であった団体への働きかけやeスポーツの普及を図る等、開催競技増へ向けた取組を進めた。
- (2) あおもりシニアフェスティバルの内容見直し（文化・スポーツイベント）
これまで未開催であったスポーツイベントの開会式を加えた文化・スポーツの総合開会式と文化イベントを開催した。
また、記念公演と青森シニアカレッジ公開講座を併催した青森県警察音楽隊の演奏会や新企画としてキッチンカーの開設や市内福祉施設の物販を実施し、県内企業や施設との連携を図った。
- (3) 青森シニアカレッジ新規受講者獲得
あおもりシニアフェスティバルと併催で青森シニアカレッジ公開講座を開催し、参加者へ青森シニアカレッジの紹介をし、来年度の受講者募集を行なったところ、アンケート調査では多数の新規の受講希望があった。
また、従来のホームページ、チラシ配布による周知、募集のほか、青森市内で開催している高齢者大学実施機関を訪問して情報交換や連携強化を図った。

3 職員の状況

職名	所長 (専務理事兼務)	副所長	事務員	計
職員数 (人)	1	1	6	8

4 職員研修

職員の資質向上を図るため、一般財団法人長寿開発センター及び関係各機関の開催する研修会に参加した。

5 事業の実施状況

- (1) 高齢者のスポーツ、健康づくり及び地域活動等を推進する事業
 - ① 全国健康福祉祭派遣事業
愛媛県を会場に、全国から参加する高齢者との交流や様々な世代間のふれあいを通して、笑顔広がる地域共生社会の実現を目指し、開催県へ青森県選手団を派遣した。

会 期	令和5年10月28日（土）～31日（火） ※本県選手団は前泊のため、27日（金）出発
開 催 地	愛媛県（松山市ほか）
派遣種目等	スポーツ交流大会（8種目）、ふれあいスポーツ交流大会（4種目）、文化交流大会（1種目）、その他（美術展）
派遣人数	86人（選手81人、事務局5人）

② 第24回あおもりシニアフェスティバル開催事業

県内高齢者の文化活動、スポーツ活動等の祭典とし、健康増進、社会参加及び世代間交流の促進を図り、みんなが輝ける長寿社会づくりを目的として開催した。

ア 文化イベント

会 期	令和5年9月3日（日）
開 催 地	県民福祉プラザ
内 容 等	総合開会式、記念公演（青森県警察音楽隊）、各種展示コーナー、キッチンカー開設等
来場者数	約1,000人

イ スポーツイベント（15種目）開催内容

開 催 日	令和5年9月10日（日）、17日（日）、23日（土）、24日（日）、10月9日（月）
会 場	新青森県総合運動公園（マエダアリーナ、カクヒログループアスレチックスタジアム）、合浦公園、青森市スポーツ会館（みちぎんどリームスタジアム）、青森ヤクルトスイミングスクール（石江）、青森駅前公園及び新町商店街、八甲田パノラマパークゴルフ場（十和田市）、七戸町総合運動公園（七戸町）
開催内容	ラージボール卓球、テニス、ゲートボール、ペタンク、弓道、剣道、グラウンド・ゴルフ、なぎなた、水泳、ターゲット・バードゴルフ、バウンドテニス、ウォークラリー、パークゴルフ、太極拳、ソフトバレーボール
参加人数	1,030人

ウ 冬季スポーツイベント

開 催 日	令和5年12月15日（金）
会 場	青森市スポーツ会館（みちぎんどリームスタジアム）
開催内容	第12回カーリング交流大会
参加人数	26人

※第13回スキー交流大会は会場雪不足のため中止とした。

(2) 長寿な生活調査・発信事業

高齢者等の生活習慣・生活スタイル等を調査・収集した結果を紹介・広報し、県民の健康意識の向上に役立てていることを目的として事業を実施した。

① 編集委員会

機関誌「あすなろ倶楽部」の発行にあたり、調査、掲載内容等について検討・調整するための編集委員会を開催した。

開 催 日	令和5年4月26日（水）
-------	--------------

会 場	県民福祉プラザ
開催内容	機関誌「あすなる倶楽部」編集委員の決定、掲載内容等についての検討、意見交換等
参加人数	10人

② シニアライター養成研修会

シニアライターを育成し、本県における長寿者（100歳以上高齢者等）の紹介、及びその生活習慣・生活スタイル等を調査・収集し、広く県民に紹介・広報することにより、県民の健康意識の向上に役立てることを目的に開催した。

開催日	開催地区	開催会場	参加者数
5月10日（水）	青森市	県民福祉プラザ	12人
5月12日（金）	むつ市	むつ来さまい館	11人
5月16日（火）	弘前市	弘前市民会館	5人
5月24日（水）	五所川原市	五所川原市中央公民館	12人
5月31日（水）	八戸市	八戸市福祉公民館	7人

③ 県民への発信・広報等

ア 機関誌「あすなる倶楽部」の発行

県民の健康意識の向上に役立てるため、シニアライター等が調査・収集した情報及び県民へ向けた暮らしに関する情報等を掲載・発行した。

発行回数	年4回（6月、9月、12月、3月）
発行部数	各回4,000部
内 容	シニアライターが調査・収集した長寿者の生活スタイル等の情報及び関係機関への情報発信等

イ 広報活動

ホームページについては最新の情報を提供するため、事業の実施・募集及び実施内容をその都度更新し、分かりやすい情報掲載に努めた。

(3) 青森シニアカレッジ運営

各種講座の受講等の活動を通して生きがづくり、社会参加を促進するとともに、地域活動の担い手となる人材を育成することにより、高齢者の社会活動の振興を図ることを目的として開催した。

また、遠方で受講できない高齢者を対象に県内各地でサテライト講座を実施した。

① 通学総合コース

開催場所	県民福祉プラザ
開催回数	18回
受講者数	60人（総合コース）
内 容	一般教養、健康と生活、地域の歴史・文化、社会見学等

② 通信教養コース「あおもり長寿セミナー」

放送媒体	RAB青森放送（ラジオ）
放送回数	年間12回（毎月最終土曜日午前6時30分からの30分間）
内 容	生きがづくりに関わる内容をラジオ放送で県内へ発信した。テキストを作成し学習意欲の向上に努めた。
受講者数	20人

③ サテライト講座

開催日	開催地区	開催会場	参加者数
8月21日(月)	十和田市	十和田市総合体育センター	17人
8月29日(火)	むつ市	むつ来さまい館	26人
1月30日(火)	八戸市	八戸市白山台公民館	18人
2月8日(木)	弘前市	弘前市民会館	24人
3月13日(水)	五所川原市	五所川原市生き活きセンター	11人
内 容	高齢者を対象としたグループワーク形式の交通安全教室 (十和田市、むつ市) eスポーツ体験教室(八戸市、弘前市、五所川原市)		

(4) 仲間づくり事業(自主事業)

① あすなろ友の会支援事業

高齢者自主活動組織「あすなろ友の会」(県内6支部 会員数350人)に対し、各支部の活動支援及び情報提供等を行なった。

ア あすなろ友の会幹事会への支援

年度における幹事会事業や活動支援内容に関する意見集約等を行うことを目的に幹事会を開催した。

開催日	令和5年6月21日(水)
会場	県民福祉プラザ
開催内容	幹事会役員改選、幹事会事業開催の協議(遊学の旅)等
参加人数	8人

イ あすなろ遊学の旅への支援

毎年度、各支部持ち回りで企画・運営している全支部合同の交流会「遊学の旅」を開催した。

実施日	令和5年11月16日(木)～17日(金) 1泊2日
交流会場	グランドサンピア八戸
参加人数	17人

ウ 各支部活動の支援

各支部の活動において、必要に応じて当センターから職員を派遣し健康教室やニュースポーツ体験を実施した。

また、あすなろ友の会各支部の会員数の増を目的に、機関誌「あすなろ倶楽部」において各支部の紹介を行なった。

(5) 介護予防事業

市町から事業受託し、高齢者が要介護状態もしくは要支援状態を予防することを目的として実施した。

委託先	五所川原市、大鰐町
開催回数	五所川原市48回、大鰐町49回
内 容	運動機能の向上、栄養指導、口腔ケア、認知症予防、脳トレ等

第6 青森県発達障害者支援センター

1 概況

当センターは、平成17年12月1日に現在の障害児入所施設八甲学園の附置施設として開設し18年目を迎えた。令和5年度より職員5人配置（令和4年度までは4人配置）となり、新たな体制で事業に取り組んだ。発達障害者支援センター運営事業の4つの柱である「相談支援」「発達支援」「就労支援」「普及啓発・研修」のほか、当センター独自の事業として、地域の精神科医師による「医療相談」及び、当センター事業で養成した「ペアレントメンターによる傾聴事業」、言語聴覚士による「ことばの発達に関する勉強会及び茶話会」を実施した。

また、「青森県発達障害者支援体制整備事業」について、各事業計画に基づき全ての事業を実施した。

令和2年度より開始している「青森県発達障害専門医療機関初診待機解消モデル事業」は4年目を迎え、引き続き県内複数の医療機関、自治体等と協働し、発達障害児の早期発見、早期介入に向けた取組を行った。主に青森市、弘前市の就学前の幼児を対象とし、年間148人の申込みを受けた。

令和3年度、弘前大学及び青森県と協働で作成し、当センターが発行した「青森県子どもの発達支援ガイドブック」（令和4年3月29日刊行）は、PDF版として県HP及び当センターHPより無料でダウンロードが可能な設定としたほか、県内全自治体及び保育所等関係機関に無償配布し、幅広く活用してもらう取組を行い、自治体、保育所、療育機関等、県内各地域で発達支援ツールの一つとして活用されており、地域への定着が進んでいる。他県からも、本ガイドブックに関する問合せ及び活用依頼を多数受ける等、全国的にも注目されている。更なる普及啓発及びより効果的な活用を目指し、本ガイドブックの活用研修会を企画開催し、保健、福祉、教育等、様々な領域の支援者の受講があった。

令和5年度、当県の発達障害児者支援体制整備推進を目指した新たな取組として、「青森県子どもの発達と行動に関するチェックシート導入研修会」事業及び「ペアレント・トレーニング指導者養成研修会」事業を県より受託した。県内各市町村で実施する乳幼児健診において、本チェックシート（アセスメントツール）を活用し発達障害の早期発見・早期介入を目的とした取組である。県内共通の発達と行動に関するチェックシートを各自治体で使用することで、県内全域の発達障害児支援体制整備推進を図ることを目指している。本チェックシートは、弘前大学及び県で協働作成したエビデンスが立証されているアセスメントツール（令和4年度完成）である。令和5年度は県内全自治体への事業説明会を行い、令和6年度より各自治体への導入が計画された事業である。当センターでは、県内自治体保健師等、乳幼児健診に携わる専門職を対象とした本チェックシートに関する説明及び具体的な活用方法等に関する研修会を開催し、普及啓発及び地域への定着を図る役割を受け、令和5年度は2回研修会を開催した。県内各地域より多数の受講があり、本事業の発信に努めた。令和6年3月に実施した本チェックシート使用に関する調査結果では、次年度から75%の自治体で導入を予定、検討していることが明らかとなり、本チェックシート活用を促進することにつながった。

「ペアレント・トレーニング指導者養成研修会」事業では、本事業実施者（指導者）を県内各地域に定着させることを目的に、研修事業実施内容の枠組みを整理し、事業体制を整える試みを行った。その結果、令和5年度に本研修会を受講した34機関中9機関が、各地域でご家族を対象とし本事業実施に取り組んだことや、令和6年度中に実施予定で

あることが把握できた。発達障害者支援法の中で、発達障害児及び家族への支援について、自治体の責務となっていることから、県内各地域で、自治体が主体的に本事業に着手することを目的とした取組として、当センターでモデル事業として家族を対象とした本事業を年1回（6セッション1クールで構成された事業）実施し、各自治体に見学参加してもらい、事業の理解及び事業運営のイメージを深めてもらう等、事業の普及啓発及び定着に向け、具体的な取組を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 地域の発達障害児者及びその家族の権利擁護、意思決定及び個人情報保護を尊重した支援の充実

① 意思決定を重視した支援の強化

ア 全ての相談者に対して、各事業の詳細な説明や見通しなどを伝え、同意を得た上で具体的な支援に着手するなど、インフォームドコンセントに基づく相談支援を徹底した。

イ アセスメント結果等、エビデンスに基づく情報提供、説明を行い、相談者からの質問、問合せ等に対して都度説明し、支援の取組に責任を持って対応した。

② 個人情報保護の徹底

ア 第三者と情報を共有することが必要な際、事前に個人情報同意書を必ず得ることを徹底した。

イ 相談者記録等を保管する書庫の管理（施錠・鍵の管理）、書類及びデータの取扱い等、対応策をまとめ、職員間で徹底した。

ウ 個人情報開示請求の実績はなかったが、要望を受けた際の手続きについて、マニュアルを設け、職員間で共有している。

エ 相談者との多重関係が危惧される際は、別の職員が対応する等の取組を行った。

(2) 他機関との協働及びネットワーク構築

① 地域との協働及びネットワーク構築

ア-1 地域連絡協議会：1回開催。

発達障害児の「早期発見・早期介入」をテーマとし、参加機関を東青地区及び下北地区の母子保健・児童相談所、青森地区ペアレントメンター等として実施。各地域の取組や課題等について、グループワークや全体発表等を通して共有するとともに、当センターの事業内容、取組の詳細について報告を行った。14機関の参加があった。

ア-2 青森市内障害児通所支援事業所との情報交換会：1回開催。

青森市内障害児通所支援事業所の状況について把握すること、地域の関係機関のネットワーク構築を目的に開催し、20機関の参加があった。各事業所の取組や課題等を共有するとともに、当センターの事業内容、取組の詳細について報告を行った。

イ 医療相談：14件実施。

児童から成人まで幅広い年齢層の相談、利用があった。

ウ ペアレントメンターによる傾聴事業：7件実施。

児童から成人まで幅広い年齢層のお子さんに関する相談があった。

(3) 県内の他の発達障害者支援センターとの連携による地域支援体制整備の推進

① 年1回（5月）3センター及び県障害福祉課との情報交換会を実施した。

② 当センターが主催する各事業の利用や研修会への参加を促し、受講等につながっ

たほか、他センター事業への協力を積極的に行った。

(4) 地域の関係機関及び関係施設等の職員の人材育成を通じた地域の拠点作り

① 当センター主催または関係機関との共催での研修会を計 49 回開催した。実施した主な事業は下記のとおりである。

ア	アセスメント（適応行動及び感覚面の評価）に関する研修会	(149 人受講)
イ	青森県子どもの発達と行動に関するチェックシート導入研修会	(169 人受講)
ウ	CARE プログラム研修会	(24 人受講)
エ	発達障害児者支援支援公開講座	(91 人受講)
オ	かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会	(79 人受講)
		※うち、医師 12 人受講
カ	ペアレント・トレーニング指導者養成研修会	(34 人受講)
キ	青森県子どもの発達支援ガイドブック活用研修会	(130 人受講)
ク	強度行動障害児者への支援研修会	(36 人受講)
ケ	自閉スペクトラム症の方々への支援	(77 人受講)
コ	トラウマに関する研修会	(80 人受講)
サ	傾聴に関する研修会	(9 人受講)
シ	ペアレント・プログラム事業	(支援者 8 人受講)

② 講師活動を 39 回（延参加人数 1,348 人）実施した。

司法・教育・福祉・労働・保育関係、農業関係等、多様な機関のニーズに対応した。

③ 機関訪問支援を 83 回実施した。

保育園・幼稚園・小学校、特別支援学校・放課後等デイサービス等、多様な機関のニーズに対応した。

④ 医療従事者を主な対象とした研修会を 1 回実施した。（79 人受講※うち、医師 12 人受講）県内医師（小児科医・精神科）と協働し、県内医師等医療従事者を主な受講対象者とした発達障害に関する最新の知見、施策等を発信した。

⑤ 各地域で研修事業を開催する際、自治体及び地域の関係機関へ事業協力依頼を行い、共催、または後援を受ける等、各地域の自治体及び関係機関と協働で事業を実施した。

(5) 地域住民への発達障害についての理解と普及啓発

① 世界自閉症啓発デー・発達障害啓発週間

ア 弘前大学大学院保健学研究科・青森県自閉症協会・青森県と共催、及び青森県精神保健福祉協会・青森市後援の事業体制で、各関係機関と協働しながら、発達障害に関する講演会やパネル展示の催しを実施した。90 人の受講があった。

イ ペアレントメンターによる傾聴事業では、1 人の保護者の利用があった。

(6) 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課障害児・発達障害支援室、発達障害情報支援センター、全国の発達障害者支援センター（特に北東北 3 県発達障害者支援センター）等との情報交換及び連携

① 全国発達障害者支援センター連絡協議会（鹿児島県で開催）へ職員 2 人が参加し、発達障害児者支援施策に関する国の動きや、最新の知見について学ぶとともに、全国の発達障害者支援センターと情報交換を実施した。

② 全国発達障害者支援センター連絡協議会役員（副会長）として、年間を通して、役員会及び、厚生労働省・こども家庭庁・文部科学省・発達障害情報・支援センター・特別支援教育推進センター等で構成された懇親会への参加を行い、施策等についての

最新の情報を学ぶとともに、発達障害児者支援に必要と思われる事業等の導入について、意見を述べる等の取組を行った。

- ③ 国立障害者リハビリテーションセンター主催「発達障害者支援センター職員研修会」で講師を務めたほか、他県発達障害者支援センター（佐賀県・沖縄県）が主催する家族支援研修会へ講師及びインストラクターとして参加協力を行う等、全国の発達障害者支援センター職員の人材育成及び全国の発達障害者支援センターとのネットワーク構築に務めた。
- ④ 北東北3県発達障害者支援センター情報交換会（秋田県で開催）へ職員2人が参加した。北東北3県の取組について情報共有し連携を深めた。
- ⑤ 北海道・東北ブロック発達障害者支援センター情報交換会（WEB開催）へ職員全員が参加した。各地域の取組や課題等について情報共有を行い、相互理解及びネットワーク構築を深めた。

3 職員の状況

職名	所長	支援員	計
職員数 (人)	1	4	5

4 事業の実施状況

事業内容		実績	
① 発達障害児（者）及びその家族等に対する相談支援・発達支援	実支援人員	1,279人	
	延支援件数	2,692件	
	心理学的判定	117件	
② 発達障害児（者）に対する就労支援	実支援人員	83人	
	延支援件数	106件	
③ 関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修	ア センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	49回
		延参加人数	1,628人
	イ 外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	39回
		延参加人数	1,348人
	ウ 教育関係者との合同研修会	実施回数	3回
		延参加人数	189人
④ 関係施設・関係機関等の連携	ア 連絡協議会開催回数	実施回数	1回
	イ 調整会議	実施回数	10回
	ウ 機関コンサルテーション	実施回数	83回
	エ 障害者総合福祉法第89条協議会等への参加状況	参加回数	2回
	オ 他の協議会への参加状況	参加回数	22回
⑤ 地域住民等に対する普及啓発	パンフレットの作成	実施回数	0回
⑥ 職員の研修派遣状況		参加回数	52回

第7 ライフサポートあおば

1 概況

「共感・協働・共生」の理念に基づき、知的障害や発達障害、またはそれらが心配される児童が地域で当たり前に暮らし続けることを目指した。

青森市内やその近郊の2歳から18歳までを主な対象児として、障害児通所支援（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・保育所等訪問支援事業）と青森市からの委託事業（障害児等療育支援事業）等を通じて、青森市及びその近郊の児童支援・家族支援・地域支援を行った。

令和4年度末の所属内児童発達支援からの移行希望者が多かったため、放課後等デイサービスの利用児童が増加し、保育所等訪問支援の稼働率の上昇も影響し、増収となった。

新型コロナウイルスが5類となった後も、児童・職員の感染流行は見られ、その対応に追われつつも、対面式での保護者懇談会、卒園式などを実施した。

青森市及びその近郊における児童発達支援の中核機能を強化し、さらに、自事業所の支援力強化、令和6年度の報酬改定を見据え、法人内の協力体制を受け、「児童発達支援センター」の認可を得た。

2 重点事項の実施状況

(1) 安定した経営基盤の強化

① 所属単位の黒字化（収支差額のプラス）

四半期ごとに運営会議を開催し、増収可能な方法（加算取得・利用率向上・契約者増等）の検討を行った。

デイサービスセンターあおばは、令和4年度末で小学校への移行児童が多かったこと、年度当初の新規受入れに時間を要したため、目標到達とはならなかった。

デイサービスセンターすこやかは、小学校低学年児童の体調不良等による欠席率の増、職員欠員による加算の未取得期間もあったため、前年度比で減収となった。

チャレンジサポートすこやかは、放課後等デイサービスの欠席率の低下及び強度行動障害児の受入れによる加算の増、保育所等訪問支援の稼働率上昇のため、大幅に増収となった。

所属単位では収支差額がプラスとなった。

② 次期報酬改定の情報収集と次年度体制の検討

令和6年度報酬改定に向けての情報収集を行い、運営会議にて新年度体制の検討を行った。事務局とも調整し令和6年4月より、デイサービスセンターあおばの名称を『キッズサポートあるふぁ』と変更し、「児童発達支援センター」として運営することとなった。

③ 事業所情報の発信

障害児相談支援事業所宛に5月、7月、11月、1月、FAXで受入状況を送信し、新規利用に繋げた。また、保育所等訪問支援、障害児等療育支援の情報を青森市・平内町の保育所等へ配布した。

(2) 利用者主体の支援

① 個別支援計画作成及び実施プロセスの徹底

利用児童の行動観察及び保護者面談を通して、要望の確認を行った。

利用開始月、誕生月の前月及びその6か月後に実施したケースカンファレンスで

は、アセスメント情報と個別支援計画の原案を示し、情報共有・意思確認を行った。

② 内部研修の見直し

年間の内部研修を実施したのち、その効果や内容について運営会議で検討した。
年度末に「職員研修用テキスト」の整備を行った。(内部研修に活用。)

③ 保護者支援の充実

発達障害者支援センター主催の「ペアレント・トレーニング指導者養成研修」及び「ペアレント・プログラム in 平内町」へ職員を派遣した。その後、利用児童の保護者を対象に、全6回のペアレント・トレーニングを実施した。

(3) 地域との連携・協働体制の構築

① 地域防災関係の構築

地域との連携の取組の一つとして、町会長や周辺住民への挨拶周りを実施した。
避難訓練の実施にあたって、避難場所である学校へ連絡し、地域と連携を図った。

② 地域の福祉向上のための取組

地域貢献委員会を年3回開催し、地域コミュニティの活性化やまちづくり等への参画について検討した。コロナ流行等もあり、交流会等は実施には至らなかったが、町会等へのあいさつ回り、近隣のゴミ拾いなどを実施した。

3 職員の状況

職名	所長	主任事務員	主任支援員	副主任支援員	支援員	計
職員数(人)	1	1	2	3	14	21

4 職員研修

(1) 内部研修

① 教育・指導体制

スーパービジョンの体制について会議で周知し、情報共有についても可視化する仕組みを用いた(サイボウズ・LINE Worksなど)。

② 内部研修

以下のとおり、職員向け内部研修を開催した。

研修名	日程	参加者数
支援技術基礎研修①	4月28日	5人
個別支援計画作成研修	4月28日	3人
支援技術基礎研修②	5月23日	6人
虐待防止研修	5月17日 5月19日 5月23日	全職員
支援技術基礎研修③	6月6日	6人
感染症対策研修	6月12日	6人
支援技術基礎研修④	6月28日	6人
支援技術基礎研修⑤	7月11日	6人
支援技術実践研修①	9月20日	7人
身体拘束適正化研修	9月15日 9月19日	全職員

	9月20日	
リスクマネジメント研修	10月5日	6人
防災研修	11月25日	6人
支援技術実践研修②	11月20日	6人

③ 研究発表

研究発表として、「離席の多い児童への対応（デイサービスセンターすこやか）」、「活動設定が児童に与える影響について～トラブル減少を目指して～（チャレンジサポートすこやか）」の2テーマで取り組んだ。

12月10日に行われた「八甲学園あおば合同研究発表会」、12月16日に行われた「青森県保健医療福祉研究発表会」で発表した。

また、法人主催の「発達障害支援力強化に関する研修会」で、「アセスメント情報を活かした支援（デイサービスセンターあおば）」について実践報告を行った。

(2) 外部研修

派遣された研修については、復命書作成ののち、毎月の支援会議にて伝達を行った。

研修名	日程	参加者数
キャリア発達支援研究会東北支部第1回学習会	5月13日	1人
全国児童発達支援協議会全国職員研修会	7月1・2日	1人
ペアレント・トレーニング指導者養成研修	7月6・7日	2人
相談支援従事者現任者研修	7月19・20日 8月18日 9月8日	1人
東青地区特別支援連携協議会研修会	8月1日	1人
自閉症支援者セミナー基礎コース	8月26日 9月16日 11月18日	4人
TEACCH研究会東北支部研修会	9月3日	1人
ペアレント・プログラム in 平内町	9月21日 10月7日・21日 11月4日・18日 12月2日・16日 1月20日	1人
強度行動障害支援フォーラム	10月6日	1人
安全運転管理者講習	11月14日	1人
Vineland-II 適応行動尺度研修会	11月23日	1人
自閉症支援者実務者コース	12月9日	1人
サービス管理責任者更新研修	12月16日 1月20日	4人
専門コース別研修	1月21日	1人
北海道・東北ブロック社会福祉事業団連絡協議会職員研修Ⅱ	2月15日	1人
青森市地域生活拠点事業研修会	2月20日	2人

食品衛生責任者講習	2月26日	1人
強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	2月27日	2人
青森県知的障害者福祉協会職員研修会	2月29日	1人
青森県知的障害者福祉協会部会協議会	2月29日	1人
青森県障害者虐待防止・権利擁護研修	2月～3月	4人
PECS レベル1 ワークショップ	3月5・6日 3月12・13日	2人
日本知的障害者福祉協議会令和5年度部会協議会	3月7・8日	1人

※法人内主催実施研修を除いて記載

5 行事

行事名	実施日	内容
運営会議	毎月	各種課題やリスク回避の検討（リモート開催）
HP・ブログ更新	随時	活動内容報告
苦情解決委員会	10月11日	苦情等解決第三者委員を交えた情報共有・意見交換
虐待防止委員会 身体拘束適正化委員会	10月11日	虐待防止委員との情報共有・意見交換
広報誌発行	7月10日 12月8日 3月28日	「あおぼだより」第35号 「あおぼだより」第36号 「あおぼだより」第37号
ペアレント・ トレーニング	10月19日 11月2日 11月15日 12月1日 12月8日 1月30日	第1回：オリエンテーション～子どもの行動を3つにわけ～ 第2回：好ましい行動へ肯定的な注目を与える～注目の与え方～ 第3回：好ましくない行動を減らす①～上手な無視のしかた～ 第4回：好ましくない行動を減らす②～無視とほめるの組み合わせ～ 第5回：子どもの協力を増やす方法～効果的な指示の出し方～ 第6回：振り返り
事業所間交流	7月11日 7月29日 11月27日 11月28日	就労サポートセンターさつき見学（保護者） 就労サポートセンターさつき作業体験（利用児童） 八甲学園生活介護・就労B・GH見学（利用児童） 八甲学園生活介護・就労B・GH見学（保護者）
合同研究発表会	12月11日	2事例発表

6 健康管理

感染症対策委員会を設置し、委員会を開催した。

感染症の発生及びまん延の予防等に関する取組の徹底を図り、感染力が強く重篤化が危惧される疾病（新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス等）について、全職員がいつでも確認できるように情報共有した。

7 安全・防災管理

(1) 感染症・災害発生時の業務継続に向けた計画（BCP）の見直し（年2回以上）

5月、9月の運営会議にて見直しを行った。マニュアルの整備、備蓄品の確認、土嚢の確保、緊急連絡体制の構築（LINE Works 及びLINE 公式アカウントの導入）について検討した。

(2) リスクマネジメントについての検討機会の設定（月1回以上）

毎月の支援会議・運営会議内において、前1か月で報告のあったインシデント及びアクシデントについて内容を確認し、事後対応の検証及び未然防止策・再発防止策等を検討した。

(3) 自主点検・法定点検

各事業所にて担当者が使用物品（建物・支援備品・消防設備・車両等）の危険箇所自主点検を月1回行い、発見箇所の修繕及び修繕困難箇所を報告した。

消防設備の法定点検は、設備業者に委託し、年2回実施した。

(4) 月1回の避難訓練実施

月	訓練内容	月	訓練内容
4月	火災発生	10月	火災発生
5月	感染症	11月	感染症
6月	風水害被害	12月	地震発生
7月	地震発生	1月	不審者侵入
8月	火災発生	2月	地震発生
9月	風水害被害	3月	火災発生

8 ボランティア・実習等の受入れ

実習生を青森県立保健大学・青森大学・弘前学院大学、岩手県立大学、あおもり親子はぐくみプラザ、青森障害者就業・生活支援センターすこやかより計17人、他ボランティア3人を受け入れた。

なお、受入れにあたっては、新型コロナウイルス侵入を防止するため、養成校に誓約書を求めるなど、細心の注意を払った。

9 地域との連携

青森県自立支援協議会人材育成部会、TEACCH 研究会東北支部、キャリア発達支援研究会東北支部、東青地区特別支援連携協議会、青森県知的障害者福祉協会、青森県相談支援専門員等協会、青森県自閉症支援研究会への職員派遣を行った。

青森県サービス管理責任者等研修、青森県強度行動障害支援者養成研修、青森県発達障害者支援センター「ステップ」、青森県社会福祉士会東青支部、青森市小・中学校特別支援教育研究協議会への講師派遣、あおもり親子はぐくみプラザへの相談専門員派遣を行った。

I デイサービスセンターあおば

1 概況

療育及び発達の支援を必要とする児童（主に発達障がい）を対象に、本人の特性と段階に沿った個別支援計画を作成した。日常生活において自立的に行動できる力を身に付けるための支援を行った。また、家庭療育や児童の発達に関する相談、他療育機関や学校への移行に関する支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用児童の月の平均利用人数 180 人

年度当初の新規受入れが滞り、年間の月平均は 174 人(2,088 人/12 か月)となった。
「基本プログラム」の整備を行ったが、PR への使用には至らず、令和 6 年度から必須となる「5 領域プログラム」作成に向け、引き続き整備することとなった。

(2) 自閉スペクトラム症支援の“見立て力”強化

職員研修として、自閉スペクトラム症の特性を有する児童に対し、毎月の支援会議で 1 ケースを選定し、特性情報の共有を行った。

(3) 事業所内相談支援加算の取得 (10 ケース)

保護者との情報共有を繰り返した結果、件数は 18 件となった。

3 利用児童の状況

内 容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
児童発達契約者数(人)	16	18	21	22	24	25	27	29	30	30	33	33	
営業日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
延べ利用人数(人)	119	131	162	162	173	180	192	182	175	188	187	216	2,067
放課後等デイ契約者数(人)	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
営業日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
延べ利用人数(人)	3	3	4	2	1	2	2	0	0	0	0	0	17
保育所等訪問契約者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延べ利用人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延べ利用人数合計(人)	122	134	166	164	174	182	194	182	175	188	187	216	2,084

4 事業の実施状況

(1) 定 員

10 人 (児童発達支援・放課後等デイサービス合わせて)

(2) 概 要

① 児童発達支援事業

それぞれの児童の理解度や発達段階に合わせ、コミュニケーション・適切な行動についての支援を行った。

テーマを設け、毎月のイベントを実施した。近所の公園へ遠足を実施するなど、季節を体感する行事を実施した。

卒園式は、別に会場を設け、感染症等に留意しながら対象児童全員で開催した。

② 放課後等デイサービス事業

個々の児童に応じ、コミュニケーション・身辺自立・IADL 等の支援を提供した。令和 5 年 10 月末で利用児童が契約終了となり、募集も停止した。

児童発達支援センターの体制整備のため、令和 6 年 4 月 1 日より休止とした。

③ 保育所等訪問支援事業

職員配置が困難であり、令和 4 年 5 月 1 日より休止とした。

5 行 事

行事名	実施日等	内 容
遠 足	10 月 12 日	なかよし緑地
卒園式	3 月 19 日	7 家族参加

季節の行事	5月	端午の節句
	7月	七夕
	10月	ハロウィン
	12月	クリスマス
	2月	節分
	3月	ひな祭り
各種レクリエーション		
ゲーム	13回	季節のゲーム
音楽	14回	季節の音楽
製作	12回	季節の製作活動
外遊び	6回	外出（散歩・水遊び）
おやつ作り	5回	フルーツポンチ等

II デイサービスセンターすこやか

1 概況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする主に小学生を対象に、本人のニーズ（発達段階・特性・生活環境など）に沿った支援計画を作成し、様々な活動や環境設定から、お子さんの発達や自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援（家庭支援・機関連携・移行支援）を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 個別支援計画具体的な到達目標 80%の達成

本人やご家族のニーズに沿って個別支援計画を作成した。毎月のケースカンファレンスで達成度を精査した結果、年間を通して達成率 81%であった。

(2) 各加算の取得

① 関係機関連携加算（5 ケース）

小学校及び相談支援専門員と連携し、2 ケースでサービス担当者会議を実施した。個別支援計画を提案・作成及び修正した。

② 家庭連携加算（2 ケース）

1 ケースにおいて自宅を訪問し、生活環境のアセスメントや保護者への相談・援助を実施した。

(3) 地域住民とのかかわりの構築

事業所周辺にお住いの地域住民の方々へ挨拶を兼ねて広報誌などを配布し、事業内容をお知らせしつつ、地域ニーズの聞き取りを行った。また、ゴミ・落ち葉拾いを定期的に行い、事業所内外の整備に努めた。

3 利用児童の状況

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約者数(人)	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	
営業日数(日)	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243

授業終了後利用(人)	179	248	259	175	92	241	217	233	155	149	204	178	2,330
学校休業日利用(人)	73	8	0	78	162	1	15	7	43	76	18	47	528
延べ利用人数(人)	252	256	259	253	254	242	232	240	198	225	222	225	2,858

4 事業の実施状況

(1) 定員

10人

(2) 概要

主に小学生向け放課後等デイサービスとして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。個別サポート対象児が多く在籍することから、環境設定と介入方法について支援技術を高め、児童の健全な発達と自立を促した。

5 行事

行事名	実施日等	内容
季節の行事	5月	端午の節句
	7月	七夕
	10月	ハロウィン
	12月	クリスマス
	2月	節分
	3月	ひな祭り
イベント週間	夏季2週間	ゲーム・製作・奥野中央公園散策など。
	冬季1週間	調理・ゲーム・製作など。

Ⅲ チャレンジサポートすこやか

1 概況

青森市やその近郊に住む発達支援を必要とする児童を対象に、本人のニーズ（発達段階・特性・生活環境など）に沿った支援計画を作成し、様々な活動や環境設定から、お子さんの自立を促した。事業所での活動提供と並行して、家庭や他機関への支援（家庭支援・機関連携・移行支援）、保育所等訪問支援を行った。

2 重点事項の実施状況

(1) 訪問件数延べ180件（保育所等訪問支援）

契約件数を増やしたことにより、年間訪問件数199件となった。

(2) 効果的かつ快適な空間の提供（放課後等デイサービス）

3か月に1回支援スペースの見直しを行った。個別の余暇エリアを増やす、児童の作業場所を増やす、動線の確保等を行うことで、児童同士のトラブル減少に繋がった。

(3) 成人期事業所との連携及び体験利用・見学の実施（放課後等デイサービス）

7月11日（火）、9人の保護者が就労サポートセンターさつきの保護者見学へ参加し、事業所内見学、質疑応答を行った。保護者より、色々な情報交換ができてよかったとのこと意見をいただいた。

7月29日（土）、児童3人、保護者2人が就労サポートセンターさつきの運動会に

参加した。

11月27日(月)、児童4人が八甲学園就労支援事業所はっこう・生活介護事業所はっこう・サンハウスの見学・体験へ参加し、事業所内見学、清掃班の作業体験を行った。

11月28日(火)、保護者6人が八甲学園就労支援事業所はっこう・生活介護事業所はっこう・サンハウスの保護者が見学に参加し、事業所内見学・質疑応答を行った。保護者より、GHの話などを聞くことができよかつた等のご意見をいただいた。

3 利用児童の状況

内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
放課後等デイ契約者数(人)	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
営業日数(日)	20	22	23	21	22	20	22	21	20	20	21	20	252
授業終了後利用(人)	204	250	259	196	106	256	260	254	205	167	227	180	2,564
学校休業日利用(人)	78	9	2	84	176	0	19	13	44	91	26	78	620
延べ利用人数(人)	282	259	261	280	282	256	279	267	249	258	253	258	3,184
保育所訪問契約者数(人)	5	6	12	14	16	16	17	17	17	18	22	23	
延べ利用人数(人)	5	8	15	15	11	22	21	20	17	15	25	19	193

4 事業の実施状況

(1) 定 員

10人

(2) 概 要

① 放課後等デイサービス

発達支援を必要とする児童を対象にして、個別の配慮事項に合わせた活動を提供した。細かな環境設定と介入方法について支援技術を高め、作業・生活スキルの定着を狙い、さらには将来の生活に必要な情報の整理と移行支援を行った。

② 保育所等訪問支援

保育所等へ訪問し、本人の行動観察をした上で、児童への直接支援(状況に応じた直接的な関わり)、担任等への間接支援(面談・助言)を行った。

5 行 事

行事名	実施日等	内 容
季節の行事	5月	端午の節句
	7月	七夕
	10月	ハロウィン
	12月	クリスマス
	2月	節分
	3月	ひな祭り
イベント週間	夏季2週間	買い物外出・調理・製作など。
	冬季1週間	調理・ゲーム・製作など。

IV 障害児等療育支援事業

1 概況

青森市より当事業団が「障害児等療育支援事業」の委託を受け、ライフサポートあおばが担当した。保育園等からの支援依頼や他機関からの紹介も多く、また、あおもり親子はぐくみプラザからの依頼もあり、総件数が増えた。

2 利用状況

事業内容	令和5年度	令和4年度
訪問による療育指導	56件	32件
外来による専門的な療育相談・指導	10件	14件
療育技術の指導	130件	120件

第8 就労サポートセンターさつき

1 概況

当事業所の理念である「地域社会と協調し、創造力豊かなサービスをとおして、働く喜びを分かち合います」に基づき、就労支援に特化した事業所として、就労移行支援事業、就労継続支援B型事業及び就労定着支援事業を実施し、利用者が地域において自立した生活を送るための支援や、一般就労に必要なスキル習得への支援を行い利用者の確保に努力した。

生産活動は、農産・請負班、清掃・請負班、リサイクル班及び就職専科の4班体制で実施した。農産・請負班の水稻事業では、播種から刈取作業まで順調に進捗したが、猛暑による水不足の影響で、収穫量は約37トン（約616俵）（目標47トン）となり、昨年44トン（約748俵）を下回った。このうち、主力品種である「まっしぐら」は、10a当たり（1,000㎡・1反）7.5俵を収穫した。リサイクル班は、農産・請負班と連携して薪の生産に取り組んだ。清掃・請負班においても、事業所清掃終了後はほたて養殖用資材加工のほか薪生産に取り組んだ。就職専科は、平均6.6人の利用者に対し一般就労に必要なハローワークでの求職活動の方法やリラクゼーション方法について支援し、このうち5人が一般就労した。

就労支援事業収入全体では、約170万円の収入増となり、さらに経費削減により利用者の工賃を増額することができた。

地域貢献等については、大運動会及び大収穫祭は通常通り実施することができたほか、平内町の地場産業に貢献する作業を生産活動に組み入れ地域と一体となり事業を展開した。

定員に対する利用率は、全体で94%（目標90%以上）となった。

令和5年度新規利用者の獲得は、実習等の積極的な受入れにより6人（目標2人）となった。

薪販売総額は、1,245,500円となり令和4年度（1,919,160円）比5%増の目標を下回った。

事業所の収支差額は、新規利用者数及び生産活動収入は増加しているが、配置人員の人件費の関係により総収入額の1割以上の目標を達成できなかった。

2 重点事項の実施状況

(1) 水稻作付面積の拡大

欠員及び職員の感染性疾患罹患による人材不足のため、着手した作業を完了できなかった。

(2) 青森障害者就業・生活支援センターすこやかへの移転

10月2日に移転完了した。

(3) 新規事業所における新規生産活動実施のための調査及び準備

先進事例を視察し、連携業者とも大まかな方向性を共有した後、新規事業所開設を断念する方向性が決定したため、すべて中止とした。

(4) 福祉サービス第三者評価受審結果に基づく改善

12月開催の質の向上推進会議において、B評価だった項目の着眼点、評価者コメントを精査し、具体的な改善策を決定した。

(5) 利用者女子会の改編とモノづくり活動の導入

毎月1回開所日において海岸から流木を回収し、モノづくり活動を実施した。

3 職員の状況

職名	所長	副主任 支援員	支援員	事務員	調理員	技能員	運転員	合計 (人)
職員数	1	2	4	2	4	2	4	19

4 利用者の状況

区分	就労移行 支援事業	就労継続支援 B型事業	合計 (人)	就労定着 支援事業(人)
定員	6	30	36	
年度当初 利用者数	7 (男7・女0)	33 (男27・女6)	40 (男34・女6)	2 (男2・女0)
年度末 利用者数	9 (男8・女1)	33 (男28・女5)	42 (男36・女6)	5 (男5・女0)

※平均年齢（令和5年度末）＝全体：36歳（男性：35歳・女性：46歳）

5 事業の実施状況

(1) 事業概要

① 就労移行支援事業

一般就労を希望する方に、職場実習や一定期間の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行った。

期間	人数	実習場所
6/19～6/23	1	ライフサポートあおぼ
7/18～7/20	1	JR盛岡鉄道サービス(株)
8/21～8/25	1	(株)東洋社
8/29～9/8	1	秀永商事(株)
8/28～8/30	1	特別養護老人ホームすこやか苑
9/4～9/12	1	イオン東北(株) MAXValu 平内店
11/6～11/17	1	就労サポートセンターさつき(事務補助)
11/6～11/10	1	(株)東洋社
11/27～12/8	1	げんねんワークサポート(株)
12/11～12/15	1	(株)ビジネスサービス青森支店
1/15～1/19	1	丸大堀内(株)青森支店
2/19～3/4	1	特別養護老人ホームホームすこやか苑

② 就労継続支援B型事業

一般企業等での就労が困難な方に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練等を行った。

(2) 生産活動の売上状況

(円)

班名	令和5年度(A)	令和4年度(B)	前年比(A-B)
農産・請負班	14,702,549	11,743,033	2,959,516
清掃・請負班	753,600	753,600	0

リサイクル班	9,489,481	10,535,125	△1,045,644
就職専科			
計	24,945,630	23,031,758	1,913,872

(3) 工賃及び賃金の支給状況

区 分	就労移行支援		就労継続支援B型	
	延人数 (人)	支給金額 (円)	延人数 (人)	支給金額 (円)
年間合計	79.2	1,527,012	302.4	9,878,382
1人当たり 月平均額	6.6	19,280.5	25.2	32,666.6

注：月途中の契約開始及び解除利用者は除外している。

(4) 就職に向けた取組(職場見学)

月日	人数	見学先
5/12	2	(株)オカムラ食品工業
6/8	1	ライフサポートあおば
6/15	4	(株)東洋社
6/27	1	(株)JR盛岡鉄道サービス(株)
7/12	1	秀永商事(株)
7/20	2	モルトン迎賓館(イマジン(株)調理補助業務)
8/17	1	特別養護老人ホームすこやか苑
10/24	1	げんねんワークサポート(株)
11/24	1	(株)ビジネスサービス
12/1	1	げんねんワークサポート(株)
12/7	1	丸大堀内(株)青森支店
1/29	1	特別養護老人ホームすこやか苑

(5) レクリエーション等 (行事関係)

月	レクリエーション (土日開所)	地域交流活動等
4月	<ul style="list-style-type: none"> カラオケ体験/サッカー体験 スターラボ/保護者懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> 茂浦地区清掃
5月	<ul style="list-style-type: none"> 夜越山クロスカントリー大会 春の大掃除/スターラボ 菜の花マラソン ラインメール青森観戦 	<ul style="list-style-type: none"> だいすき海岸清掃奉仕
6月	<ul style="list-style-type: none"> 臨時買い物物体験 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 地引網交流体験 夏のバーベキュー/スターラボ 臨時青森矯正展(物販) 臨時日中活動支援 大運動会 臨時青一高養(ボッチャ) 	<ul style="list-style-type: none"> 夏泊ほたて海道トンネルマラソン施設開放 就労サポートセンターさつき大運動会
8月	<ul style="list-style-type: none"> 障害者スポーツ大会事前練習/映画鑑賞/スターラボ 浅虫水族館見学 臨時ドライブ(青森空港、アップルヒル) 障害者スポーツ大会 	<ul style="list-style-type: none"> だいすき海岸清掃奉仕
9月	<ul style="list-style-type: none"> 臨時シニアフェスティバル 浅虫マラソン大会 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時ドライブ(道の駅しちのへ) ・秋の大掃除/スターラボ 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・アップルワークボウリング大会 ・臨時平内町夜越山ワンダートレイル ・臨時秋のドライブ(紅葉狩り) ・秋のバーベキュー 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・バトミントン体験/焼きそば作り/スターラボ ・臨時ドライブ(道の駅よこはま) ・バスケット体験/クレープ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・だいすき海岸清掃奉仕
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・大収穫祭 ・利用者忘年会(ビジネスマナー講座含む) ・年末大掃除/スターラボ(ビジネスマナー講座含む) 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・カラオケ体験/サッカー体験(ビジネスマナー講座含む) ・ドッチボール体験/スターラボ(ビジネスマナー講座含む) ・ソフトバレー体験/調理実習(ビジネスマナー講座含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・茂浦青年団権現舞訪問
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・冬のバーベキュー/スターラボ(ビジネスマナー講座含む) ・冬の大掃除 ・臨時ドライブ(道の駅しちのへ)(ビジネスマナー講座含む) 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・カラオケ体験/スターラボ(ビジネスマナー講座含む) ・映画鑑賞/フライングディスク体験(ビジネスマナー講座含む) ・歓送迎会(ビジネスマナー講座含む) 	

(6) 送迎体制

コース名	行き先
平内町(野辺地)	小湊、清水川、野辺地
青森市内(東方面)	小柳、戸山、諏訪沢
青森市内(山通り)	観光通り、筒井、戸山
青森市内(浜通り)	青森駅、浪打、八重田

(7) ボランティアの受入れ

土日開所日、大運動会及び大収穫祭において、学生及び地域住民をボランティアとして年間延べ44人受け入れた。

(8) 苦情解決事業等

毎月1回、第三者委員(4人)と面談する機会を設けたほか、随時相談を受ける体制を整備した。なお、実施については虐待防止対応規程と連動し対応した。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計(件)
受付件数	0	0	0	0	0
解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

(9) 健康管理

次亜塩素酸ナトリウム水溶液による施設内消毒を実施したほか、うがい薬によるうがいと手洗い及びアルコール消毒を利用者に励行し、また、感染症の流行期間においては、利用者に対して感染症の予防方法など説明するなどして注意を促し、感染の防止に努めた。

新型コロナウイルス蔓延防止対策として、厚生労働省の通知に基づき、毎朝自宅において検温し、発熱していないことを確認してから送迎車両に乗ることを徹底した。事業所では外部の訪問者は玄関までとし、事業所内はすべて職員が中継して対応した。

(10) 安全管理・防災対策

火災による避難訓練を年2回（8月30日、2月21日）実施し、利用者の安全確保に努めた。

(11) 所内会議等

会議名	回数
質の向上推進会議	年4回
給食会議	毎月1回
事業所会議	毎月1回

(12) 職員研修関係

事業所内での勉強会や法人内他部署での実地研修をはじめ、県内で実施する各種研修等に職員を派遣した。

また、支援技術や生産技術の向上を図るための専門的な研修へも積極的に派遣した。

(13) 広報関係

- ① パンフレット・事業概要作成配布
- ② 広報紙「でんでん」年3回発行配布
- ③ ホームページ開設
- ④ 見学者（養護学校教諭・生徒）の積極的な受入れ

(14) 放課後子ども教室（平内町からの受託事業）の運営状況

- ① 営業日 毎週月～金曜日
- ② 営業時間 14:30～18:00（ただし、小学校長期休業期間は8:00～17:00）
- ③ 利用契約者 31人
- ④ 協働活動支援員 5人
- ⑤ 地域コーディネーター 1人

【令和5年度の実績】※上段：令和5年度、下段：令和4年度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働日数 (A)	18	20	21	18	20	19	20	18	19	17	17	20	227
	20	19	22	19	16	19	14	20	19	17	16	21	222
延利用者数 (B)	108	66	80	131	185	77	75	62	102	107	60	104	1,157
	105	74	81	132	175	63	42	63	84	101	38	110	1,068
1日当たりの 平均利用者数 (B÷A)	6	3.3	3.8	7.2	9.2	4.0	3.7	3.4	5.3	6.2	3.5	5.2	5.0
	5.3	3.9	3.7	6.9	10.9	3.3	3.0	3.2	4.4	5.9	2.4	5.2	4.8

(15) 青森障害者就業・生活支援センターすこやか事業

年度末登録者数は672人、年度内新規登録者数は134人であった。

- ① 障害者に対する支援の実施状況

来所、電話、職場・家庭・利用施設への訪問等で、就業に向けた相談・支援、職場定着に向けた相談・支援、日常生活・社会生活に関する相談・支援・助言等を、5,037件実施した。

実習あっせん件数は92件、就職件数は84件であった。

② 事業主に対する支援の実施状況

雇入れに関する相談・支援、障害者の職場適応・職場定着に関する相談・支援、雇用する障害者の生活面に関する相談・支援、障害者の雇用支援制度に関する相談・支援等の支援を1,486件実施した。

③ 関係機関との連携を含む活動状況

地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等を11件、職場定着促進のための在籍者交流活動を3件、ピアサポート活動を1件実施したほか、他支援機関への助言・支援、センター利用者の個別支援に関するコーディネート、関係機関とのネットワーク構築、研修会等の開催等、障害者の日常生活および地域生活に係る関係機関との連絡調整を実施した。

第9 特別養護老人ホームすこやか苑

1 概況

すこやか苑の運営にあたっては、「基本理念」と「基本方針」の実現に向けて、入居者の意思及び人格を尊重し、常に入居者の立場に立ったサービスの提供に努め、入居者の能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援した。

入居者の権利擁護の推進にあたっては、年2回研修会を実施したほか、虐待防止・身体拘束廃止委員会を中心に、年2回の虐待の芽チェックリストで自己評価後、全体で振り返りと気になる言動についての意見交換を行い、虐待防止に努めた。

地域や家庭との結びつきについては、これまでユニット外でのリモートやスクリーン越しの面会であったが、7月からはユニット内での対面面会に切り替えた。9月と12月に新型コロナウイルス感染症が発生したため、一時的に交流や面会を中断した時期もあったが、感染状況を見ながら再開した。ボランティアについても間接的な作業の受入れを始め、アロマハンドマッサージや行事運営補助、介護業務の体験等、延べ18人の受入れを行ったほか、地域貢献活動や家族連絡会等の交流する機会を持った。また、入居者の受入れについても、居宅介護支援事業者や保健医療機関等と密接な連携を図りながら総合的なサービスの提供に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 入居者主体の支援

施設サービス計画については、3か月ごとにサービス担当者会議を開催し、見直しを行った。可能な限り本人や家族にも参加してもらい、個別の期待や要望、望む生活が実現できるように努めた。

個別性の強化については、各ユニットでケース担当職員が中心となり、24Hシートの見直しを実施したが、充分活用することはできなかった。

(2) 医療的ケアの充実

看取りケアを含む医療的ケアの研修会を実施し、医療的ケアの充実を図ったが、喀痰吸引等の研修については、人員不足から参加を取り止めた。有資格者は、手技が衰えないよう月1回特定行為の実施に努めた。

(3) 人材確保と定着

事務局キャリア支援課と連携し、人材の確保に努めたほか、介護福祉士養成校へのPR活動を行った。令和5年度の新採用者は10人（正職員6人、準職員4人）で、離職防止のための面談と個々に合わせたOJTを実施した結果、離職者は1人のみであった。

(4) 安定的な経営基盤の確保

地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護では、目標数値を0.2人上回り平均入居者数28.8人、短期入所生活介護では、目標数値を0.93人下回る平均入居者数7.8人であった。職員のマンパワー不足から、空床期間の短縮化を図ることができなかった時期があった。

新たな加算取得を検討したが、体制等の準備が整わず算定できなかった。

(5) 職場環境の改善

介護機器については、1種類（床走行式リフト）試用したほか、昨年度試用した機器を1台導入した。移乗ボード等の各種福祉用具について、各ユニットの現状に合わせ、必要とされる用具を揃えることができた。また、ノーリフティングケア外部研修

に参加した職員が伝達研修を行い、現場で活かせる技術の習得に努めた。

働きやすい職場づくりの体制強化については、可能な限り希望休を組み込んだシフト表の作成や夜勤明け後の休日調整を行った。

3 職員の状況

職名	施設長	医師	生活支援課長 (生活相談員)	看護職員	介護職員	介護支援 専門員
人数	1	1(非常勤)	1	3	18 【20】※2	1
職名	栄養士	機能訓練 指導員	事務員	専任当直員		計
人数	1	1	1	3		31

【備考】職員全般は、併設短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護の職員兼務。
※管理者・介護支援専門員は介護職員兼務のため【20】に含む。

4 職員研修

外部研修や法人内研修へ職員を派遣したほか、苑内で次の研修会を実施した。

名称	実施時期等	参加者数	備考
新任職員研修会	4/26 7/5 9/5～13 11/1	計9人	高齢者施設の基本的知識として、施設理念・事業計画、ユニットケア・介護保険制度、高齢者虐待防止・身体拘束廃止・リスクマネジメント、移乗技術、高齢者の疾病と緊急対応、防災対応など
救命救急研修	4/26、11/29	計39人	急変・緊急時の対応方法、観察項目、報告手順など
感染症対策研修	5/31、10/31	計38人	食中毒や感染症予防策、嘔吐時処理手順、ガウンテクニックなど
高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	6/28 9/27、28、29	計49人	虐待の5種類・虐待と認知症の関係 事前アンケートの実施と虐待の芽チェックリストの実施による自由記述内容に基づく意見交換など
リスクマネジメント研修	7/19、12/27	計42人	事故防止の知識・ヒヤリハットの目的と意義 危険予知トレーニングなど
口腔ケアに関する研修	8/30、3/6	計23人	歯科衛生士より要介護高齢者に対する口腔ケアについて 口腔ケアの重要性とその方法など
薬に関する研修	1/31	計15人	薬の作用と役割 薬効に影響する食べ物など
看取りケア研修	2/28	計13人	看取りケアの基本・看取りとは 看取り時に必要な知識や身体的変化など

5 行事

(1) 年間行事・クラブ活動

名称	実施時期等	参加者数	備考
夏祭り・居酒屋	7/22	35人	夏にちなんだアトラクションや飲食を提供し、季節を感じてもらった
ねぶた観覧	7/28	39人	すこやか苑・安生園合同ねぶた運行を観覧した

敬老会	9/20	31人	明の星短期大学附属幼稚園の園児によるお遊戯や劇等で敬老の日をお祝いした
あんみつ作り	10/27	21人	豆植えから収穫までした、すこやか苑産大納言であんみつ作りを行った
ミニ運動会	11/8	31人	ユニット対抗で玉入れや物品渡しリレー、的当てなどの競技を行った
新年会	1/10	34人	新年に因んだアトラクションと職員による踊りや歌を提供し、季節を感じてもらった
手踊り演舞観覧	2/17	33人	石川吉梅会の子供達による手踊り演舞を観覧した
家族連絡会	3/16	15人 (家族)	令和5年度ニーズアンケート結果報告と令和6年度事業計画について説明、懇談した。

(2) クラブ活動

名称	実施時期等	参加者数	備考
書道クラブ	月1回	延130人	4/26、5/24、6/21、7/26、8/23、9/27 10/25、11/29、12/27、1/24、2/15、3/27
星取りクラブ	年6回	延36人	5月場所、7月場所、9月場所、11月 場所、1月場所、3月場所
音楽体操クラブ	年5回	延134人	4/16、6/14、8/9、10/11、2/14

(3) 会議・各種委員会等

名称	実施時期等	参加者数	備考
全体会議	年12回	各回 約15人	施設長からの指示事項ほか、協議伝達等
ユニットリーダー会議	年12回	各回5人	ユニットリーダーを中心にユニット運営について協議
給食会議	年12回	各回7人	嗜好に合わせた献立、味付け、調理方法（食形態）の検討
サービス担当者会議	地域131回 短期20回	各回 約7人	施設サービス計画や短期入所生活介護計画書作成など介護方針の協議決定
運営推進会議	年6回	各回 約6人	施設運営の現状報告、課題等への助言等
苦情解決協議会	年4回	6人	各種苦情解決へ向けての協議 (苦情：0件)
苦情解決第三者委員 相談日	年12回	延44人	第三者委員が輪番制で訪問し、苦情、要望の聞き取りを対面で実施
入所判定会議	年6回	各回 約6人	入居者の決定に当たり、決定過程の公平性・透明性を確保
リスクマネジメント・ 感染症対策委員会	年12回	各回 約9人	月ごとの事故分析・対策検討 食中毒・インフルエンザ・新型コロナウイルスなど感染症対策について協議
虐待防止・身体拘束廃 止委員会	年14回	各回 約7人	虐待が疑われる案件や身体拘束が疑われる案件等について協議
褥瘡・排泄ケア委員会	年4回	各回 約6人	褥瘡予防改善に向けた検討 排泄ケアについての問題点を検討
ノーリフティングケア 推進委員会	年4回	各回 約9人	介護機器やノーリフティングケアの導入に向け検討及び腰痛調査、職場環境調査の実施
看取り介護実施委員会	年4回	各回 約10人	看取り介護の振り返りと指針やマニュアルの見直し
研修委員会	年4回	各回 約6人	内部研修・研究発表に関する企画・実施

防災委員会	年3回	各回 約9人	防災マニュアルの整備や防災訓練の企画運営など
-------	-----	-----------	------------------------

6 健康管理

内 容	実施時期等	対象者	備 考																												
バイタルチェック	入浴日 ほか随時	全入居者	体温・血圧・SPO2・一般状態や皮膚状態の観察等																												
体重測定	毎 月	全入居者	低体重者は1回/2週間測定																												
配置医診察	毎週木曜日	全入居者	入居者の診察・薬の処方・検査や通院等の指示等																												
通院・往診	随 時	通院が必要な入居者	(通院) <table border="1"> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>2人</td> <td>消化器内科</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>整形外科</td> <td>0人</td> <td>精神科</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>皮膚科</td> <td>19人</td> <td>神経内科</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>外科</td> <td>3人</td> <td>認知症外来</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>耳鼻科</td> <td>0人</td> <td>循環器内科</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>歯科</td> <td>0人</td> <td>救命救急</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>脳神経外科</td> <td>1人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※歯科往診27人 ※延人数、短期入所利用者除く	泌尿器科	2人	消化器内科	5人	整形外科	0人	精神科	0人	皮膚科	19人	神経内科	0人	外科	3人	認知症外来	0人	耳鼻科	0人	循環器内科	4人	歯科	0人	救命救急	2人	脳神経外科	1人		
泌尿器科	2人	消化器内科	5人																												
整形外科	0人	精神科	0人																												
皮膚科	19人	神経内科	0人																												
外科	3人	認知症外来	0人																												
耳鼻科	0人	循環器内科	4人																												
歯科	0人	救命救急	2人																												
脳神経外科	1人																														
予防接種	11月(7回目)	入居者	新型コロナウイルスワクチン インフルエンザワクチン																												
口腔ケアに係る技術的助言及び指導	月1回	看護職員 介護職員	歯科医・歯科衛生士による助言指導																												
機能訓練	週2回程度	全入居者	機能訓練計画書による個別機能訓練 短期入所利用者は集団体操																												
訪問理美容	第三水曜日 ほか	175人 ※延人数	訪問美容：毎月第三水曜日 訪問理容：毎月第三木曜日																												

7 安全・防火管理

防災訓練（避難訓練）のほか、消防機器の法定点検・自主点検を実施した。

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
防災訓練（地震・夜間火災想定・消火・通報・AED使用訓練）	5/31	49人	職員24人、入居者25人
防災訓練（水害想定・必要物品搬出・非常食の試食）	7/19	30人	職員19人、入居者11人
防災訓練（火災想定・通報・消火・避難・地域防災協力隊の見学）	10/21	65人	職員23人、入居者26人 地域防災協力隊16人

8 地域（住民・ボランティア）との連携と地域貢献

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
苑外周の除草	4/28	2人	ボランティア
虹ヶ丘町会 春の清掃	5/8	4人 (職員)	地域貢献
苑外周の除草	5/10	2人	ボランティア

浜館地区社会福祉協議会 こころの縁側事業 レクリエーション講師	5/17	1人	地域貢献
車椅子清掃	5/22	1人	ボランティア
虹ヶ丘町会 ひまわり通り花壇の花植え	5/29	4人 (職員)	地域貢献
清拭布の裁断・外出付添い	6/2	1人	ボランティア
車椅子清掃	6/15	3人	ボランティア
居室替え	7/12	2人	ボランティア
虹ヶ丘町会夏祭り会場設営	7/29	5人 (職員)	地域貢献
アロマハンドマッサージ	8/29	1人	ボランティア
青森市東部包括支援センター 認知症カフェ レクリエーション講師	10/28	2人 (職員)	地域貢献
ミニ運動会補助	11/8	1人	ボランティア
車椅子清掃・清拭布の裁断	11/14	1人	ボランティア
職業体験	11/27～29	3人	ボランティア
アロマハンドマッサージ	2/15	1人	ボランティア

9 実習の受入れ

内 容	実施時期等	参加者数	備 考
2023年度青森明の星短期大学介護実習	9/1～9/20	2人	青森明の星短期大学1年生
令和5年度青森県立保健大学社会福祉基礎実習Ⅰ	7/5	4人	青森県立保健大学1年生
令和5年度青森県立保健大学ソーシャルワーク実習Ⅱ	8/1～9/1	1人	青森県立保健大学3年生
就労移行支援事業 職場実習	8/28～30	1人	就労サポートセンターさつき 就労継続支援B型利用者
令和5年度青森県立保健大学ソーシャルワーク実習Ⅰ	10/30～11/15	1人	青森県立保健大学2年生
就労移行支援事業 職場実習	2/19～3/4	1人	就労サポートセンターさつき 就労継続支援B型利用者

10 事業概要

I 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（ユニット型）

(1) 概 況

ユニットケアの理念に基づいた個別支援に重点を置き、入居前と入居後の生活が連続したものになるよう、入居者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重しながら各ユニットにおいて相互に社会的関係を築き自律的な日常生活を営むことができるよう支援した。

令和5年度の入退居状況については、入居が6人、退居が4人という状況であった。平均介護度は4.2、平均年齢は89.6歳だった（令和5年度末時点）。

稼働率は、平均98.3%で前年度比5.3%上回った。目標数値についても0.2人上回る平均入居者数28.8人の結果となった。

第2、第3四半期には新型コロナウイルスの発生に伴い、一時的に受入制限を設けたほか、介護スタッフの欠員補充が整わない状況の中、多職種が連携し、入居者主体の支援に努めた。

【稼働率と実数】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働率(%)	96.4	100	100	99.0	98.8	96.8	97.6	94.0	96.9	100	100	100	98.2 (平均)
実数(人)	839	899	870	890	888	842	877	818	871	899	841	899	10,433

(2) 定員

29人（10人×2ユニット、9人×1ユニット）

II 短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護

(1) 概況

居宅の要介護者等に、入居者の自律生活を保障する個室と、少人数の家庭的な雰囲気の中で生活できるユニットケアを提供するとともに、その家族の身体的、精神的負担を軽減できるようサービスを提供した。

令和5年度の新規契約者数は16人、平均介護度は3.4、平均年齢は85.6歳だった（令和5年度末時点）。

稼働率は、平均79.0%で前年度比を7.5%上回ったが、目標数値を0.93人下回る結果となった。新型コロナウイルス等の感染症対策に留意する中で、居宅介護支援事業者及び保健医療関係機関等と連携しながら、新規入居者の獲得と継続性のある利用に努めた。

【稼働率と実数】

※月末時点

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
稼働率(%)	81.0	82.9	85.7	86.1	91.9	87.3	71.0	65.0	68.7	73.2	69.3	86.1	79.0 (平均)
実数(人)	243	257	257	267	286	262	220	195	213	227	201	267	2,895

(2) 定員

10人（10人×1ユニット）

※上記ほか、併設・空床利用型であるため、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護における空きベッド利用可。

III 入退居状況

地域密着型入所者生活介護		(介護予防)短期入所生活介護	
定員	29人	定員	10人
令和5年度内新規入居者数	6人	令和5年度内延入居者数	140人
令和5年度内退居者数	4人	令和5年度内延入居件数	2,894人
令和5年度末現在の入居者数	29人		

第10 就労サポートセンターはくちょう

1 概況

令和5年度の運営にあたっては、事業所の理念に基づき、就労継続支援B型事業と共同生活援助事業を一体的に運営した。特に、権利擁護の推進、人権尊重を支援の根幹とし、利用者一人ひとりの思いや価値観を大切にする等、日々の生活に生きがいを持てるよう支援の充実に努めた。

就労継続支援B型事業では、経営基盤の強化に向け新規利用者の獲得、年間利用率の向上に向け障害特性に合わせた生産活動の提供を行い、利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めた。さらに、地域漁業関係者との繋がりを大切にし、ホタテ養殖資材加工等の水福連携に努めるほか、行政、福祉施設、市内の企業等と連携を図り安定した生産活動の提供に努めることができた。

共同生活援助事業においては、地域において自立した社会生活、日常生活を営むことができるよう支援体制の充実に努めた。さらに、多様化する個別のニーズに対し適切な福祉サービスが提供できるよう各種研修へ積極的に参加し、福祉サービスの向上と職員の資質向上に努めた。入居者の高齢化も顕著であり、本人の希望により一般就労から福祉的就労へ1人の方が移行した。また、疾病により入院中に1人の方が亡くなった、

感染症対策では、新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類から5類へ移行したが、入居者の大半が基礎疾患を有し罹患することで重篤化するリスクが極めて高いことから、継続した感染症対策を行った。しかし、年間を通し10人を超える新型コロナへの罹患が確認され、一時的に制限を行う結果となった。

災害対策では、コロナ禍により希薄化していた地域自治会との関係性を構築することを目的に、地域、行政、事業所での防災に向けた研修会を実施し、地域で想定される災害について理解を深めた。

地域貢献・地域交流については、例年参加している地域の清掃奉仕活動、駅前の花壇整備、平内町主催のイベント等へ積極的に参加し地域住民との交流及び事業所（グループホーム含む）の理解促進に努めた。

2 重点事項の実施状況

(1) 利用者の特性に応じた支援体制の構築（共通）

多様なニーズに対し、質の高い適切なサービスが提供できるよう、研修計画に則った事業所内外の研修（オンライン研修含む）へ積極的に参加し専門性の向上に努めた。

権利擁護の推進については、セルフチェック（毎月）、コンプライアンスチェックの実施（年2回）を事業所内外の研修（オンライン含む）を実施し啓発に努めた。

(2) 安定的経営基盤の構築（共通）

就労継続支援B型事業においては、2人の方と新規契約を締結し、2人の方が契約解除となった。1日あたりの平均利用者数は20.5人、利用率については100%を超える利用率（102%）を維持することができた。

共同生活援助事業においては、新規利用者獲得に向け相談支援事業所及び関係機関等と連携を図り、年度内に2人の方と新規契約を締結した。しかし、1人の方が疾病により入院中に死亡、残る1人も障害特性により共同生活が困難になったことから2人の方が契約解除となった。

(3) 感染症予防、災害発生時における管理体制の整備（共通）

感染症委員会を中心に、各種マニュアル（BCPを含む）の見直しと外部講師による利用者向けの学習会を実施し意識付けを行った（8/18 口腔衛生に関する学習会）。さらに、地域で想定される自然災害等（水害、地震、土砂災害）の非常事態に備え、防災マップを基にした地域住民合同の学習会を実施し、災害対策の強化に努めた。

(4) グループホーム運営に係る体制整備（共同生活援助事業）

老朽化に伴い修繕等が必要なグループホームについては、所有者へ情報提供を行うとともに、平内町内を中心に新たなグループホームとして見込める物件を不動産業者、平内町空家等バンク制度を活用しながら情報収集を行ったが、築年数が相当経過している等、新たな物件として見込めなかった。

(5) 生産活動の充実（就労継続支援B型事業）

新型コロナウイルス感染症及び物価高騰等の社会情勢により、受注減少していた請負作業については、地域の企業から新規請負作業を受注するほか、収益性の高い生産活動の拡充と利用者の障害特性に見合った生産活動の充実に努めた。

3 職員の状況 ※（ ）兼務

職名	所長	副主任支援員 (サビ管)	支援員	事務員	世話人	調理員	合計 (人)
就労継続支援B型事業	1	1	4 (1)	1		3	10
共同生活援助事業	(1)	1	2 (1)	(1)	6		9
計	1	2	6	1	6	3	19

※管理者は両事業の管理者を兼務

共同生活援助事業のサービス管理責任者は支援員を兼務

共同生活援助事業の支援員1人は就労継続支援B型事業の支援員を兼務

4 職員研修（共通）

人材育成実施要綱及び研修計画に基づいた事業所内外の各種研修へ積極的に参加するとともに、オンライン研修の充実を図り、専門的知識の習得と質の高いサービス提供に向け職員の資質向上に努めた。

5 年間行事

月	就労継続支援B型事業	共同生活援助事業
4月	浅所海岸清掃ボランティア	
5月	保護者懇談会	保護者懇談会 ドライブ外出
6月	大掃除、利用者の会 避難訓練（地震、津波、炊き出し体験）	避難訓練（火災想定） 地域交流（小湊駅前花壇整備）
7月	避難訓練（火災想定）	
8月	大掃除	調理実習
9月	不審者対応訓練、利用者の会	不審者対応訓練
10月	浅所海岸清掃ボランティア	
11月		避難訓練（風水害想定）

12月	利用者の会、大掃除	クリスマス会
1月	避難訓練（火災想定）	食事会
2月	苦情等解決協議会（虐待防止委員会含む）	苦情等解決協議会（虐待防止委員会含む）
3月	利用者の会	

※ 共同生活援助事業で予定していた利用者旅行（日帰り）については、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、各グループホーム内での行事に変更した。

【定例行事】

内 容	回 数	備 考
体重測定 誕生日プレゼント贈呈	毎月1回	就労継続支援B型事業のみ
苦情相談日（第三者委員）	毎月1回	共通

6 健康管理（共通）

利用者の健康状態の把握と疾病の早期発見に努めた。新型コロナウイルス感染症対策では、感染症委員会を中心に感染症対応マニュアル及びBCPを見直し、感染症発症時の対応と感染拡大防止に努めた。

就労継続支援B型事業においては、外部講師（歯科衛生士会）による、口腔衛生に関する学習会を開催し、利用者へ歯磨きの大切さを意識付けした。

7 安全管理・防災対策（共通）

防災計画に則り、火災、地震、風水害を想定した避難訓練を計画的に実施し、利用者の安全確保と緊急時の対応に備えた。さらに、非常時を想定した炊き出し体験（ポリ袋で米を湯煎）を実施し、災害に対する意識付けと備えを共有した。

事業所内外における利用者の事故防止については、リスクマネジメント委員会を中心に再発防止策を検討し、職員間で情報共有に努めた。

不審者対応訓練については、危機管理マニュアル（不審者用）に基づき、関係機関への通報、利用者の退避誘導、刺股の使用方法等、一連の手順を確認、体得した。

《避難訓練実施状況》

就労継続支援B型	グループホームスワハム(第1・2・3)
6月23日（地震、津波想定） 炊き出し体験実施	6月16日（火災想定）
7月12日（火災想定）	9月28日（不審者対応訓練）
9月28日（不審者対応訓練）	11月27日（風水害想定）
11月10日（地域防災懇談会）	
1月17日（火災想定）	

8 苦情解決事業及び虐待防止対応（共通）

毎月1回、第三者委員と面談する機会を設けたほか、随時相談を受けることができる体制であることを説明して利用を促した。なお、実施にあたっては、虐待防止対応と連動し対応した。

区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計
受付件数	0	0	0	0	0

解決件数	0	0	0	0	0
繰越件数	0	0	0	0	0

9 ボランティアの受入れ（就労継続支援B型事業）

受入人数	延べ日数	備考
1人	25日	余暇活動（将棋相手）

10 実習生等の受入れ（共通）

区分	受入期間	人数	学校等
実習	10月16日～10月20日間（5日間）	1人	青森県立青森第二養護学校
実習	・8月2日～9月14日（23日間） ・10月30日～11月20日（12日間）	2人	青森県立保健大学

11 社会参加の促進（地域貢献・地域交流）（共通）

- ① 平内町白鳥を守る会主催の浅所海岸清掃奉仕活動（4月、10月）へ延べ35人の利用者、職員が参加し、地域貢献と地域住民との交流を図った。
冬期間においては、浅所海岸の除雪作業を行った。
- ② グループホーム第2スワンハイム近隣住民との交流及び事業所の理解促進を図るため、小湊駅前の花壇整備活動に参加した。
- ③ ハクチョウのまち再生事業（平内町教育委員会）実行委員会にオブザーバーとして参加し、地域の環境保全に努めた。
- ④ 近隣保育園との交流については年4回実施し関係性の維持に努めた。さらに、貴保育園の運動会に合わせ、園児の練習の場として当該事業所のグラウンド整備とグラウンドの開放に協力した。

12 広報関係（共通）

事業所リーフレット及び広報紙（年3回発行）を作成し、関係機関及び団体等に配布した。また、ホームページ等により事業所のPR活動に努めた。

13 所内会議・委員会（共通）

会議名	回数	備考
臨時全体会議	年1回	事業計画、指示・連絡事項
事業調整会議	年3回	事業計画、事業報告、事務分担等における協議
就労・生産支援会議	毎月1回	利用者支援及び生産活動について協議
GH（世話人）会議	毎月1回	共同生活を営むための相談、日常生活上の援助について協議
給食会議（利用者）	毎月1回	嗜好に合わせた献立、食生活における注意点の協議伝達
事業所会議	毎月1回	管理者からの指示事項ほか、協議伝達等
モニタリング調整会議	年2回	利用者の生活支援、作業支援について、個別支援計画を策定

委員会	回数	備考
虐待防止委員会	毎月1回	SDSチェック、虐待防止研修、啓発活動等
環境整備委員会	年3回	グラウンドの除草及び花壇整備、事業所内の大掃除 屋上排水溝の枯葉除去等
リスクマネジメント委員会	毎月1回	事故の検証及び再発防止策の検討
感染症対策委員会	年4回	感染症対策の見直し、マニュアル整備、利用者向け 学習会の企画・運営
危機管理委員会	年4回	自然災害等を含む不測の事態に備え、訓練の計画、 実施、振り返り
給食委員会	年4回	給食の内容、評価、検討等
サービスの質の向上委員会	年6回	提供する福祉サービスの向上に向けた検討

14 事業の実施状況

I 就労継続支援B型事業

(1) 定員 20人

(2) 概要

雇用契約に基づく就労が困難な利用者へ生産活動及びその他の活動の機会を提供し、就労に必要な知識や作業技術の向上に向けた支援を行った。

(3) 支援目標

- ① 利用者が持てる力を活かし、働く喜びと達成感を感じてもらえるよう、利用者一人ひとりの障害特性、心身の状態に合わせた生産活動を提供した。
- ② 多様なニーズに対し適切な支援が提供されるよう、利用者、家族の同意を得た上で、関係機関等を含めた情報共有に努めた。
- ③ 生産活動に加え、利用者からの要望に応え卓球用具や運動器具等を充実させ、利用者の健康増進と体力作りに努めた。

(4) 利用者の状況

区分	就労継続支援B型事業	備考
定員	20人	
年度当初利用者数	25人 (男19人、女6人)	
年度末利用者数	25人 (男19人、女6人)	契約2人、解除2人
平均年齢 (令和5年度末)	37歳 (男：39歳、女35歳)	

(5) 生産活動

請負作業、清掃作業を中心に、働くことへの意欲及び作業技術の向上を図ることを目的に、実践的な作業の場として事業所内外の就労の機会を提供した。

(6) 生産活動の売上状況

内容	金額	主な作業内容
清掃	3,021,312円	近隣福祉施設、公共トイレ及び当事業所の一般清掃
請負	1,813,514円	漁業資材加工、連携商品製造、企業からの受注作業、除雪等
計	4,834,826円	

(7) 工賃の支給状況

区 分	支給計画	支給実績	備 考
1人当たりの月平均支給額	13,889円	17,404円	平均工賃月額、令和5年度の工賃支払い総額÷開所日1日あたりの平均利用者数÷12月 ※工賃には、一時金(年2回)を含む

(8) 送迎体制

送迎車両4台体制で利用者の送迎を行った。

コース名	行き先
Aコース	小湊、東滝、東和
Bコース	内童子、小湊
Cコース	小豆沢、小湊、盛田
Dコース	浜子、清水川、東北町

II 共同生活援助事業

(1) 定員 19人

(2) 概 要

地域で共同生活を営む利用者に、食事の提供や金銭管理、健康管理等、日常生活上の援助や相談を行った。

(3) 支援目標

- ① 日々の生活に楽しさと充実感を感じられるよう、利用者一人ひとりのニーズに寄り添った支援を行った。
- ② 将来的に、高齢者施設等の入所施設を希望される利用者、家族へ意向の確認と情報提供を行い、必要時にはスムーズな施設移行ができるよう努めた。
- ③ 建物の老朽化に伴い、修繕が必要な場合は都度、所有者へ情報提供を行うとともに、移転に向けた不動産情報を収集したが、築年数が相当経過する等、新たな物件として見込めなかった。

(4) 利用者の状況

区 分	共同生活援助事業	備 考
定 員	19人	
年度当初利用者数	17人 (男12人、女5人)	
年度末利用者数	17人 (男12人、女5人)	契約2人、解除2人
平均年齢 (令和5年度末)	46歳 (男44歳、女48歳)	

(5) 地域交流・地域貢献

第2スワンハイム周辺の地域住民との交流及び事業所の理解促進を図るため、例年実施している小湊駅前の花壇整備活動に利用者5人、職員3人が参加した。